

令和4年度 いのちの授業 事例集（小学校）【道徳】

掲載数

418

地区	学年	教科等	テーマ	内容	参考事項（講師・教材等）
1 川崎市	小2	道徳	大切な自然と命	道徳の教科書の中から『かえってきたホテル』を通して、自然環境と命のつながりについて考えた。ホテルを守ろうと、川の清掃活動に取り組む主人公や人々の姿を通して、生き物が生きている身近な自然や動植物に優しい心で接し、大事に守り育てることの大切さを考えた。生活科で生き物を育てていることと関連させて、「命」を預かり、育てていることを再認識させ、生き物とのかかわり方を意識させた。	
2 川崎市	小2	道徳	ぼくのいのち、わたしのいのち	道徳の教科書の中から『空色の自転車』を通して、命はどうして大切なのかについて考えた。車にはねられ、生死をさまよった主人公や、彼を見守る周囲の人々の姿を通して、命の大切さ、周りの人に支えられているかけがえのない命であることを再認識させた。ウェビングマップを書くことで、自分がどのような人とつながり、支えられているのかも可視化した。	
3 川崎市	小5	道徳	SOSの出し方	導入で自分自身を振り返り、児童それぞれの好きなものを思い起こした。好きなものやことについて考えている時は心が温くなる一方で、誰しも心の痛みを感じながら過ごしているということを知った。心の痛みに気づかず過ごしていく恐ろしさについて動画を見ながら確認し、友だちとの話し合いを通して、自分に合った心の痛みの解消方法を学んだ。自分の心の中に潜む痛みを放置せず、自分で気づき労わっていくことで命を守ることもつながると知り、痛みの解消への実践意欲をもっていた。	教育相談センター「SOSの出し方教育」
4 川崎市	小1	道徳	生命の尊さ 「ちいさなふとん」	生まれたばかりの弟を見た主人公が、かわいらしさとその小ささを実感し、自分もこんなに小さかったのだと不思議に思ったり、自分自身の成長を感じたりする題材を基に、授業実践をした。弟の手を握った時に「宝物だ」と感じた主人公の気持ちから、命の尊さや大切さを実感していた。また、授業を通して自分の成長について考え、1年生になってできるようになったたくさんを想起して、自分自身の成長と命の大切さについて気付いていた。	

5	川崎市	小6	道徳	「命の旅」	北海道、知床の動物たちの生きる姿、新しい命を残すために死んでいく姿、その命を食べるという人間の営みを通して、「命の旅」の意味について考えさせ、生命は多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを知り、生命を尊重しようとする心情を育てた。子どもたちは、「親から子への命のつながり」や「食べる食べられる命のつながり」や「動物から人への命のつながり」と、さまざまな命のつながりこそが「命の旅」が表しているものだと考えた。自分が生命のつながりの中にいることを自覚し、命はかけがえのないものであることを理解した。	マスの一生について、「ナショナルジオグラフィック」の動画を視聴。 道徳6年教科書
6	川崎市	小2	道徳	空色の自転車	事故に遭い生死をさまよった主人公を描く教材をもとに、命はどうして大切なのかを考えた。主人公の家族の気持ちを考える場面では、「自分の1番大切な息子をどうにかしたい」という児童の発言があり、自分の命を大切に思っているのは自分だけではないことを全体共有した。授業の終わりには、「いのちについてどんなことを考えましたか。」という発問をし、「いのちは一つしかないから大切にしたい」「いのちがないと笑うこともできないから大切にしたい」「みんなと会えなくなるからいのちを大切にしたい」という児童の発言があった。日頃、当たり前がなくなることを考える機会がない児童にとって、命について考える良い機会になったと感じる。	
7	川崎市	小6	道徳	かけがえのない命	主人公信二がゲームをしていて何気なく使っていた「死ね」という言葉。祖父の死をきっかけに、命の意味を深く考えるようになった信二の姿を通して、精いっぱい生きるとは、どういうことなのかを考えた。そして、かけがえのない命を自分らしく精いっぱい生きようとする心情になることをねらった。 子どもたちはイメージマップを使い、自分の生活の中で命を軽視する言動がなかったか話し合いながら振り返った。命の意味を考え、これからの生活に精いっぱい生きたいという感想が多く見られた。	
8	川崎市	小5	道徳	生命の尊さ 「命の詩 - 電池が切れる まで -」	みやこしゆきなさんが書いた命についての詩やエピソードを通して、命の大切さについて考えた。「精一杯生きる」とは、どういう生き方について、話し合った。命のかけがえのなさを自覚し、限りある命を懸命に生きようと振り返ることができた。	光村図書 「きみがいちばんひかるとき」
9	川崎市	小2	道徳	命を大切に 「がんばれア ヌーラ」	病気のゾウが倒れないように、2頭のゾウが寄り添って支えたという実話を通して、命を大切に思う心について考え、話し合った。病気のゾウの命を支えた仲間や、それを見守る飼育員の心情を想像することで、かけがえのない命について考えた。また、授業の最後には「命を大切にすることは、みんなを大切にすること」「自分の命を一番大切にすること、人の命もどっちも同じぐらい大切」などと振り返りをした児童もいた。自分にとって命を大切にすることはどういうことかを考え、意見交流を行い、命の尊さについて考えた。	どうとく 2 きみがいちばんひかるとき

10	川崎市	小6	道徳	未来に向かって「まどさんからの手紙—こどもたちへ」	童謡「ぞうさん」の作詞家としても知られるまどみちおさんが、山口県の小学校の子どもたちに向けて書いた手紙を教材として扱った。手紙を通して、込められた願いや伝えたいことは何なのかを考え、意見交流をした。「今、世界が抱えている問題に目を向け、大人も子どもも一緒になって解決しないといけない。」と意見を伝えていた。また、「子どもうちからどんな小さなことでも全力で取り組み、自分自身の命を大切にしてい。」「という彼の想いを手紙から感じ取り、「今ある自分の命や友達の命も大切にしないといけない。」と、感想を伝えている子どももいた。話し合いの後、感じた想いを未来の自分に伝えるために、1年後の自分に向けて手紙を書いた。	道徳 6 きみがいちばんひかる とき
11	川崎市	小1	道徳	生命の尊さ 「いきているっていいな」	学習の導入で、普段当たり前前にしていることは、どんなことなのかを考えた。当たり前前にしていることは、いつも気にせずに行っていることであり、そのことができるのは、生きているからであることを確認していくと、子ども達からは、驚きや感心する声があがった。毎日の当たり前前を大切にすることが、生きていることを大切にしてくことであると、一緒に確認できる時間となった。最後に、今も生きていることを確認するために、自分の胸や手首に手をあて、心臓が脈を打つ鼓動を確認したり、効果音として心臓の音を聞いたりすることで実感できた。	効果音として、心臓の音を聞かせた。 (YouTubeより検索)
12	川崎市	小3	道徳	生命の尊さ「ヌチヌグスージ—命の祭り」	授業前は、命について考えたことのある児童は少なかった。お墓参りでオバアに聞いた話から、登場人物のコウちゃんが考えを巡らせる姿を通して、命はどんなものなのかについて考えた。登場人物の気持ちを想像し、考えを伝え合ったことで、「命はご先祖様がつかないでくれた大切なバトンだから、大切に傷つけないようにしたい」「友達も生きている仲間だから、自分の命も友達の命も大切にしたい」などと、受け継がれていく命を大切にしたいという思いを多くの児童がもった。	
13	川崎市	小6	道徳	おじいちゃんとの約束	祖父の死をきっかけに、命の意味を深く考えるようになった主人公の姿を通して、人間の死の重さや命のかけがえのなさについて考えた。学習を通して、普段の言葉遣いや友達との接し方について振り返り、限りない命を精いっぱい生きたいと考える姿が見られた。	
14	川崎市	小3	道徳	「三年元気組」 (A4 個性の伸長)	自分の得意なことや好きなことを書き出し、教材をもとに「自分のよいところを見つけ、のばしていくためにはどんな気持ちが必要か」を考えた。自分の考えを友達と交流し、人から聞いたことも「自分のよさ」として認め、大切にすることが大切だと考えた。そこで、友達から自分のよさを聞く活動を行った。自分とは違う視点から自分のよさを知ること、新たな自分のよさに気づき大切にしていこうとする態度を育てることに繋がった。	きみがいちばんひかる とき (光村図書) 「三年元気組」

15	川崎市	小2	道徳	「生命の尊さ」	まど・みちおさんの詩「ぞうさん」を読み解いた文章を通して、命がつながっているとはどういうことなのかについて考え話し合った。祖父母や両親と似ているところや、家族の好きなものや嗜好品について想起させることで、「つながっている」ことを実感し、捉えられるようにした。つながりのある命を大切にすることや、自分の命も他の人の命も生きものの命もかけがえのない命であることを学んだ。	どうとく2年「きみがいちばんひかるとき」
16	川崎市	小2	道徳	生命尊重	「生まれるということ」（光村図書「きみがいちばんひかるとき2年」）の教材を用いて学習を行った。内容項目D（17）生命の尊さに関わる学習であった。まど・みちおさんの詩「ぞうさん」の文章を通して、命がつながっているとはどういうことなのかについて考えた。お母さんと同じ長い鼻を持つぞうの存在から、家族と似ているところを改めて見付け、つながりを意識していた。普段命のつながりについてははっきりと目を向けたことのない子どもたちが詩や友達の考えをもとに、家族などつながりのある命の大切さに気付くことができていた。自分一人の命ではなく、つながり続けていることで今の自分が生まれ、未来につながっていくということに気付き、考えを深めていた。	
17	川崎市	小5	道徳	生命尊重	「命の詩——電池が切れるまで」（光村図書「きみがいちばんひかるとき5年」）の教材を用いて学習を行った。内容項目D（19）生命の尊さに関わる学習であった。みやこしゆきなさんが書いた命についての詩やエピソードを通して、命の大切さについて考えた。自分にとって、命とはどういうものかを考え、伝え合ったり、ゆきなさんが伝えたかったことは何かを考え、意見を交流し合った。命について、これまでの自分はどうな考えをもっていたかを振り返る姿があったり、友達の考えを聞いて、大切な命を精一杯生きることについて、さまざまな捉え方があることに気付くことができていた。また、自分の命を精一杯生きるために、これから自分はどのように生きていこうかと考えていた。	
18	川崎市	小4	道徳	生きているしるし	生まれたばかりの妹の姿を通して、自分が生まれたときの時の様子を父親から聞く。その姿を通して一人ひとり命の大切さについて考え、多くの人々に支えられている命を大切にしていこうという気持ちを育てる。	光村図書道徳4年
19	川崎市	小5	道徳	生命尊重・自然愛護	島根県弥栄村の杵束保育園に1987年6月からニホンザルの子猿が現われ、園児や保育士たちと交流し始めるが、やがて共存の難しさに直面したという出来事をもとに、自然と人間はなぜ共存することが難しいのかを考えた。どの方法にもメリットデメリットがあり、初めは多くの児童が「保護すればいい」と単純に答えていたが、やがて迷い悩みながら自分なりの意見を述べていた。そして人間の都合だけで自然を考えてはいけないこと、人間が自然を護れる存在になれることを感じていた。	・映像「みなしご子猿モンちゃんは保育園児」 ・書籍「保育園のすきな子ザルのモンちゃん」

20	川崎市	小6	道徳	つながる命 かけがえのない命	2週連続で、D「主として生命や自然、崇高なもののかかわりに関すること」を取り扱った。「精一杯生きる」とはどう生きることなのか話し合い、「人と比べずに自分らしく努力し行動すること」で、実現できると考えた児童が多かった。終末では、「いのちの歌」という歌を紹介して、歌詞の意味について話し合ったり気持ちをこめて歌ったりした。「命」に対して、誰にとっても等しく同じ価値があり尊いものだという見方をもったり、「つながり」に対する考え方が広がっていたりする児童が多くいた。	教科書「三十八億年の命」「おじいちゃんとの約束」 「いのちの歌」 作詞 Miyabi 作曲 村松崇継
21	川崎市	小6	道徳	生命の尊さ	道徳の「命の旅」では、自分たちの食べ物は多くの生き物がもとになっている。自分たちの命が多くの上の命の上に成り立っていることを知ることによって、食べ物を大切にす気持ちと自分の命を大切にしようとする気持ちを育てた。理科の学習の「食物連鎖」でも人間だけでなく、すべての生き物がつながっていることを知り、さらに生命の尊さを感じられるようにした。	道徳6年（光村図書） 理科（東京書籍）
22	川崎市	小3	道徳	生命の尊さ	道徳の「生きていいる仲間」「ヤゴきゅうしゅつ大作戦」を通して、身の回りの自然や生き物とのかかわりについて考え、それらの命も自分と同様に尊いものであることを児童に考えさせた。3年生の実態として、昆虫など生き物の飼育は大変魅力てきであるが、ともすると途中で投げ出してしまいうこともある。この道徳の後、ヤゴを実際に教室で育て、トンボに成長するまで実際に自分で世話し、児童に一つ一つの命の重さはかわらないことを実感させた。さらに、自分の命の大切さも学べるように、人権教育にもつなげた。	道徳3年（光村図書） 川崎市市民文化局人権・男女共同参画室発行「自分らしくかがやく」
23	川崎	小6	道徳	命をつなぐ（D生命の尊さ）	北海道知床に生きるマスやサケが懸命に命をつなごうとする姿や、それらと他の動物、私たち人間との「食べる・食べられる」による命のつながりが写真と共に文章で表されている教材を通して、そこから感じたこと・考えたことを話し合った。いつも食べている魚や肉は、自分たちが命をつなぐために「生き物」から「食べ物」になってくれていることや、命は昔から受け継がれてきていることに気付いていた。また生き物が命をつないでいるから今自分たちはここにいるのだと感じ、「命を無駄にしてはいけない。」「食べるときには、そのことを忘れないようにしたい。」という思いをもつ子が多く見られた。	光村図書6年 「命の旅」
24	川崎市	小6	道徳	自然とともに （内容項目：自然愛護、生命の尊さ）	教科書教材を通して、自然を守ることが人間も含めたの食を支えていることを確認し、命の源となっていることを知った。その後、自然を守れているか、自然に対して自分がどのように感じているかなど、自分と自然との関わりを見つめ合えるようにした。 児童は自然の大切さについて漠然とした理解はあったが、生活の中で自分たちの楽しみを優先し自然に対して安易な行動することを自覚していた。この学習で自分の生活との関係性を再確認し、自然を大切にす必要性を再認識していた。	光村図書 きみがいちばんひかるとき6

25	川崎市	小3	道徳	かけがえのない命「大切なものは何ですか」	虫たちがそれぞれの一番大切なものについて話し合う姿を通して、命を大切にすることについて考えた。導入時に「大切なもの」についてクラスで出し合うと「自分の好きなもの」が多く挙げられた。物語を通して「命」というキーワードがでてきたことで、「命」があるからこそ好きなことができることに気づく様子が見られた。ふりかえりでは、自分を大切にすることだけでなく、周りの人やものを大切にしていけることが「命」を大切にすることに繋がることに気づいていた。	どうとく③きみがいちばんひかるとき (光村図書)
26	川崎市	小5	道徳	生命の尊さ「命の詩－電池が切れるまで」	6月の生活目標が「一人一人の命を大切にしよう」だったので、朝会でも全校児童へ詩の紹介をした。その後、5年生では、道徳の授業で朝会の詩を書いた子が伝えたかった事を話し合い、その思いを受けて、精一杯生きることとは何か考えた。命がある限りやりたいうことをやることや、一度きりしかない人生を最後までがんばることだという意見が出た。これまでの自分を振り返り、人のためになるようなことをしたいという思いや、これから後悔しないようにチャレンジしていきたいという思いをもった児童の姿が見られた。	(参考資料) かながわ「いのちの授業」ハンドブック
27	川崎市	小6	道徳	生命の尊さかけがえのない命	祖父の死をきっかけに、命の意味を深く考えるようになった主人公の姿を通して、命の重みについて考えさせた。人間の死の重さや命のかけがえのなさを理解したうえで、限りある命を懸命に生きようとする心情が育った。	道徳教科書 きみがいちばんひかるとき 題材名 おじいちゃんとの約束
28	川崎市	小1	道徳	生命の尊さかけがえのない命	おいしさや痛みなど、人間が持ち合わせている感覚や感情を想起できる絵を通して、生きていくと感じるのはどんなときかについて考えさせた。これらの絵や自分の体験から、生きていくあかしを実感し、命を大切にしようとする心情が育った。	道徳教科書 きみがいちばんひかるとき 題材名 みんないきている
29	川崎市	小3	道徳	生命の尊さ「生きている仲間」	トマトを育てたり、周りの生き物に声をかけたりする主人公の姿を通して、生きていく仲間とは、どんな仲間なのかについて考えた。主人公がどんなことをトマトに話しかけたかを想像し演じる場面では、「トマトのトマちゃん、大きくなってね。」とトマトを見つめながら伝える姿が見られた。身近な生命として、総合的な学習の時間に育てている蚕を想起した児童が多かった。「初めは苦手だったけど、育てているうちに家族のような存在になっていた。」「蚕も私たちと同じ生きている仲間だ。」「人も蚕もいのちがあるから、これからも大切に育てていきたい。」と学習を通して生命あるすべてのものを大切にしようという思いをもつことができた。	光村図書どうとく3 「生きている仲間」
30	川崎市	小5	道徳	公正公平な社会をめざして	ハンセン病の歴史やハンセン病患者である人の話を通して、差別や偏見と向き合い、公正公平な態度で行動することの大切さを学んだ。子どもたちは、患者であるというだけで差別されてしまう事に憤りを感じていた様子であった。しかし、社会が差別を生み、起こしてしまったことを知り、まずは自分たち自身がそうした差別を生まない気持ちをもつことが大切であると振り返っていた。	道徳「きみがいちばんひかるとき」 教材名：だれもが幸せになれる社会を

31	川崎市	小6	道徳	つながる命	命のつながりという言葉からどんなつながりが思い浮かぶか話し合い、命について考えた。「命はあなただけのものではない」という筆者の考えに対する自分の考えをワークシートに書き、話し合った。「今まで受け継いできた命を大切にしたい。」「命の重要さを時々忘れてしまっていたから、これからは命を尊重し自分もその一つだと忘れずに生きていきたいと思った。」などの振り返りがあり、これからの生き方について考えることができた。	道徳「きみがいちばんひかるとき」 教材名：三十八億年の命
32	川崎市	小4	道徳	「命を大切にすること」とはどういうことだろう	詩「しかえししないよ」から、感じたこと、考えたことを友達と交流しながら、命を大切にすることは自分の時間を誰かのために使うことだという考え知り、今の自分を振り返るとともに、今後よりよく生きようとする心情を育てる。	講師：日野原重明記念 「新老人の会」
33	川崎市	小2	道徳	生命の尊さ	車にはねられ、生死をさまよった登場人物(2年生)や、彼を見守る周囲の人々の姿を通して、命について考えたことを交流した。登場人物に自分を重ねて想像し、「命は家族から贈られたものだ。」や「命は一つしかない。もしなくしたら、何もできない。」と言った意見が出た。毎日元気に過ごしている自分に気付くとともに、未来に向けて命を大切にしたいといった思いをもつ児童も多く、自己を見つめる時間にすることができた。	道徳「空色の自転車」
34	川崎市	小3	道徳	生命の尊さ	理科の学習でモンシロチョウやアゲハチョウを育てたことを振り返りながら、命について話し合った。教材の登場人物の姿から、植物も生きていること、命があるということに気付いた。さらに、自分たちの周りには命あるものがたくさん存在していると、考えを広げることができた。命があり、生きているものを大切にしたいという思いから、友達と仲良く過ごすことが友達の命を大切にすることに繋がると考えた。	道徳「生きている仲間」 理科「チョウを育てよう」 理科「どれぐらい育ったかな」
35	川崎市	小3	道徳	ヌチヌグスージ 命の祭り	お墓参りでご先祖様に感謝の念を伝える祭りを見て考えを巡らせる主人公の姿を通して、命にはどんな不思議があるか、受け継がれていく命について考えた。ご先祖様がどういう人なのかをお墓参りや仏壇を連想させながら確認した。家族だが、身近に感じられていないといった児童が多くいたが、題材を通して「一人でもいなかったら自分は今ここにいない」ということを理解し、ご先祖様は大切な家族であることや、自分の命もつながれてきた大切なものであることに気付いていた。「命をありがとう!」といった主人公の考えを想像し、自身に置き換えて考えるよう伝えると、「家族やご先祖様に感謝したい」「つながれてきた大切な命だから大切にしたい」といった意見をもっていた。	
36	川崎市	小3	道徳	生命の尊さ	自分にとって一番大切なものについて考え、友達と意見交流をした。その後、副読本を読み、命を大切にすることはどういうことかについて考え、学級全体で意見交流をした。「自然を増やすこと」「生き物の命を無駄にしないで残さず食べること」「健康に過ごすこと」などの意見が出た。自分の命だけでなく、他の人、他の生き物の命についても考えることができた。	道徳 光村図書 3年 「大切なものはなんですか」

37	川崎市	小5	道徳	生命の尊さ	自分の命を精一杯生きるとはどのような生き方かについて考え、交流した。自分の目標をもって生きることや少しでも努力してがんばれることを見つけることが精一杯生きると言えるのではないかという意見がでた。また、自分の命だけでなく他人の命を大事にすることもしなければならぬことを学級全体で交流した。一人一人が改めて自分の命と向き合う学習になった。	道徳 光村図書 5年 「命の詩」
38	川崎市	小5	道徳	生命の尊さ	命の大切さについて書かれた児童の詩と詩を書いた児童を紹介する文を読み、命の重さや精いっぱい生きることの意味について考えた。「精いっぱい生きる」ことについて考え、意見を交流した。「自分の目標に向かって悔いなく生きる」や「お互いの個性を尊重し、助け合いながら自分らしく生きることが大切だと思う」など、互いの意見を聴き合うことで、一人一人が限りある命を懸命に生きることについて考えることができた。	光村図書 道徳5年 きみがいちばんひかるとき 「命の詩-電池が切れるまで」
39	川崎市	小5	道徳	生命の尊さ	病気で亡くなった当時小学4年生の児童が書いた命についての詩やエピソードを通して、命のかけがえのなさを自覚し、限りある命を懸命に生きることの大切さを考えた。漠然と「命は大切」だと感じていても、普段そのことに向き合っていてじっくり考えることが少ない児童も多かった。命を大切にすることとは、自分に今できることを精いっぱい行うことであり、自分にとっての「精いっぱい」できることは何かを具体的に考える機会となった。	光村 5年 「きみがいちばんひかるとき」
40	川崎市	小3	道徳	かけがえのない命 「大切なものは何ですか」	生き物たちの会話を通して、身の回りにある大切なものについて考えた。アゲハチョウの会話から生命は自分だけでなく、生きているすべてのものにあることを理解し、改めてその大切さについて感じている児童が多かった。振り返りには、「自分の命を大切にしていきたい」「自分だけでなく周りの人たちのことも大切にしていきたい」と自分が学んだことをまとめ、考えを深めていた。	光村 3年 「きみがいちばんひかるとき」
41	川崎市	小3	道徳	かけがえのない命 「大切なものは何ですか」	虫たちがそれぞれの一番大切なものについて話し合う姿を通して、命を大切にすることは、どういうことかについて考えさせた。お金や食べ物、住む家など、どれも大事だとみんながうなずく中、アゲハチョウの話についての話し合いをした。「命」がなくなってしまったことをすぐに理解し、どんな物よりもやっぱり一番大切なのは「命」だと改めて感じていた。子ども達の中には、自分ができるとして、自分の命を大切にすることもだけれど、自分の周りにはいる人や、飼っているペット、生き物の命も大事にすると振り返る子どももいた。	光村図書「どうとく」
42	川崎市	小5	道徳	生命の尊さ 「電池が切れるまで」	自殺にもつながりかねないいじめが依然として存在している。命を「かけがえのないもの」として大切にし、「つながりのあるもの」として尊さを実感してほしいと考えた。生きたくても生きることができなかつたみやこしゆきなさんの詩から、命は一度失ってしまつたら戻らないし、代わりはない、最も大切にしなければならぬものだと子どもたちは考えることができた。「精一杯生きたい」「自分も友達も大切にしたい」と子どもたちが思いをもつことができた。	「電池が切れるまで」 宮本雅史

43	川崎市	小6	道徳	「おじちゃんとの約束」	祖父の死をきっかけに、いのちの意味を深く考えるようになった登場人物を通して、いのちの重みについて考えた。人間の死の重さやいのちのかけがえのなさを理解した上で、限りあるいのちを懸命に生きようとする心情を育てた。子どもたちは、ゲームや会話の中で普段何気なく使っていた言葉を振り返ったり、いのちの重さや自分らしく精一杯生きることを意識した上でこれからどう行動していくかを考えたりすることができた。	
44	川崎市	小4	道徳	「いのちをつなぐ岬」	道徳の授業にて扱った。命をつなぐ行為であるウミガメの産卵を学び、ウミガメの生体から命について考えられるようにした。自然を大切にすることは、人間も含めた生き物の命を大切にすることにもつながることを押さえ、命の尊さについて考えた。実際の授業を通して、命が途絶えずにつながっていることに新鮮味を感じ、そこから自分のかけがえのない命の大切さについて一人一人、思うことを感想にまとめた。	
45	川崎市	小5	道徳	生命の尊さ 「命の詩」	みやこしゆきなさんが書いた命についての詩を読み、命の大切さを考えた。題材内に書かれた「精いっぱい生きる」という言葉に着目し、児童一人一人が自分にとって精一杯生きるとはどういう生き方なのか考え、意見を交流した。精一杯生きることは、命を大切にすることにつながることに気付く児童も多かった。	参考：小学校道徳5年 (光村図書)
46	川崎市	小4	道徳	生命の尊さ 「おじいちゃんのごくらくごくらく」	病気で突然他界してしまう祖父との思い出を大切にしている「ぼく」の物語を通して、生命の尊さについて考えた。身近な人の命について考えたり、命はたった1つの大切なものであることなど、命について自分がどんな考えを持っているのかをクラス全体で話し合った。	参考：小学校道徳4年 (光村図書)
47	川崎市	小2	道徳	「がんばれアヌーラ」	ゾウは病気のとくに横になると立てなくなるため、アヌーラはがんばって立っていた。すると、動物園の他の2頭のゾウがアヌーラを支え、その後すっかり元気になったという実話を通して、命を大切に思う心について考えた。家族や友達が困った時、自分には何ができるかを考え、友達と考えを交流することができた。自分や周りの人の命を大切にしたい、自分にできることを進んで行いたいという思いをもった児童もいた。	
48	川崎市	小1	道徳	生命の尊さ	生まれたばかりの弟の様子から自分の成長に気づく姉の姿を通して生きることの素晴らしさを感じ、命を大切にしようとする心情を育てた。	光村図書どうとく 題材 「ちいさな ふとん」
49	川崎市	小5	道徳	「同じでちがう」	「同じでちがう」を読み、自分と友だちの「同じでちがう」ところを見つけて交流し合った。その後、「ちがうからこそすばらしい世界ができる」ということについて自分の考えを話し合った。それぞれの違いの良さを受け入れてそれを生かし、お互い協力し合っ生きていけば世界が良くなること、自分だけでは思いつかないような意見や考えを聞くことができることがすばらしい世界につながるなどという意見が出た。「命」や「一人一人の違い」を大切にすることについて、あらためて皆で考えることができた。	(参考資料) 道徳「きみがいちばんひかるとき」 光村図書出版株式会社

50	川崎市	小1	道徳	生命の尊さ	息をしたり、食べたり、遊んだり、勉強したりすることなど、生きていることは当たりまえだが、不思議な感じがするという詩からの学習を行った。詩に載っているもの以外にも、自分たちが当たり前に行っていることを考えた。たくさんの意見が出て、多面的に考えることができた。たった一つしかない命を大切にこれから生活していきたいとふり返る児童がたくさんいた。	
51	川崎市	小3	道徳	生命の尊さ	お墓参りでオバアに聞いた話から、主人公が考えを巡らせる姿を通して、命の連続性について考えた。自分の命は両親、またその両親とたくさんの先祖からつながっていることを教材から読み取った。永い間つながれてきた自分の命に感謝し、大切に生活していく心情が育った。	
52	川崎市	小5	道徳	ともに生きる安心・安全な集団作り	教室内で起こった児童間のトラブルを題材に教材を作った。友達の言葉に流され、本意ではない言葉で誹謗中傷を行ったことに対して、相手の気持ちを考えることだけではなく、人とのかかわり方に対しての正しい姿勢について、学級全体で考えた。自分の気持ち、相手の気持ちを考えながら、どのような態度や表現方法がともに生きていくために必要なのか、子どもたちと振り返りができた。	支援児童コーディネーター
53	川崎市	小6	道徳	生命尊重「おじいちゃんとの約束」	本時では、友達とゲームをしていた時に「死ね」という言葉を使ってしまった主人公信二の姿に注目する場面から始まる。事前アンケートでは、信二のように命を軽視するような言動を取っていないか自分の生活を振り返ることを通して、命の大切さをより感じられるようにした。命の大切さを身をもって感じた主人公の気持ちを想像させることで、自分と照らし合わせながら、子どもたち自身の考えも深められるようにした。展開では「ゲームのような命のないものには言ってもいいのではないかな」など子どもたち同士の意見が割れることもあったが、「死ね」という言葉を使う側に着目し、命の重さやかけがえのなさを深く考えるべきだという意見でまとまった。終末では自分らしく精一杯生きることを意識させたうえで自分はこれからどう行動していくべきか考えさせた。	6年道徳で学習した「命の旅」「三十八億年の命」で考えたことについて共有し、命に対する自分の考えがもてるよう支援した。
54	川崎市	小2	道徳	生命の尊さ「ゾウのアヌーラ」	本時では、「いのちは大切だと思ったとき」について、場面を想起させた後で教材文に入ったが、あまりイメージがわかなかった様子だった。教材文は、多摩動物園にいるゾウのアヌーラが、重い病気にかかって辛そうにしている場面から始まり、2頭のゾウが3週間も寄り添って看病する話である。飼育員さんたちの必死の献身的な看病の様子や、全国の子供たちからの励ましの手紙も登場し、みんながアヌーラの命を思う様子が書かれている。多摩動物園遠足を控えている子どもたちは、とても興味をもって「いのちを大切に思う心」について話し合った。終末では、家族や友達が、けがをしたり病気になったりしたときに何が出来るか、自分事として考えさせた。また友達と考えを聞き合うことで、多面的・多角的な見方ができるようにした。	後日実際に多摩動物園遠足に行くこともあり、現在のゾウ（アヌーラ）の元気な動画も見せて、より教材文が身近に感じられるよう支援した。
55	川崎市	小2	道徳	生命の尊さ	車にはねられ、生死をさまよったかたや、彼を見守る周囲の人々の姿を通して、命はどうして大切なのかについて考えさせ、周りの人に支えられている掛けがえのない自分の命を大切にしようとする心情を育てる。	光村図書

56	川崎市	小2	道徳	A(4)生命の尊重	<p>まど・みちおさんの詩、「ぞうさん」を読み解いた文章を通して、命がつながっているとはどういうことなのかについて考えさせ、命のすばらしさを感じ、大切にしようとする心情を育てる。</p> <p>詩の内容は、有名な童謡から知っている児童が多く、すぐに内容について考え始めていた。そして、命がつながっていることや、それをどのような時に感じるかについて話し合った。親と同じような仕草をしたとき、命のつながりを感じたという意見が見られた。</p>	教材の詩をもとに考えさせることで、子どもたちにも考えやすい内容で行うことができた。
57	川崎市	小5	道徳	生命の尊さ	<p>「命の詩—電池が切れるまで—」を読み、命とはどのようなものか、命についてどのような考えをもっているか、今後、自分が精いっぱい生きるためにどうしていこうかについて考えた。</p> <p>また、考えたことを学級で意見交換をおこない、共通点や疑問点をあげ、考えを深めた。</p> <p>子どもたちは著者のみやこしゆきなさんの姿を通して、生きたくても生きることが難しい子どもいることを知り、自分だったらと考える姿や友達に〇〇と接しようと学びを深めたり、広げたりしていた。</p>	光村図書「きみがいちばんひかるとき」『命の詩—電池が切れるまで—』
58	川崎市	小6	道徳	人権尊重、生命の尊さ、国際理解	<p>一人一人の顔が違うように、考えも一人一人違うこと、世界70億人分考え方があるということを学んだ。また、誰かに支えられて生きていることを確認し、周りの人に感謝してほしいと教えていただいた。DVDでは、アフリカで医療に従事されている人の様子を見せてもらった。世界にはこんな思いをして生きている人がいるのかと気付かされていた。</p>	人権教育移動教室 DVD「愛と正義に生きる一国境なき医師団—」
59	川崎市	小2	道徳	「いただきます」とは。(生命尊重)(食育)	<p>題材となる絵本を読み聞かせを行い、肉食解体業をしている主人公の気持ちを考えながら、動物の命を解くことで私たちがお肉料理を食べられることを学んだ。主人公が動物を解く仕事をする中で、動物を育てた家族との触れ合いを通して、大切に育てられてきた動物たちの命を解くことへの戸惑いを感じながら仕事を続ける姿から、命の重みを学んだ。この学びから毎日自分たちも命をいただいていることに気付き、食事の時に「いただきます」という言葉の感謝の思いを込めていきたいという児童がいた。また、命の尊さを感じている児童もいた。</p>	絵本「いのちをいただく」作：内田美智子 講談社創作絵本
60	川崎市	小2	道徳	生まれるということ(生命の尊さ)	<p>まどみちお「ぞうさん」の詩をもとに、命がつながっていることを知ることができた。命のつながりに目を向け、生きることの素晴らしさを知り、自分だけでなく、他との関りやつながりを感じていた。</p>	
61	川崎市	小4	道徳	命とはどのようなものなのか	<p>「生き物と機械」を題材に、本物の犬とロボットの犬の違いを特徴をもとに考えた。命がどのようなものか考え、命の不思議さ、大切さを捉えてさせた。</p>	「生き物と機械」

62	相模原市	小複合	道徳	生命尊重 ｽｽﾞｽﾞｸﾞｽﾞ (いのちのまつり)	沖縄の先祖の祭りを題材に命が受け継がれていく。 支援級の児童なので、心情面では理解するのが難しいが、先祖の人たちの数を具体化することで、自分の命が多くの人と繋がっていることに驚き、命のがとても大切な事に気づくことができた。	新しい道徳3 東京書籍
63	相模原市	小6	道徳	お母さんへの手紙	亡くなる前に残された手紙から、主人公の心情を想像したり、主人公を信じて励ます母の心情を想像したりしながら、かけがえのない命の大切さを実感しているようでした。	新しい道徳6 東京書籍
64	相模原市	小3	道徳	大切ないのち	2年生の夏に血液の癌におかされたが、家族やクラスの友だち、たくさんの人に支えてもらったおかげで病気が治り、元気になったという内容。生命の尊さ、生命は自分一人のものではなく多くの人のおかげによって守り、育まれている尊いものであることなどを学びながら、登場人物の気持ちを考えることができる。	・教材「新しいどうとく3」
65	相模原市	小1	道徳	がんこちゃんの生まれた日	誕生日に家族とけんかをして家をとびだしたがんこちゃんが、自分が生まれた時の様子を知ることによって命の尊さについて考えることができる内容。	視聴覚教材
66	相模原市	小3	道徳	生命の尊さ	道徳の授業で教科書を使って実践した。教材文を読み、自分の命は現在までにたくさんの方が関わってきて、先祖とのつながりがあることを理解した。児童は今までは自分の知っている世代(父母、祖父母)までの関係だと感じていたところから、命のつながりがあることで自分が生まれ、生きていくことの尊さを改めて知るきっかけとなり、自分だけではなく友だちも大切にしたいと考えていた。	『いのちのまつり』
67	相模原市	小6	道徳	生命の尊さ	インターネットの動画から、余命を宣告された子どもと、かけがえのない時間や人について考えた。余命と聞くと、生きられる時間という限られた一面で考えてしまうが、普段自分たちが生きている時間や関わりも同じように大切な時間であり、これからの自分としての生き方も自分で決めていく必要がある。中学校への進学という新しい時間を迎えるに当たり、これからの自分ができることについて一人ひとりが自分を見つめ直して考えていた。	インターネット資料
68	相模原市	小5	道徳	心のレシーブ	心の成長に伴い、自他の違いを意識できるようになった反面、自分の尺度で相手进行评估する場面も増えてきた。この教材に触れることで、一方的な思い込みで友達と関わることで相手を傷つけ、よい関係が築けない上に、相手の人権を無視した行動であるという気づきがあった。友達への温かい声かけや寄り添った行動を意識した学校生活を送ることが一人ひとりを大切にすることに繋がっていくと考える児童もいた。	東京書籍 新版新しい道徳5

69	相模原市	小1	道徳	生命の尊さ	自分の心臓の「どっきん どっきん」とうさぎやお母さんの心臓の「どっきん どっきん」が重なって、自分や相手が生きていることを感じた「わたし」の気持ちに共感しながら教材を読んだ。自分が「生きている」と感じた体験を話し合うことにより、生きていること素晴らしさに気付き、生命を大切にしようとする心情を育てた。	東京書籍 新しい道徳「どきどき どっきんぐ」
70	相模原市	小6	道徳	がん教育「がんが教えてくれたこと-命の尊さ-」	令和2年度より全面実施になったがん教育を、本校の教諭（理科専科、医学研究者）が6年生4クラス、道徳科で行なった。生きることの喜びや力強く生きる事を学び、かけがえのない命について思いやる心情を育むことをねらいとした。簡単にがんの知識を確認した後、がん経験者の話を聞き、学びを共有するという流れである。児童から、「あきらめなくても、失っても、また希望が生まれる。」「助けを求めることが大切だ。」「人との出会いや繋がりを大切にしながら、実現に向けて努力する。」「がんになった人には普段通りに接する。」などの意見が多く出た。授業後に家庭でがんについて話す機会も得ることができた。	講師は、神奈川県教育委員会の紹介で、がん経験者の方をお願いした。教材は、オリジナル教材を活用した。文部科学省及び神奈川県がん教育教材も参考にした。
71	相模原市	支援級	道徳	手洗いうがい	支援級には体が弱い児童もいることから、感染症から身を守り命を守る話をしている。実際に手を洗い、手洗いチェッカーで確認し、「手洗いをする→感染症防止→健康な体」の説明をした。	講師は、支援級担任が行った。手洗いチェッカーは養護教諭の指導を仰いだ。
72	相模原市	小4	道徳	大切な命について	道徳の教科書に載っている「走れ江ノ電 光の中へ」を題材に授業を進めた。話の中で未熟の状態生まれ、病気が重たい状態で成長していく子どもが出てきた。しかしその子は病気の状態が悪くなり、一日だけ電車の運転手になる夢をかなえ、最後は亡くなってしまふ内容だった。児童は、世の中には病気に苦しんでいる子ども達がおおり、精一杯生きていることなどを知ることができた。	道徳教科書
73	相模原市	小2	道徳	命の尊さ「生きる喜び」	この教材は、主人公に好きなものがたくさんある中で、一番好きなのは自分である、ということが書かれたものである。主人公の「すき」なものの話から自分自身の好きなものを楽しそうにたくさん見つけていた。その後、どうして自分が一番好きなのかを考えることで、自分がいないと好きなものが見つからないことに気づいた。ふり返りでは、もっと好きなものを見つけて楽しく過ごしたい、自分を大切にしよう、ということを書いた。カードに書く児童がいた。	(使用教材) 道徳「わたしたちの道とく」2
74	相模原市	小1	道徳	国際理解 国際親善	中国に住む日本人のたろうと、シャオミンの交流を描いた教材を使用した。登場人物は文化のちがいがあっても互いのことに興味をもち、理解したり、尊重したりできている。子どもたちは、世界にはいろいろな国があり、そこに住む人たちがいるということを理解した。好きなことや言葉がちがっても、友だちになれるということを前向きにとらえていた。また、外国にルーツがある児童が増えているため、抵抗感なく考えることができていた。	参考資料「ぼくとシャオミン」東京書籍株式会社

75	相模原市	小複合	道徳	自分を知ろう 友だちを知ろう	相互理解を深めることで、自分も相手も大切にできる心を養うことを目的とした。明星大学の教授を講師に招き、学校全体で授業を行っていただく。事前指導として、絵本「星と虹色な子どもたち」を紹介、当日の放課後にも職員研修を行うなど、学校全体で計画的に行った。まず、話を聞いて個性を知る。自分はどの「カラー」があるのかワークシートに取り組み、友だちと紹介し合った。職員研修でも、違うことの強み、強みを活かし不得手をカバーし合うことを学ぶ。	明星大学 教授
76	相模原市	小1	道徳	どきどき どっきんぐ (生命の尊さ)	9月に道徳で「どきどきどっきんぐ」の教材を使って、自分や身の回りにある『いのち』について考える学習を行った。いのちがあるものには何があるかを尋ねると、飼育している生き物や校庭にいる虫、植物など、たくさん意見があがり、児童は改めて身の回りには「いのち」に溢れていることに気づいている様子だった。また、どんなときに「生きているっていいな」と感じるかについて考える時間には、友だちと遊んだり勉強したりするとき、家族と旅行するとき、笑ったり泣いたりするときなど、生きていることの良さを積極的に見つけていた。	道徳の教科書 「どきどき どっきんぐ」
77	相模原市	小5	道徳	尊い命	学年目標「ワ・輪・和 JOIN!」とお彼岸の季節に繋げて、先祖から受け継がれてきた命を実感させた。彼岸花の写真からお彼岸、彼岸と此岸についての知識を伝え、自分のご先祖様が何人ぐらいいるか家系図を書いて数えた。たくさん命が繋がって自分が産まれてきたことを実感した。最後に命のつながりをテーマに歌を作った。	写真「彼岸花」
78	相模原市	小3	道徳	ヌチヌグスージ ～いのちのまつり～	命は先祖代々から脈々と受け継がれている尊いものであること、これからも命をバトンを繋いでいくために、一人ひとりにできることについて考えを深めた。	参考テキスト「東京書籍 新しい道徳 小学校3年」
79	相模原市	小3	道徳	命を大切に 「いただきたいのち」	本教材では、血液のがんになってしまった「ゆき」が、家族や学校の多くの人の支えによって退院することになった様子を、母親の記録として描かれたものである。授業では、「ゆき」が突然生命の危機を襲われた時の気持ち、周りの人に支えられて退院できた時の気持ちを想像し考えを交流した。学習の後半では、「ゆきは、周りの人に助けてもらった分、次は自分が誰かの力になりたいと思うのではないか。」「いつ何が起こるか分からないから、自分の命を大切にしたい。」等の考えが出ていた。	東京書籍「新訂 新しい道徳3」 いただきたいのち
80	相模原市	小3	道徳	いただいた命	妊娠中の先生の話聞いた。おなかの中にいる時の赤ちゃんの体重の変化などの成長して様子や、妊娠中のお母さんの大変さなどの話を聞くことを通して、児童は、自分がどのように生まれてきたかを感じることができた。授業後には「お母さんにありがとうを言いたい。」「これから命を大切にしていきたい」という感想をもった。」	エコー写真
81	相模原市	小6	道徳	命の重さはみな同じ	足をけがをして生きていくことが難しくなった犬を、助けたらどうかについて話し合った。話し合いを通して生き物の命の重さはすべて同じであり、命を大切にしていきたいという思いをもった。	

82	相模原市	小3	道徳	生命の尊さ「いのちのまつり～ヌチヌグスージ～」	先祖の数を数え、命のつながりに感謝する主人公の気持ちを考え、生命は過去からつながっていることに気付き、自分の命や人の命を大切にしようとする道徳的心情を育てることをねらいに授業を行った。 主人公に自分を重ねて考え、自分につながっている誰かが一人でも欠けていたら、今、自分はここにいないことに気づき、命のつながりの奇跡に感動していた。また、命を授けてくれた人々に感謝し、命を大切にしたいという思いをもっていた。そして、これから自分も、誰かに命をつないでいくのだということに気付き、続いていく命に想いを馳せている児童もいた。教室においてある命に関連する本を手取る児童も増えた。	東京書籍 新しい道徳3「いのちのまつり～ヌチヌグスージ」
83	相模原市	小3	道徳	命について	「いのちの授業」ハンドブックより。「命」宮越由貴奈さんの詩を読み、人の命について考えた。 「命を大切にする」とはどういうことなのか、子どもたちと話し合った。	
84	相模原市	小5	道徳	生命の尊さ「コースチャぼうやを救え」	国境を越えて幼い子どもの命を救った話。大使館や医師だけでなく、多くの民間人の協力についても描かれている題材であった。 「国が違って、1つの命であることにかかわらず」「困っている人や病気と闘っている人がいたら自分なりの方法で助けてあげたい。」などの意見が出た。命と向き合い、他人であっても手を差し伸べることができることを学び、自分の生活で生かしたいことを考えていた。	
85	相模原市	小3	道徳	いただきたいのち	女の子は、2年生の夏に高熱を出したことがきっかけで血液のがんであることがわかった。10ヶ月という辛い闘病生活だったが、家族や学校の友だちの支えによって乗り越えることができた。授業では、母の「たくさんの人からいのちをいただいたのよ。」という言葉に込められた思いを中心発問として考えていった。児童は沢山の人の助けられて生きることができたことに気づいた。この話から、自分達の生活に立ち返り、周囲の人達と助け合って生きていくために、自分にどんなことができるかを考えることができた。	東京書籍 「新しい道徳」
86	相模原市	小4	道徳	花さき山(美しい物、気高い物)	物語の内容は、山の中で一面の花を少女が見つめ、その花は、ふもとの人間がやさしいこと1つすると咲くことを、やまんばから説明を受ける。その話を村の人に話したが信じられなかった。けれど少女は山で自分の花が咲いたと思うことがあったという話。この話を踏まえて、講師は児童に対して、自分のことよりも相手のことを優先したり、相手のために行動する心の美しさを感じさせた。その後、花に相手のことを思いやった経験を書いた。	講師は、小学校の職員教科書の花のコピー教科書：あたらしい道徳(東京書籍)

87	相模原市	小6	道徳	東京大空襲（かけがえのない生命）	物語の内容は、東京大空襲の日に出産をした女性とそれを守ろう、助けようとする看護師と医者のお話。講師は、社会科の授業で戦争を扱っていたため、それと関連させてたくさん命が失われたことから展開をした。児童には自分の命を犠牲にしても新しい命を守ろうとすることや、人間は互いに命を支えているから今があることを児童に伝えた。そのことを踏まえて、苦しいときに互いに支え合うことが大切なことや、気持ちの強さや美しさを学んだ。	講師は、小学校の職員 教科書：あたらしい道徳（東京書籍）
88	相模原市	小6	道徳	「尊重しあえる人間関係」	<ul style="list-style-type: none"> ・体の変化、考え方、生き方の個人差 ・将来を描く（最終学年への最後の話） ・尊重しあえる人間関係（LGBTにも触れる） 	本校は、2・6年生の他に、4年生も第二次性徴について授業をしていただく。
89	相模原市	小2	道徳	生命の尊さ いのちのつながり	普段の食事や食べ物を振り返る。食べ物の中には好きな物も嫌いな物も多くの種類があることに気付くことができた。その後「ゆきひょうのライナ」を読むことで生命を尊ぶ気持ちとそれでも食べなければならない気持ちをそれぞれの立場になり考えた。お話が進んでいく中でもしも自分だったらと自分事として考えることになり、普段の給食やいただきますの意味など自分の生活の中に生命がたくさんあることに気付いた。ノートには命をもらった分を一生懸命生きようと考え具体的な行動案を書くことができた。	東京書籍 新しいどうとく 2学年 ゆきひょうのライナ
90	相模原市	小4	道徳	生命の尊さ	題材を通して、自分の命が他の人にとってかけがえのないものだということを改めて子どもたちの中で感じる事ができていた。かけがえのない一人ひとりの命を奪う行為はしてはいけない(いじめなど)ことと自分自身の命も大切にしていかなければいけないという意識も感じていた。 これからの学校生活でもふり返ったことをいかせるようにしていく。	東京書籍 新しいどうとく 4学年 わたしの見つけた小さな幸せ
91	相模原市	小1	道徳	生命の尊さ	導入では、「どんなときに心臓がドキドキしたかな」と問うと、「思い切り走ったとき、」「びっくりしたとき」などの答えが返ってきた。この教材は、お母さんに抱きしめてもらったときに、悲しかった気持ちがなくなり、安心して鼓動が落ち着いたという話しである。 この主人公に近い経験をしたことがあるかどうかを問うと、多くの子どもたちが安心してドキドキが収まった経験をしていた。安心して鼓動が落ち着く不思議に気づき、なぜだろうと様々な考えを出し合った。	教材名 「ドキドキ どっきんぐ」
92	相模原市	小4	道徳	生命の尊さ	遠くで暮らしていたおばあちゃんのお葬式があり、お父さんは泣いていたけど、明日香は悲しくなかった。その事を友達に話すと「冷たい!」と言われてしまい、主人公は命のことについて考えていく話。主人公の気持ちになって、自分たちも命について考えた。	NHK for school アリとアイスクリーム もやも屋

93	相模原市	小6	道徳	いのちを感じる とき	絵本「いのちは見えるよ」（岩崎書店・及川和男作・長野ヒデ子絵）を読み聞かせを行い、自分の命を感じる時や他の生き物の命を感じる瞬間を考えた。そこから、生きているからこそ命を感じられるのであり、命を大切にしていこうと考えていった。児童からは命を感じられる時として「おいしいものを食べているとき」や「カナヘビを飼っていたとき」など様々な意見がでてきた。最後に教師から、「生きていれば命を感じられる瞬間がたくさんあるんだね。みんな命を大切にしようね。」ということ伝えた。	学年には小6とあるが、特別支援学級で授業を行った。 教材 「いのちは見えるよ」（岩崎書店・及川和男作・長野ヒデ子絵）
94	相模原市	小1	道徳	生命尊重	「命は大切」と分かっているが、1：なぜ大切なのか 2：大切にするためにはどうすればいいのかについては、なかなか深まらなかった。1年生なりに、考えをもつことはできた。 (児童の考え) 1：1つしかない かけがえのないものだから 家の人悲しむ・大切 2：大切にするためには、よく寝る・よく食べる・楽しいことをする・勉強する・・・ など特別なことではなく、日々が大切だと振り返ることができた。	1組には、「中心」の児童がいるので、あまり「家族から大切にされている命」ということには、深くは触れずに「自分の命」に焦点をあてた。
95	相模原市	小6	道徳	主題名「生命の尊重」新しい道徳：命の重さはみな同じ	生命の尊重という道徳的価値から、「命の重さは平等である」ということを学ぶために、「命の重さはみな同じ」という教材をもとに話し合いを行った。話し合いでは、事故に遭った子犬を病院に連れて行き、手術をするべきか、安楽死を選ぶべきか葛藤する場面があり、子どもたちにも自分ごととして考えさせた。また、生命の尊重についてさまざまな観点から考えるために、感応性、神秘性、精神性の3つから考え、命とはかけがえのないものであるということ話し合った。子どもたちからは「命とは大切でみな平等であるべき」なのに、どうして人はすぐに救急車を呼んで助けてもらえるのに動物はそういう機能がないのか、不平等ではないのか」という疑問の声が上がり、「自分の命」だけではなく、「周りの命」についても深く考えることができたように感じる。また、終末の振り返りでは、「命とはかけがえのないもので、動物だけではなく、虫や植物なども大切にしていきたい」という考えが見られ、命をより大切にしていこうという変容を見取ることができた。	東京書籍 新しい道徳 命の重さはみな同じ 教科書の挿絵を黒板に貼ることにより、子どもたちが視覚的にもイメージしやすくなり、スムーズに話し合いに入ることが出来た。
96	相模原市	小4	道徳	生命の大切さ	急性腎盂炎になった主人公が1ヶ月学校を休んだ体験を基にした教材を読み、病院にいたときや家で1ヶ月間過ごしていたとき、学校に行けるようになった朝の主人公の気持ちを想像させた。自分の体験と重ね合わせ、生命があって毎日学校に来ることができていることを幸せだと感じる様子も見られた。	東京書籍「新訂新しいどうとく4」 『わたしの見つけた小さな幸せ』
97	相模原市	小4	道徳	よく考えて行動するということ	からかっていることをいじめではないかと父に指摘された主人公が、自分のいじめに気づき、自分なりの行動に移すという教材文を読み、主人公の行動の理由を考え話し合った。話し合いが進むと、周囲に流されているだけだといじめをしていることと同じであるからよく考えて行動しなくてはならないと考える児童も複数見られた。	東京書籍「新訂新しいどうとく4」 『いっしょになって、わらっちゃだめだ』

98	相模原市	小3	道徳	個性の伸長	自分がかげがえのない存在だということ、そして同じようにクラスの友だち一人ひとりが大切な存在であることに気づく単元となっている。今回の授業では事前にアンケートをとり、友だちから自分の良いところを聞くことで、自尊感情を育て、さらに伸ばしていくこともねらいとした。個々の子どもが「自分らしさ」や「生き方」を考えることができた。	東京書籍 新訂 新しいどうとく3年 「じゃがいもの歌」
99	相模原市	小複合	道徳	道徳「命を大切に」	学校で飼育している金魚のお世話をする登場人物と、お世話をしない登場人物が話し合っている場面を見せ、命について考えた。最後は、児童が登場人物の人形を使ってロールプレイを行い、児童の言葉で命の大切さを伝えられるようにした。	特別支援学級3年～6年 手作り教材
100	相模原市	小6	道徳	生命の尊さ	「お母さんへの手紙」 重い心臓病で亡くなった女性の手紙から生命の尊さについて考えた。命の終わりが見えている中でも、家族に感謝をしながら与えられた命を懸命に生きることの大切さについて考えた。	東京書籍
101	相模原市	小2	道徳	生命の尊さ	「たんじょう日」 ・自分が生まれた時、小さく産まれたことにより保育器の中にいたことを知る。毎日、母がお乳をしぼって病院へ来てくれたことから、多くの人に支えられ、守られていることに気づき、自分の命を大切にしようと考えた。子ども達の中には、一つの命を多くの人が支えていることに気づいた子もいた。	東京書籍
102	相模原市	小4	道徳	「いのち」どうとく？	「答えのない道徳の問題 どう解く？」を読み、その中から「いのち どうとく？」について考えた。 「チョウチョウは殺して良いのに、ネコは殺してはいけないのはなんでだろう？」という絵本の言葉について議論した。 はじめに、ミライシードのムーブノートを活用し、一人ひとりの考えを広場で共有した。そして、一人ひとりの考えに対する意見や質問を互いにコメントし合った。 最後は、本の解説や教師の考えを聞き、振り返りを記入した。	使用書籍：ポプラ社 「答えのない道徳の問題 どう解く？」
103	相模原市	小2	道徳	生命のつながり	内容項目：生命の尊さ 主題名：命のつながり ねらい：生きることのすばらしさを知り、生命を大切にしようとする態度を育てる。 資料名：ゆきひょうの ライナ 授業を終えて、「命を大切にしたい」「食材として使われた魚や動物たちなど、失われたいのちのことを考え、食事はありがたく残さずいただきたい」「なくなったいのちの分も生きなければならない」などの感想があった。	新しい道徳2

104	相模原市	小3	道徳	<p>いただいたいのち（主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること）</p>	<p>命の尊さを知り、生命あるものを大切にしようとする心情を育てることをねらいとして授業に取り組んだ。もし身近な人が重い病気になったことを知ったらどんなことを考えるか、助け合って生きるとはどんなことか、などについて自分の考えを伝えたり、友だちの考えを聞いたりした。</p>	新しい道徳3
105	相模原市	小4	道徳	<p>生命の尊さ</p>	<p>○私たちが普段食べているものについて考える。 ・子どもたちは、どの食べ物もたどっていくと、命に行き着くことに気がついた。 ○「バルバオの木」を読んで考える。 ・バルバオの木が最後に「わたしのみきを食べなさい」と話した場面で、木を食べる動物と食べられる木の思いを考え、命がつながっていることについて考えを深めることができた。 ○日々の食事で命を頂いていることについて考える。 ・自分も大切な命を頂いて生きていることを実感した。</p>	新しい道徳4
106	相模原市	小6	道徳	<p>教材名 「お母さんへの手紙」 主題 「かけがえのない生命」</p>	<p>この教材は、14歳の少女が、重い心臓病の手術を前にして母に宛てて書いた手紙である。自分を育ててくれたことへの感謝が、小さいころの思い出から始まって現在の気もちまでつづられており、自分の命を精一杯生きてきた少女の心の動きと、母への感謝と励ましの言葉となって表れている。死の不安とたたかいながら、明るく生きようとする姿に児童は心を打たれていた。本実践を通じて、児童は生きることの意義と死について深く考えることができた。</p>	<p>出典： 新しい道徳 6年 東京書籍</p>
107	相模原市	小複合	道徳	<p>命の大切さ・尊さについて</p>	<p>多くの人の命を守るために、自分の危険を顧みずに人々を助けようとする警察官について考えることを通して、自分の命が多くの人によって守られていることに気づき、自分も他の人の命も大切にしようとする気持ちや態度を育てられるようにした。</p>	東京書籍「土石流の中で救われた命」
108	横須賀市	小2	道徳	<p>おとうとのたんじょう</p>	<p>弟「健太」に対する親の思いを話し合うことで、名前に込められた思いや生きていることを喜ぶ姿に気付かせていった。その中で健太のしぐさや動きを「生きているサイン」として扱い、それぞれの家族が誕生や成長を喜び、支えてくれるすばらしい命であることを実感させた。</p>	
109	横須賀市	小5	道徳	<p>人権教育 「国際人権センターの活動から学ぶ」</p>	<p>現在もなお、世界の一部の国では貧困や紛争、戦争、宗教や人種の対立などが起こっている。そこで、国際支援団体が協力して、難民となってしまった人々を飢えや病気・ケガなどから守り、助ける活動を行っている。そうした活動を知る中で、命の大切さや今ある平和や安全のありがたさを学んだ。子どもたちの感想の中には、生きていくのすら危うい生活をしている子どもたちに驚きを受け、支援活動から優しさや思いやりを学んだと答えた児童もいた。</p>	<p>講師は、国際人権センターの会長。 DVDを視聴して、活動の具体的なイメージが持てた。</p>

110	横須賀市	小2	道徳	生命の尊さ おとうとのたんじょう	「おとうとのたんじょう」を読み、赤ちゃんのあくびなどの何気ない仕草や動きが生きている証拠であり、それを見て家の人喜んでくれていることに気づいた。また、話し合いを通して、自分も家の人から愛され、守られていることにも気づくことができた。命は一つしかなく、その命は家族の願いを受けて生まれてきたことを感じ、自分の命を大切に、元気に生きていこうという思いを持つことができた。	光文書院 「いただきます」
111	横須賀市	小2	道徳	うつくしいもの うつくしいところ	教科書の写真を見て、美しい心について考えた。 植物が元気に育っている写真や、赤ちゃんが泣いている写真を見て、子どもたちは生命の尊さを感じている様子だった。	
112	横須賀市	小5	道徳	生命の尊さ 「一枚の写真から」	「一枚の写真から」という教材を通して「生きているしょうこ」とは何かを考えた。教材の中の子と同じように昔の自分と今の自分を比べてみると、体だけでなく心も成長していることに気づき始めた。そして、その成長が「生きているしょうこ」であること、「生きているしょうこ」は人それぞれ違うことにも気づいていった。 振り返りでは、「周りのことを考えられるようになった」「今の方が大人の考えをしていた」などと自分自身の成長を実感したり、「どんな自分になるか楽しみ」などとこれからの未来に希望をもったりしていた。	「ゆたかな心」 (光文書院)
113	横須賀市	小3	道徳	「いのちのまつり」	「みんなの命は、誰からももらいましたか。」という最初の発問から、命のつながりについて考えた。「いのちのつながり」の教材文を読んだ上で、自分の命につながっている人は、どれくらいいるのかを児童に考えさせ、図に表した。その図を元に、命は過去から受け継がれ、未来へと受け渡していくことを児童と理解し合った。児童の中には、「おじいちゃん、おばあちゃんといったご先祖様がいなかったら、今の自分はいない。」や「自分の命を未来につないでいきたい。」などの考えを持つことができた。	「小学どうとく ゆたかな心 3年」光文書院
114	横須賀市	小4	道徳	「五百人からもらった命」	四十年以上前の愛育病院で、輸血の必要がある患者に対して、500人を超える人々から献血の申し出があったという事例から、命の大切さについて学習した。自分とは直接かわりのない他人の命でも、大切な命の一つであることは変わりなく、最善を尽くして人命を助けたいという人々の思いを感じることができた。また、医師や放送局の人など、さまざまな人に支えられて命が助かったことを知り、助け合うことの大切さにも気づくことができた。	「小学 どうとく ゆたかな心 4年」 光文書院
115	横須賀市	小3	道徳	いただきます	「いただきます」とは、何をいただいているのか、ということについて考えた。肉や魚、野菜などは元々生きている命、卵はこれから生まれる命。これらを食べられるようになるまでは、農家さんや漁師さん、調理委員さんやごはんを作ってくれる人など様々な過程を経て届いているんだ、ということに改めて考えることができた。授業後、「今まで生きていた動物にごめんなさい、食材を育ててくれた人にありがとう。」「元気の元は動物たちの命だと思った。」などと考えている児童が多くいた。	道徳教科書 ⑩いただきます

116	横須賀市	小6	道徳	生命の繋がり	教材を通して、自然の偉大さや生命の繋がりなどを感じさせる授業となった。教材文と動画視聴から、大自然の中でエゾマツが知恵をしぼり出しながら生きようとする姿から、子どもたちは学びを深めていた。親木が死んでも、次の世代へと命をつなごうとするエゾマツの様子から、自分自身の「生きていること」についても考えを広げていく展開となった。エゾマツの知恵に驚きながらも、懸命に子孫を残そうとする姿に畏敬の念を感じるとともに、生命の神秘にもついても考えさせられた。	教材 「自然のゆりかご」 動画YouTube 「北海道 エゾマツ」
117	横須賀市	小5	道徳	道徳 「一枚の写真から」	本単元では、自分の小さいころの写真と現在の写真を用意し、その写真を通じて、自身の成長を感じ取り、自他の生命を尊重する心を育むことをねらいとして実践を行った。一人ずつ自身の小さいころの様子を写真とともに話していく中で、「～なところが今と変わらないね。」や「今もそうだけど、～なところは成長してるよね。」などと、10カ月ほど過ごしてきた仲間だからこそ分かる、多角的な見方で友達の成長を感じ取る児童の姿があった。小さいころと変わらない部分と、成長した部分がどちらもあるという点に面白さと喜びを感じる児童の様子が多く見取れた。	
118	横須賀市	小5	道徳	いのちの重み 「命の大切さ」	命は大切と口ではいうが、実際には自殺者も含め命が失われていくニュースを毎日のように子どもたちは耳にしている。命は大事なのに、どうしてこんなに毎日人が亡くなっていくのかという子どもの疑問から改めて「なぜ命が大切なのか」を教材を通して考えていった。本教材は命をかけて誰かを守っていく山岳警備隊の話であるが、その中で「命は1人だけのものではない」「自分の身の回りの人たち全てに命が支えられている」などといった子どもの学びがあった。	光文書院 道徳5年 「命をかけて命を守る - 山岳警備隊 -」
119	横須賀市	小5	道徳	人権教育	「人権とは何か」についてから講演が始まった。人権とは「幸せになりたい」「死にたくない」という人間の生きるための願いであること。また、人に対して優しくできない自分勝手な人は幸せにはなれない。という言葉伝えていた。その後、紛争現場（国境なき医師団）のDVDを視聴し映像の中で人が人を傷付け、命を奪うことが世界の中で起きていることを示した。命を奪うことがどれだけ悲惨なことかを実感したようだった。子どもたちからは、周りの人を大切すること。命を守れるような人になりたいという言葉聞くことができた。	横浜国際人権センター ・「国境なき医師団」
120	横須賀市	小2	道徳	公正・公平	導入で、「好き嫌いにとらわれない」というのはどういうことか考えた。子どもたちからたくさんの意見が出た中で、「なんでも食べる」「誰とでも仲良くする」など、種類や違いに捉われないことだという共通点が見つかった。教材を読み、見た目にこだわって仲良くできない野菜たちに対し、「相手の気持ちを考えること」や「違いがあっても仲間であること」など、もっと大切にしなければいけないことがあることに気づくことができた。同じような場面に遭遇した時、好き嫌いに左右されず、友だちと明るく過ごしてほしいと担任から伝え、授業を終えた。	教材名 「やさしい村の子どもたち」 出典 「道徳 ゆたかな心 2年」

121	横須賀市	小2	道徳	一まいのしゃしん(生きる力) ↓ わたしのものがたり(わたしの生きる力)	道徳の教材「一まいのしゃしん」から、人は元気に生きようとする力を持っていることや多くの人に支えられながら生きていることを学んだ。それを受けて「わたしのものがたり」では、生まれてからの自分の成長を保護者の方と一緒に振り返り、アルバムを作成した。その活動を通して、この命はお母さんが命がけで生み、大事に育てられてきたことを実感することができた。	
122	横須賀市	小4	道徳	『生命の尊さ』	学級目標に『あきらめない』という言葉が入っている。学級で振り返りをした際、『諦めない姿のイメージを具体的にもつと良い』という意見が出た。そこで、自らの生命の尊さや有り難さがわかり、精いっぱい生きていこうとする態度を育てることをねらいとして授業を行った。道徳教材『せいいっぱい生きる』を活用し、闘病しながらも自らの命をせいいっぱい大切に生きた登場人物の少女の行動や思いを考えた。多くの児童が生命力の偉大さに気づくきっかけとなった。また自分事として考え、自分に出来ることややってみたいことに最後まで取り組み、やり遂げることが、『あきらめない』『せいいっぱい』ということだと気づくきっかけとなった。	4年道徳 『せいいっぱい生きること』
123	横須賀市	小5	道徳	いじめ&命の尊さ	教材をもとに、何気ない一言が相手にとってどのような影響をもたらすのか、自分が行った行動によって相手をどれだけ苦しめるのかについて考えた。 (いじめ)いじめを苦にして亡くなってしまった人のことを考え、命の大切さについても共に考えていった。 (命の尊さ)子どもたちからは、「自分の行動に責任をもちたい」「たった一つしかない命を大切にしていきたい」と前向きな振り返りが見られた。	わたしの妹
124	横須賀市	小2	道徳	生命の尊さ	教材をもとに、命がどうして大切だと思うかについて話し合いをした。2年生なりの言葉で、表現することができた。また、作品中のお父さんやお母さんが健太くんに思っている感情を想像しながら、自分たちも両親に大切に育てられていることに気づくことができた。「少しわからないことがあったけど、友だちがいいことを言っていた。」「やさしい気持ちになりました。」など、子どもたちのふりかえりの言葉が印象的な時間だった。	「おとうとのたんじょうび」
125	横須賀市	小2	道徳	「おとうとのたんじょう」光文書院	「いのちは〇〇」と続く言葉を考えさせた。どの子も「大切」という言葉選んでいた。教材文にある「生きているサイン」という言葉に、印象付けられる児童が多く、理由を聞いたら「大きくなった今も、お腹がすいたり、あくびをすることもあったりして、自分が今生きていることを感じたから」という回答が多かった。教材文を読み、自分事として考えることができていた。	
126	横須賀市	小3	道徳	『いただきます』	教科書掲載教材を活用し、標記のテーマで授業を行った。教材の内容に沿うほか、日常生活で接する生き物たちの命の価値が、人間の生活の中でどう扱われ位置付けられているかということにも言及し、多面的・多角的な見方・考え方を働かせながら、命について思考を深めさせた。	教科書

127	横須賀市	小2	道徳	生命の尊さ	生まれたばかりの弟の様子から、自分の成長に気づく主人公の姿を通して、大きくなったと感じることについて考えさせ、命を大切にしようとする心情を育てる事をねらいとした学習を行った。そして、自分自身が大切にされていると感じた体験について学級全体で話し合いをした。児童からは、けがや手術をした時に、家族がとても心配し、優しくしてくれた事等の意見が上がった。	教材・道徳 光村図書 「ちいさなふとん」
128	横須賀市	小3	道徳	戦争について	広島原爆についてのおこりじぞうを視聴し、感想交流を行った。子どもたちの感想には、「核爆弾はとても怖い」「ロシアとウクライナの戦争も早く終わって欲しいな」などと、戦争は遠い昔の話ではなく、自分たちが生きている時代にも起こり得る事だと感じている児童が多かった。	3年 「おこりじぞう」 教配
129	横須賀市	小1	道徳	おたんじょうび れっしや	自分は、多くの人に支えられてきただけでなく、自分のもっている生きる力によって、今日まで健康で元気に成長してきたことがわかり、そのすばらしさに心を動かし、生命を大切に生活していこうとすることをねらいとした。 「だれにだってお誕生日」の曲の歌唱やおたんじょうれっしやの教室掲示を作成したことで、誕生日はどうしてこんなにも大切にされるのか考えさせることで生命の大切について考えさせた。	光文書院小学 どうとく ゆたかな ころろ1年
130	横須賀市	小1	道徳	みんな みんな いきている	自分が生きて成長していることの喜びを実感し、いろいろなことができるかけがえのないいのちのすばらしさに感動し、いのちを大切にしようとする事をねらいとした。 「手のひらを太陽に」の歌詞“生きているからかなしいんだ” “生きているからうれしいんだ”等の歌詞に注目しながら、子どもが今までにあったかなしいことやうれしいことについて考えさせ、生きているからこそそのような気持ちになれるということを考えることができた。	光文書院小学 どうとく ゆたかな ころろ1年
131	横須賀市	小4	道徳	生命の尊さ	道徳教科書「せいっぱい生きる」の授業を行った。また、読書活動の時間に小児がんの子どもを支援するレモネードスタンドについての絵本「僕はレモネード屋さん」を読み、単に命の大切さについて考えるのではなく、今を生きている自分に何ができるか、を考えさせた。	「ぼくはレモネードや さん」えいしましろう
132	横須賀市	小4	道徳	生命の尊さ 人権	「わたしのいもうと」の読み聞かせをし、相手が覚えていないような些細な言葉も、相手を深く傷つけ命を落とすほどに苦しめることがあるということについて考え、話し合った。	「わたしのいもうと」 松谷みよ子文

133	横須賀市	小複合	道徳	「いただきます」	「ありがとう」「ごめんなさい」の言葉を伝えるときは、どんなときかを考えた。児童の発言では、「助けてもらったとき」や「相手に対して悪いことをしてしまったとき」など、今まで生活で体験したことを思い出しながら書くことができた。本題である「いただきます」では、どんな気持ちで言っているのか投げかけてみた。児童たちは、「料理を作ってくれたお母さん」「給食調理員さん」「食べ物」など発言が出た。それぞれの意見を考えていくうちに児童は「いただきます」の言葉に興味を持ちはじめ「何をいただいているか」について考えた。そのことにより、「豚や牛・野菜」などの命をもらっていることに気づく児童が増えた。	どうとく ～ゆたかなころ～
134	横須賀市	小5	道徳	「いじめについて考えよう」	「いじめ」について、多角的な視点から考えた。「いじめられている子」の気持ちを即興劇を見ながら考えたり、「いじめを見かけたときの行動」を実際に演技をしながら考えたりした。善いと思う行動を考えることはできても、それを実行することは難しい。しかし、どのような行動をとったらよいのか知っていることは大切であり、具体的な行動の仕方を考える児童の様子が見られた。	講師は、劇団プライバッカーズ。
135	横須賀市	小2	道徳	公正・公平	登場人物が「自分の心は、体とちがい、女の子だ。」というカミングアウトをするところから始まり、「性は違っても君は君」と受け止め、成長していく内容。性の多様性について考え、自分や自分の周りに同じことがあったらどう接するかなどを考えることができた。 個人の性の多様性だけでなく、そこから生まれる様々な家族のかたちが存在することにも触れた。多様性を考えることで、自分や相手を認められる気持ちを学ぶことができた。	「クマのトーマスは女の子」
136	横須賀市	小5	道徳	さまざまな性について知ろう	体の性と心の性が存在し、世の中には多様な性の在り方があるということを知る。女らしくない、男らしくないという言葉に悩んだり、自分の個性を否定される辛さを感じたりしている人がいることを学ぶ 性だけでなく、自分を否定されたり、他の人と比べられたりすることは誰にとっても嫌なことだということを確認していた。	LGBTQをはじめとするセクシュアルマイノリティ授業（少年写真新聞社）
137	横須賀市	小複合	道徳	いのちと平和について考える	堺市空襲をテーマに、児童が平和やいのちの大切さに迫ることをねらいとして行った。 7月10日夜、B29の大編隊。大阪の町に雨のように降ってくる爆弾。毎晩のように続く空襲は、日本中の大きな町を焼け野原にしていく。泣き虫の絹ちゃんはお母さんと、まだ小さな赤ちゃんのみち坊と3人で暮らしている。火の海は絹ちゃんたち親子3人にも容赦なくせまってくるという映像を通して、戦争の悲惨さを伝えることができた。「戦争はいけない」などの感想をもつことができ、効果的だった。	・低学年 ・DVDアニメ「おかあちゃんごめんね」

138	横須賀市	小複合	道徳	平和といのちの大切さについて考える	広島に引っ越してきた小学生のなっちゃんは、ベンチに座って友達のとしちゃんのために赤い手袋を編んでいた。しかしそこに、原子爆弾が落ちてきて、なっちゃんは死んでしまう(影になってしまう)。映像から「二度とあの日が来ないように」「みんなが影になつてしまわないように」「友達との日々を大切にしたい」などのメッセージを受け取ることができた。そして、広島原爆投下で友達を失ってしまった主人公の視点から、児童が平和やいのち、友達の大切さについて深く考えられた。	・高学年 ・DVD アニメ「なっちゃんの赤い手袋」
139	横須賀市	小6	道徳	生命の尊さ	東日本大震災で被災し、大切な家族を失った高校生が、トランペットの演奏で人々の心を打った、というエピソードから、「命を輝かせて生きる」とはどういう生き方かを考える授業だった。当人の思いや考え方を想像しながら、同じような気持ちが自分の中にもあることに気づき、自分の命をかがえのないものとして受け止めることをねらった。自分の命はもちろん、周りの人々にもそれぞれかがえのない命があることにも考えが及び、命を輝かせている人を探して、発表することができた。	
140	横須賀市	小3	道徳	いのちのまつり	教材文を読んで、自分の命のつながりについて考えるとともに、命の大切さについて話し合った。自分を生んでくれた家族や、ご先祖さまについて考える中で、「お父さんやお母さん、そのまたお父さんやお母さんのおかげで今の自分がいるんだ。」と実感しているようだった。授業のふりかえりの中でも、「家族に感謝の気持ちを伝えたい。」「自分も将来いのちをつなげていきたい。」という思いを持つことができた。	光文書院 小学 どうとく ゆたかな心 3年
141	横須賀市	小3	道徳	命どうたから	70年ほど前に沖縄県で起こった戦争から、命の大切さを考える授業。主人公が祖母から戦争の話聞く場面で、「祖母は何を伝えたかったのだろうか」と全体に問い、考えを出し合った。「戦争で亡くなった人たちの命を思いながら生きること」や「二度と戦争を起こしてはいけない」などという意見が出た。戦争で亡くなった人たちの中には、生きたくても生きられない命があった事を全体で確認し、授業を通して命について感じたり、考えたことを振り返った。振り返りでは、「いただいた命を無駄にしないこと」や「亡くなった人の心をつなぐために今できることに全力で取り組む」などという意見が出た。	どうとく ～ゆたかな心～ (光文書院)
142	横須賀市	小3	道徳	いじめについて	イラストから、「おかしいな？」と思う個所に丸をつけ、なぜおかしいと思うのか、された側はどう感じるのかなどを考え、それぞれが思うことをクラス全体で共有した。一つ一つの出来事がいじめにつながり、相手を傷つけ、嫌な思いをさせることで、いのちを落としてしまう人もいることを知り、どういった行動をとっていけばよいかを学んだ。	ワークシート

143	横須賀市	小6	道徳	生命の尊さ	教材『生命のメッセージ』では、交通事故で息子さんを亡くした鈴木さんが「生命のメッセージ展」を通して、「生きているってそれだけですてきなことなんだよ。」ということ伝えてる。授業の中では導入で「命を輝かせる」ってどういうことなのかを考えました。その後、教材を読んで改めて「命を輝かせる」とはどういうことか考えました。鈴木さんや事故や犯罪で家族を失った人たちの想いを踏まえて、今後どういう風に命を輝かせて生きていきたいかを考えていました。導入では具体性がもてていなかったが、最後の振り返りでは、自分なりの「命の輝かせ方」を見出すことができていた。	
144	横須賀市	小2	道徳	生きる力	「生きる力」を「つくった力」と「もらった力」に分類し、自分にはどんな力があるかを考えたら、「階段を登れるようになった」「首がすわった」「補助輪なしでも乗れるようになった」「はじめて歌を歌えるようになった」「手がつかえるようになった」など、今は当たり前前にできていることも、初めてできたことはとても嬉しいことをみんなで実感した。その後の振り返りでは「朝起きれるようにしたい」「ご飯をいっぱい食べたい」「幸せに暮らしたい」など、子どもなりに生きる力を大切にすることを感ずることができた。	「わたしのものがたり」
145	横須賀市	小1	道徳	生命の尊さ	天気が続き、池の水が少なくなり死にそうになっていた友達のために、命を助けようとしたかこの行動について話し合うことで、自分の命だけでなく、人の命を大切にしようとする心や行為の良さについて考えさせた。そして、自分の命をどのように大切にしていくなのかを自分ごととして振り返らせた。	湧き出した水（光文書院）
146	横須賀市	小2	道徳	生命の尊さ	教材、エコー動画を読んだり見ることで、赤ちゃんの立場、家族の立場から生きる力や命の大切さについて考えさせた。そして、自分の成長には家族の願い、自分の生きる力があり、命を大切にしていこうとすることなど、分かったことを振り返らせた。	おとうとの誕生（光文書院）
147	横須賀市	小1	道徳	命の誕生	絵本「アンパンマンたんじょう」の読み聞かせを行った。子どもたちもよく知っているアンパンマンの絵本を読み聞かせ、アンパンマンがどのようにして誕生し、今に至るのか。また、アンパンマンが誕生したことでどれだけ周りの人が喜んだのかということから、命の尊さについて触れた。そして、与えられている命を大切に、家族や友だちと素敵な時間を過ごしていこうとする気持ちを持てるようにした。	やなせたかし原作
148	横須賀市	小4	道徳	生命の尊さ	「命を救う仕事に、誇りと情熱をもって取り組んでいる人たちは、どのような気持ちで働いているのか。」という問いについて教科書の題材にある「レスキュー隊」を用いて、児童に考えさせる授業を行った。子どもたちのワークシートには「人の命はかけがえないものだから1つでも多く守りたい。」「人の命に代わるものはない。」などの意見が出てきた。また年間を通じて、総合的な学習では「災害」をテーマに学んできた。様々な災害について学んだ知識からレスキュー隊の人々の仕事について、具体的に考え、より深い学びをすることができた。	光文書院 道徳科 教科書

149	横須賀市	小6	道徳	真理の探究	ある看護師が、交通事故で脳に重い障害を受け意識が戻らなくなった少年を、諦めず、工夫し続けることで、失った意識を回復させていくという話を教材として、人のために真理を探求しようとする事の素晴らしさや大切さを考える授業を行った。授業の振り返りでは、「命を助けるために諦めない姿勢に感銘を受けた」や「自分が人の命を助ける立場になった場合は、自分のできる限りのことを一生懸命行いたい」といった感想が多くみられた。また、「命を救うために、働いている人たちに感謝したい」といった感想もあった。	光文書院 道徳科 教科書
150	横須賀市	小4	道徳	生命の尊さ	「せいいっぱい生きる」の意味を問いかけると、「一生懸命」「元気に過ごす」「勉強や運動を頑張る」などが思い浮かぶようであった。しかし、題材を読み、自分たちと同じ小学4年生の宮越さんが病気になってなくなったことを知り、「今、自分ができていることは当たり前ではない」と気づくことができた。また、宮越さんの詩に出会い、命に対する考えが変わった盛田さんの姿から、「せいいっぱい生きる」とは、「命を大切にすること」「自分にできることをせいいっぱいすること」と捉え直すことができた。	光文書院「小学どうとく ゆたかな心4年」 主題名「せいいっぱい生きる」
151	横須賀市	小3	道徳	教材「いのちのまつり」	「大切なものはなに？」という問いかけから授業開始。子ども達から「命」や「家族」という言葉が出るのが予想されるが、「なぜ命は大切なのか」という疑問に深く授業で考えていく。本時の教材では、命の「連続性」や「繋がり」などをキーワードにして、親はもちろん先祖まで思いを馳せて考えを深める。	学校行事…不審者訓練
152	横須賀市	小2	道徳	命の尊さ 家族愛	自分のいのちは家族の願いを受けて生まれてきたことや、自分には生きる力があることが分かり、自分の命を大切にすることを考えた。活動内容は、①命が大切なわけを友だちと考える。②「おとうとのたんじょう」を読み、「生きる力」と「命の大切さ」について考える。③自分の名前には家族の願いや思いが込められていることを考え、自分の名前の由来を聞いたり、自分の成長を家族に聞いたりする活動をさせた。④生活科と関連させ、自分の成長を調べてまとめた。	
153	横須賀市	小3	道徳	生命の尊さ	理科の学習で、植物や昆虫の学習をした際、新たな種(卵)を残し、新たな命が育まれることを学んだ。実際カイコを飼い、カイコガが卵を産むところまで観察をすることで、生命のつながりを実感した児童が多くいた。道徳では、理科で学んだことを自分に置き換え命のつながりについて学んだ。そこで、「一人でもいなかったら自分はいたのかな。」「自分がいることが奇跡みたい」と生命の不思議を児童が多くいた。また、自分だけでなく友だちのことも大切にしたいと感じた児童もいた。	理科 『植物を育てよう』 『昆虫を育てよう』

154	横須賀市	小2	道徳	食育について	<p>食物は全て「命」であることを学習しました。年度初めの学習（食育）で、食べ物の「大切さ」「感謝」をいろいろな視点で考えました。日頃から当たり前で食べているもの、好き嫌いをして食べ残しているものについて振り返りました。そして、今後はどのようにしていきたいかということも考えていきました。</p> <p>絵本も導入に使い（「いのちをいただきます」）牛肉（牛）について読み聞かせを行いました。子どもたちは今まで、考えもしなかったことに触れ、その日の給食から「食べ物」について考えて食べている姿が見られました。</p>	
155	横須賀市	小2	道徳	いじめはゆるさない	<p>教室の休み時間の場面を描いたイラストを見せ、いじめの被害者・加害者（周りで囃し立てている子も含む）・傍観者それぞれの“気持ち”を子ども達に考えてもらい、意見を出し合っていた。</p> <p>「命の大切さ」についてもふれながら、『いじめは絶対に許さない!』ということ子ども達には伝えた。「つらいこと・困ったことがあれば先生に話していいんだよ、傍観者になるのではなく勇気を出して行動に移してほしい、決して加害者にはならないでほしい」ということも伝えた。</p>	佐賀県教育センター だれでもできる「一枚の絵」を使った道徳の授業
156	横須賀市	小2	道徳	阪神淡路大震災を知る	<p>27年前の1995年1月17日午前5時46分に発生した「阪神淡路大震災」について、震災直後の写真や当時のニュース映像を見せることで、地震の大きさや当時の様子、震災を経験した人々の苦しさなどを知るとともに、命を大切にしようとする気持ちや、今後発生する可能性のある災害に備えるための意識を高めた。</p>	ANN NEWS 阪神淡路大震災 地震発生の瞬間(映像) NHK放送史
157	横須賀市	小4	道徳	生命の尊さ	<p>道徳教材「せいっぱい生きる」を活用し、命の尊さについて考えた。まず、「せいっぱい生きるとは？」という問いかけに対して既存のイメージを共有した。そのうえで、教材中の詩から感じられることや登場人物の生き方を通して感じられることを中心に意見交流を重ね、まとめで再度「せいっぱい生きるとは？」について考えた。同じ質問でも、学習前と学習後ではそれぞれの考えに具体性が生まれた。教材分が実話であることもあり、命の尊さや「生きるということ」について考えを深めることができた。</p>	
158	湘南三浦	小1	道徳	ちいさなふとん	<p>生まれたばかりの弟の様子から、自分の成長に気づくよしこの姿を読んで、子どもたちが大きくなったと感じることについて考えた。生きることのすばらしさや命を大切にしようとする心情を育てたいと思い授業をした。</p>	『どうとく きみがいちばんひかるとき』 (光村図書)
159	湘南三浦	小6	道徳	助け合って生きていくために必要なこと	<p>教科書「五十五年目の恩返し」の教材から、多くのユダヤ人が救われ、その恩返しが五十五年後にされたエピソードを通して命が助かることの重さを学んだ。</p>	
160	湘南三浦	小5	道徳	人権・平等を考える 「だれもが幸せになれる社会を」	<p>「ハンセン病」にかかったことによって社会的な差別や偏見を受け、つらい生き方を強いられる例をもとにして人権について考えた。差別や偏見はいけないことだとわかっているが自分では気づかない間に、知らず知らずのうちに人によって態度を変えてしまっていることもある。このことから、自分の行動を見つめ直し、偏見や差別はいじめであり、人の幸せを奪うことにつながってしまうということ学んだ。</p>	道徳の教科書 光村図書

161	湘南三浦	小1	道徳	みんないきている	5つの絵（ご飯を食べる、友だちと一緒に本を読む、けがをする、眠くなっておんぶされている。顔を洗う）を見て、自分の日常に改めて目を向け、自分が普段感じる当たり前の感情や感覚がとても大切なことだということを話し合い、考えた。	1年生道徳教科書
162	湘南三浦	小1	道徳	生命の尊さ	日常生活の挿絵をもとに、自分が生きているなど感じる場面を児童と共有した。当たり前の日常を大切にしてくために、家族との関わりや自分の生活をふり返った。	「みんな いきている」
163	湘南三浦	小4	道徳	生きているしるし	自分が生まれたときのことを父親から聞いたちえ子が考えを巡らせる姿を通して、一人ひとりの命の大切さについて考えさせ、多くの人々に支えられている尊い命を大切にしていこうと考えさせた。	道徳 光村図書 生きているしるし
164	湘南三浦	小5	道徳	自分の身は自分で守る	命を守る大切さについて話を聞き、防災訓練の訓練の意味を考え直した主人公の考えの変容から、自分の命の大切さや、自分の身は自分で守ることの意味を考えさせた。	道徳 光村図書 「自分の身は自分で守る」
165	湘南三浦	小4	道徳	平和について考えよう	国語「一つの花」の学習から発展させ、「平和」とは何かを考える時間を設定した。イメージマップを活用し、平和から想像することを書き出し、書き出したことから「平和とは」をみんなで考えた。また、運動会の演技の曲「よさこいエイサー」の歌詞の意味から、沖縄の人たちの気持ちを想像し、「平和」についての考えを深めた。	
166	湘南三浦	小2	道徳	命を大切に「がんばれアヌーラ」	動物をテーマとした、命の大切さ、尊さを学習する授業を行った。まず、本文を読み聞かせ、動物園の象のアヌーラが病気になったが、仲間の二頭の象がアヌーラの体を支え、助けている場面をしっかり読み取らせた。それをもとに、児童に自分たちも命を大切にするために支え合っていることはないか、と尋ねた。そうすると、児童から、母親が病気になってしまったことがあり、家事を手伝ったり、できる看病をしてあげたりした。という話が出てきた。もとは動物の話ではあるが、祖父母を大事にしている話が出てくるなど、自分たちも家族で支え合い、命を大切にしているということを共有することができた。	教科書 光村図書
167	湘南三浦	小3	道徳	命の尊さ 「生きている仲間」	農家でのトマト栽培のお手伝いという文章を読んだ上で、生命のつながりについて考える、という授業を行った。生きているとはどういうことか、と発問をすると、命がある、触れ合う、という反応が出た。また、本文をもとに、トマトを栽培していると、トマトを買ってくれる人とのつながりが出てくるし、トマトの成長と様々な生き物がかわっていることを知り、児童の考えも発展した。このつながりや関わりは、自分ひとりで生きてわけではない、相手も生きているのだから、大切にしていこうという思いを児童の中に育むことができた。	教科書 光村図書

168	湘南三浦	小2	道徳	平和教育 「戦争について」	教文研ライブラリーより「おこりじぞう」のDVDを借りて視聴した。担任が夏期休暇を使って広島に行くことを伝え、千羽鶴の募集をしたところ千までは届かなかったが、自主的に折ってくる児童が多かった。DVDを見て、戦争の悲惨さやむごたらしさを感じ、亡くなってしまった人のために自分ができることを千羽鶴として形に表したのだろう。広島に届けた話とともに、平和記念式典の話も伝えた。「おこりじぞう」の絵本は、購入して学級文庫とし、自由に読めるようにした。	DVD「おこりじぞう」
169	湘南三浦	小3	道徳	かけがえのない命「大切なものは何ですか」	自分にとって大切なものは何かを考える活動をきっかけとして、自分の大切なものと命の関連性について考える授業を行った。命は大切である事を学ぶだけでなく全てのものと命の関係に気づかせ、生きている事の素晴らしさを感じさせる指導を行った。児童は活動の中で命があっても大切なものがなければ楽しくない事や、大切なものがあっても命がなければ意味がないことに気づくことができた。話し合いながら大切なものと命の関係について考えることができていた。	道徳3（光村図書）
170	湘南三浦	小6	道徳	アサーティブコミュニケーションについて学ぼう	アサーティブコミュニケーションについて学んだ。自分の気持ちを表現するときには「攻撃的」「受身的」「アサーティブ」の3つに分類されるということを知り、学校生活や友達関係においてよくある場面について、普段はどんな言葉を使うかロールプレイを行った。自分が普段どんな言葉を使っているのかを振り返ると、多くは「攻撃的」「受身的」な表現だったことが分かった。相手のことも自分のことも大切に表現とはどのようなものか積極的に話し合っていた。	茨城県教育研修センター 教育相談に関する研究 エクササイズ集
171	湘南三浦	小5	道徳	生命の尊さ「命の大切さ」	みやこしゆきなさんが書いた命の詩やエピソードを読み、命について考えた。命のかけがえのなさを自覚し、限りある命を懸命に生きようとする心情を育てた。命を大切にするためにや、いじめとはどんなものかを考え、自分たちにはどんなことができるのかをみんなまで考え、話し合った。	教材は、5年道徳教科書「命の詩―電池が切れるまで」
172	湘南三浦	小1	道徳	生命の尊さ	「いきているって」は、息をするなど生きていれば当たり前にするのは、生きているからこそのことであるという詩から、生きていることは素晴らしいこと、尊いことだということに気づかせる内容であった。日々の生活を振り返りながら、命について深く考えていく中で、児童は実感を持って命の尊さを感じている様子がワークシートや発言の内容から見て取れた。また、「生きるとは」という核となる発問には、友だちや家族との関わりについて話したり書いたりする児童が多かった。当たり前のように一緒に過ごしている友だちや家族との日常も、命あってこそその日常であるのだということに気づくことができた。	光村図書 『どうとく1』 「いきているって」
173	湘南三浦	小2	道徳	生命の尊さ	本教材ではまど・みちお作詞の「ぞうさん」が紹介されており、この曲を通して児童に「いのちはつながっていること」を感じさせる授業であった。ぞうさんは「おはながながいのね」と言われたことに対して、どんな気持ちで「そうよ かあさんも ながいのよ」と答えたのか考えた。また、これまで生きものが誕生する場面に遭遇したことがあるかを振り返ることや、自分自身の身内に似ているところはどこかを考える活動を通して、命はつながっていることを実感した。児童は自分だけの命ではないことを自覚し、また友だちも同様であることを理解し、自分の命も友だちの命も大切にしなければいけないことを学習することができた。	光村図書 『どうとく2』 「生まれるということ」

174	湘南三浦	小6	道徳	自分を支えてくれている人に感謝の気持ちをもって	重い心臓病の手術を前にして、お母さんへの感謝の気持ちを手紙で残した子どもについての資料を扱った。周りの人への感謝の気持ちを持つこと、今の生活ができることは命があるからであり、当たり前ではないということについて授業を通して、子どもたち考えられるようにした。	教科書等
175	湘南三浦	小6	道徳	命の大切さとその重み	「命の重みを考えよう」を本時のめあてとし、ひとりひとりが「精いっぱい生きるとはどういうことか」を考えた。題材のあらすじは、軽はずみな気持ちで『死ね』という言葉が発してしまった主人公。その後おじいちゃんの死を体験し、これまでの生活について振り返り、今後の生き方について考え始めるという内容である。ワークシートに、自分が考える「精いっぱいの生き方」をまとめ、それを友だちと伝え合う活動を行った。自分の考えだけでなく、友だちの考えにも触れることで、「命」について多面的に捉えるきっかけを作ることができた。	教科書
176	湘南三浦	小1	道徳	いのちについて	普段何気なく食べているお肉について。生きている動物だと、かわいい。しかし、食べているお肉は、生きている動物と結びつかない。お肉はいのちをいただいている。給食での残食など、そこにもいのちがあることを意識してほしい。生きていくために、他のいのちをいただくことの意味を伝え、感謝することを学んだ。授業で涙ぐむ児童も数人いて、いのちは大事でこれからは大切にいただくという感想が多く見られた。また、皮が身近な太鼓になっていることにも驚いていた。	『いのちをいただく』/ 内田美智子 『うちは精肉店』/ 本橋成一
177	湘南三浦	小4	道徳	いじめ防止教室	湘南DVサポートセンターの職員の方を講師に迎え、実際に担当したケースの話をもとに、授業を行った。「自分の気持ちを見失わない」ということが大切であるという話があり、この言葉がとても印象に残った。また、自分の気持ちを天気で表すイラストを用いて表現するという具体的な例で示し、子どもたちに分かりやすい内容だった。講師の先生がいじめにあっている子は自分の感情が分からない。言葉で表現することができない。という話を聞いて、いじめについて真剣に考えることができた。	湘南DVサポートセンター職員
178	湘南三浦	小2	道徳	つながるいのち 「生まれるということ	「あやちゃんが生まれた日」という絵本の読み聞かせを通して「新しい命が生まれるということは、両親の命がつながる尊いことである」と話した。絵本は、主人公が生まれた時の話を母親が語るという内容だった。クラスには、自分が生まれた時の話を親に聞いたことがある児童が半数いた。親から繋がれた命はかけがいのないものだと感じている児童が多かった。	絵本 浜田桂子 「あやちゃんの生まれた日」
179	湘南三浦	小5	道徳	命の尊さ	映画『ブタがいた教室』という作品を鑑賞し、「飼育したブタを食肉センターに送るのか?」「送らずに別の方法を模索するのか?」自分だったらどのような判断を下すのかを考え、意見を交流した。子どもたちは、互いの考えを伝え合う中で、食べるということが、命を『奪う』ことではなく、命を『受け継ぐ』ことなのだ認識を改め、新たな価値観を得ることができた。生きるという事は、多くの命によって支えられていることであり、日々、命をいただいていることに感謝の気持ちをもつべきであるとの認識を深めることができた。	映画『ブタがいた教室』

180	湘南三浦	小6	道徳	生命の尊さ	祖父の死をきっかけに、命の重みについて深く考えるようになった主人公の気持ちについて考えることを通して、これからの自分の人生をどのように生きていったらよいかを考えさせた。子どもたちは「人のことを傷つけないようにしたい」「何事にも全力で取り組むことが大切だと感じた」「やらなきゃいけないことをしっかりやっていくことが大事だと思う」と、自分の生活を振り返って考えていた。	(参考資料) 「おじいちゃんとの約束」 光村図書6年道徳
181	湘南三浦	小5	道徳	被爆体験伝承	伝承者の方から、広島で起きた被爆の実際の状況を聴いた。原爆投下後の街の被害、身体の状態、人々の暮らしの変化など、恐ろしさを感じる映像を通して、テレビでは知ることのできない状況に驚いていた。平和とは何かを考える中で、二度とこのような目に合ってはいけない、命を守っていかなければならない、と振り返る児童の姿が見られた。	講師は、公益財団法人広島平和文化センター委嘱の被爆体験伝承者
182	湘南三浦	小6	道徳	大切なわたし 大切な命	・自分が生まれた頃、幼児の頃の写真やエピソードを親に書いてもらい、カードを作ってみんなで見合った。各々が大切に育てられたことを実感し、自己肯定感をもたせた。 ・「ありのままの自分を認める 自分を好きになる」をテーマに、自分では自信のないところ、だめだと思っているところをリフレーミングしたり、お互いの違いやよいところを伝え合うカードを送り合ったりして、自己肯定感、自己有用感、自己信頼感を高めた。	教科書等
183	湘南三浦	小4	道徳	ゲームやスマホ、言葉のつかい方	具体的な場面の提示から、それぞれの立場にある人の気持ちを考えさせる活動を通して、一人一人の考え方受け止め方は違うこと、自分の想像とは違う方向に進んでしまうこともあること、相手がどう受け止めるかを想像しながら、言葉をつかう必要があることを理解させる。	授業者：教頭 4年全クラス SNSノート(一般財団法人LINEみらい財団)
184	湘南三浦	小6	道徳	生命の尊さ よりよく生きる 喜び	まど・みちおさんが、子どもたちへ書いた手紙を通して、さまざまな障害や困難にくじけず、自分のよさや可能性を自覚してよりよく歩んでいこうとする心情を育てる。	教科書等
185	湘南三浦	小5	道徳	命の大切さ	「命の詩～電池がきれるまで」を題材に、作者の「電池は切れても取り替えればよいが、命を簡単に取り替えることはできない。だからせいいっぱい生きる。」というメッセージを受け取り、生きたくても生きることができない子に思いを巡らせ、今、生きている自分たちの命、友達の命、家族の命、みんなの命の大切さについて考えた。	光村図書 命の詩～電池がきれるまで
186	湘南三浦	小5	道徳	同じでちがう 子どもの権利条約	道徳「同じでちがう」の学習を通して、一人ひとりの命がかけがえのないものであることを理解した。関連させて、児童にも権利があることを提示し、人権について考えた。	道徳教材 「同じでちがう」

187	湘南三浦	小2	道徳	生命の尊さ 「つながる命」	詩「ぞうさん」を読み、「生まれるということが、みんなをつないでいる」といった文中の言葉から、命が脈々につながっていること、自分もまたその一部であることを確認した。授かった自分の命のかけがえのなさに気付かせ、生きることのすばらしさを感じてもらえるように授業を実践した。大好きな家族と似ているところがあることに喜びを感じる児童や、これからも命を大切にし、つないでいきたいと意欲を示す児童もいた。	詩「ぞうさん」 教科書等
188	湘南三浦	小6	道徳	生命の尊さ 「命の旅」	北海道の知床の川に戻ってきた、マスやサケを中心とした食物連鎖の文章を読み、「命が命をつないでいる」ということを知った。そこから、「自分たちはどのような命のつながりの上で生きてきているのか」を考えた。普段食べているものにも、それぞれが一生懸命に生きていたことを忘れずに、感謝の気持ちを持ってもらえるような授業を行った。	教科書等
189	湘南三浦	小1	道徳	生命の尊さ ハムスターの赤ちゃん	道徳の教材を活用して、身近な生き物の誕生や成長の様子を優しく見つめ、命あるものを大切にしようとする態度を育てることをねらいとした。ハムスターの赤ちゃんが生まれたばかりの様子や世話をしてもらっている様子、少し大きくなった様子を挿絵を使って確認した。十日あまりでも、毛が少し増えてきたり、目が開いたり児童はその成長に驚いていた。その後、最後にこれから大きくなる赤ちゃんへ手紙を書いた。「たくさんごはんを食べて大きくなってね」「早くあるけるようになるといいね」など、優しく語りかける様子が見られた。	東京書籍 新しい道徳1
190	湘南三浦	小2	道徳	生きる喜び 「ぼく」	題材では、「ぼく」を中心に好きなものが紹介され、憧れているお父さんやかわいい妹、焼きたてのクロワッサンやお風呂あがりにかけてまわること、水がいっぱいあふれる海の凄さ等、子どもたちはそれぞれの事柄に共感しながら読み進めていった。特に、「ぼく」が一番好きなものは「ぼく」と表現している場面において、子どもたちは「自分がいなければ、自分にとって大切なものは無くなってしまう」ということに気づき、考えを深めていた。最後に、「ぼく」が将来になりたいのはパン屋であるという記述について、子どもたちは自分の好きなことを生かして人の役に立てるといった考えに共感し、自分だったらどうしたいか、前向きに将来の仕事を想起していた。	
191	湘南三浦	小5	道徳	かけがえのない生命	道徳の授業で「クマのあたりまえ」という教材を通して、かけがえのない生命について考えた。子どもたちは、限りある生命を懸命に生きることの尊さ、生命を尊重することの大切さなどを学んだ。	
192	湘南三浦	小5	道徳	心のコップ	「人にはそれぞれ心のコップがあり、辛い気持ちや悲しい気持ちがたまっていく」という考えの基、それがあふれてしまうと、自分の感情を抑えきれなくなるので、あふれる前にどうしたら水を抜くことができるのか、話し合った。人によって嫌に思う内容や感じ方が異なることに気が付くことができた。また、いじめにつながる友だち同士のやり取りを演じ、被害者、加害者、傍観者の立場ごとに、どうしたらいじめを止められるか、人への思いやりについて考え、話し合った。	

193	湘南三浦	小1	道徳	みんなだれかに どきどきどっき んぐ	生き物は助け合って生きていることを、様々な生き物同士の関りから考えた。また、考えたことをワークシートに書き、発表を通して共有した。また、自分の心臓の鼓動の変化を感じることで、自分が生きていることを実感した。鼓動の変化に気づいた子どもたちは驚き、自分以外の植物や生き物の命についても考えた。	
194	湘南三浦	小複合	道徳	「みんなが楽しく 過ごせる学校にする ために、一人ひと りができること」 について考える	各学級で「みんなが楽しく過ごせる学校にするために、一人ひとりができること」について話し合った。具体的な取組としては、いじめ・暴力のない楽しい学校にするために、一人ひとりが言葉や行動について考え、クラス1枚のポスターを作製し掲示した。6月の 共育参観日には、保護者にも見てもらい、取組について共有した。	全学年
195	湘南三浦	小複合	道徳	「いじめをなく そうキャンペーン」	「いじめの種」を見逃さず、学校全体でいじめをなくすためのキャンペーンを行った。学年の発達段階や学級の実情に合わせて資料等を活用しながら、いじめは消えがたい心の傷を負わせてしまうことを学んだ。また、いじめを見つけた際には、勇気を持って担任の先生やその他の先生、お家の人など、信頼できる大人に話すことが大切であることを伝え、いじめを見過ごすことや傍観者になることもいじめにつながることを考えた。	絵本「わたしのせい じゃない」 絵本「わたしのいもう と」
196	湘南三浦	小5	道徳	いじめについて	教室でたくさんの子どもが遊んでいるイラストを掲示し、どの関わり方がいじめなのかと考えさせた。「いじめられた方がいじめだと言ったらそれはいじめである」「いじめは犯罪である」「いじめを苦にして死んでしまう子もいる」ということに驚く様子が見られた。授業参観において実施したことから、保護者に思いを聞くことができ、「我が子がいじめられたらもちろん悲しいが、自分の子がいじめをしていたらもっと悲しい」という話があり、いじめについての考えをより深めていた。	児童作文つばなかゆり作 「どきどきどっきんぐ」 『第49回くらしの文集』 もみじ銀行 2004年
197	湘南三浦	小1	道徳	いのち	うさぎを抱き上げたときに心臓の鼓動を感じた登場人物の様子を読み、自分自身の経験を振り返り、心臓がどきどきした時のことを話し合った。次に、お母さんに抱きしめてもらった登場人物の鼓動が速くなくなったことに着目し、どうしてそうなったかを児童に問うと「安心した」「うれしくなった」等の答えが出た。教材を通して、生きていることの素晴らしさや喜びについて深く感じる事ができた。	児童作文つばなかゆり作 「どきどきどっきんぐ」 『第49回くらしの文集』 もみじ銀行 2004年
198	湘南三浦	小1	道徳	防災教育	もし、大人がいない時に地震が起きたらどう行動すべきか、様々な場面を想定してどう行動したらよいかを考え、意見を共有した。	
199	湘南三浦	小4	道徳	「いただきます」 ということ	谷川俊太郎氏の「しんでくれた」という詩を題材に、食と自らの命を見つめる授業を行った。「うし しんでくれた ぼくのために」という一節から始まる詩を通して、自分が毎日食べているもの（生き物）について改めて意識をし、「いただきます」という言葉について考えた。児童は、食べ物となる生き物の死に対して、「こわい」「これからごはんが食べづらい」などの感想を抱きながらも、クラスで話し合う中で考えが次第に変容していった。授業の最後には、「食べたものに感謝をしなきゃいけない」「自分のために生き物が死んでくれたのだから、その分も一生懸命生きなきゃいけない」と、食を通して自分の命について考えていた。	(教材)『しんでくれた』 佼成出版社、詩・谷川俊 太郎、絵・塚本やすし

200	湘南三浦	小6	道徳	いのち	教科書教材を元に、自分が育ってきた時間を振り返り、「いろいろな人の助けがあったから、わたしたち子どもが生きられる。私たちはそのがんばりの証拠」「人間にも動物にも植物にも家族がいて、一つの命が失われるだけで、たくさんの生き物が悲しんでしまうから命を大切にしていかななくてはならない」と考えた。多くの人の支えがあって人は前向きに生きていくことに気づく、よいきっかけとなった。	道徳 教科書教材 「お母さんへの手紙」 (東京書籍)
201	湘南三浦	小2	道徳	いのち	教科書教材を元に、自分が生まれたときのことを振り返った。名前の由来や家族や親に喜ばれたことなどをそれぞれに思い返し、「名前といのちをもらった」「いのちを神様がくれて病院の人が命を守って、今ここにいる。いのちをどんどん病院の人がつないできたから、大切にしたい」など考えることができた。人が生まれ、そして生きていくことの大切さを考えるよいきっかけとなった。	道徳 教科書教材 「たんじょう日」 (東京書籍)
202	湘南三浦	小3	道徳	生命の尊さ	沖縄県に縁故のある担任が、実際の沖縄文化を紹介しつつ、教材文を扱った。沖縄における墓参りの考え方を補足したり、お墓の写真を見せたりすることで具体的にイメージしやすくした。先祖を遡ることを実際に板書して見ることで、自分が生まれてくるまでに多くの先祖が関わっていることを知り、命のつながりに感謝の気持ちを持った。また、このつながりの結果自分が存在することを奇跡だと感じた子もいた。	東京書籍「新しいどうとく」3 ヌチヌグスージ (いのちのまつり)
203	湘南三浦	小5	道徳	生命の尊さ	阪神大震災の被害状況等を予備知識として伝えた後、教材「ひさの星」を読み、命について迫った。自分につながる命とはどんなものかという問いから、自分を中心に置いたウェビング図を作成し、家族の他、友人や地域の方、ペットなど、血のつながりだけではない人とのつながり、精神的なつながりがあることを確認した。そして自分と関わるすべての人とのつながり全体を「大きな命」として捉え、「大きな命をたいせつにしているか」という主題につなげていった。大きな命に対して、笑顔でいること、感謝の言葉・ありがとうを伝えること、恩返しをすること、関わってくれた人がいることをおぼえていることなどが、大きな命を大切にすることだという意見が上がった。	東京書籍「新しい道徳」5 ひさの星
204	湘南三浦	小3	道徳	生命の尊さ	生命は過去からつながっていることを知り、生命を大切にできる心情を育てる授業をした。教材「ヌチヌグスージ (いのちのまつり)」を読んで、今ある自分の命は、遠い先代から受け継がれてきたことやたくさんいるご先祖様が一人でも欠けていたら自分は生まれていないこと知った。自分の生命が自分一人のものではなく多くの人々の支えによって守り、育まれている尊いものであると知り、生命の大切さについて話し合った。	道徳 教科書 「新しい道徳」
205	湘南三浦	小6	道徳	人権教室	国連NGO横浜国際人権センターの会長の話を聞いた。人権やいのちの大切さについて考え、DVD「国境なき医師団と正義に生きる」を見て、国際理解を深めた。	国連NGO横浜国際人権センター会長
206	湘南三浦	小5	道徳	いのちの大切さ	川で溺れた人を助けたことで亡くなってしまったという事件について考え、いのちとはその人のものであると同時にその人に関わる人たちのものでもあることを知り、いのちの重さについて考えを聞きあった。	

207	湘南三浦	小4	道徳	感動、畏敬の念 『一ぴきのセミに「ありがとう」』	『夏の日。一匹のセミの幼虫が庭の木をよじ登っている。セミの羽化が始まるのだ。いつの間にか家族が集合しみんなで観察していた。セミの羽化する姿はとても感動的で、「ありがとう」という感謝の気持ちが芽生えた。今まで意識したことない、小さな命もこの地球上にたくさん生まれているのだと、考えるようになっていった』という内容について考えたり、子どもたちが自分の経験談を伝え合ったりして、みんなで命の尊さに触れる交流を行った。	新しいどうとく 4 東京書籍
208	湘南三浦	小2	道徳	いのちのつながり「ゆきひょうのライナ」	主人公の行動原理を想像しながら食物連鎖の仕組みを知り、自分の生命そのものがかげがえのないものであることに気づくことができた。初めは「小さな動物を獲るのはかわいそう」という児童が多かったが、徐々に「生きるためには獲らないといけない」立場についても理解できるようになった。「夜はぐっすり眠り、朝は元気に起きられる」、「学校に来てみんなと楽しく学習や生活ができる」といった当たり前のことで見過ごしがちな「生きている証」を実感していた。最後の振り返りでは、「たくさんの命をいただいているのだから、自分のいのちを大切にしたい」という意見があった。	新訂 新しいどうとく ② 東京書籍
209	湘南三浦	小2	道徳	やくそく	交通事故に合った主人公の話を読んで、「いのち」とは何か、また自分の命が危なくなった時、周りの人たちはどう思うかを考えた。自分の命は自分だけのものではなく、多くの人の思いを受けていることに気づき、かけがえのない命を大切にしていこうとすることができた。	「生きる力」 日本文教出版
210	湘南三浦	小4	道徳	自然や動植物を大切にしようとする心情を育てる。	道徳の教科書「いきる力」の『聞かせて、君の声を！』を読んで、日本でただ一人の獣医師・齋藤さんの仕事や経験を理解し、齋藤さんの思いについて話し合った。また、人間が自然の生き物と共存するためには何が必要か子どもたちに意見を出させた。	「生きる力」 日本文教出版
211	湘南三浦	小6	道徳	いじめ	海外の絵本による教材である。14人という集団からいじめられている1人の子どもが泣いている。しかし、いじめている本人たちは「自分のせいじゃない」と言っていじめていることを否定したり、正当化したりしている。さらには、傍観者であるというふりをしていじめに加担していないことを強調したりしている子どももいる。じめを許さないという態度を養わせるため自分に何ができるかを考えさせた。	「生きる力」 日本文教出版
212	湘南三浦	小4	道徳	いのちは時間	教材「あなたの時間にいのちをふきこめば」を通して、命を大切にするということが、その命を何のために使うのかという命の質でもあることに気づき、限りある命を大切に生きていこうとする心について考えた。	
213	湘南三浦	小4	道徳	生命の尊さ	まず、生きているとはどのようなことか話し合った。ご飯を食べる・笑ったり・泣いたり・努力したり・遊んだり・など様々な意見が出た。そして、クラスの一人ひとりの良いところを話し合った。その後、教材「生きているしるし」を読み、みんな赤ちゃんだったことがあり、周りの人は君たちの誕生に喜び、愛おしい存在であることを知った。また、かけがえのない存在であることを授業を通して知ることができた。その大事な一人ひとりの命を大切にしなければならないことを学んだ。	保健

214	湘南三浦	小1	道徳	みんな生きている	毎日行っていることを思い出し、教科書から自分と同じところを探した。そして、その時に感じたことを発表した。あなたが「生きているな」と感じるのは、どんなときですか？と発問すると、朝、目が覚めた時、友達と遊んでいる時、おいしいものを食べているとき・・・など意欲的に答えていた。これからも、あたりまえに感じられる感覚や感情を大切にしていこうとする姿勢が見られた。	
215	湘南三浦	小1	道徳	いきているっていいな	教科書の詩を通して、生きているからできる当たり前なことについて気づいた。初めに、当たり前に行っていることについて考えたことで、詩をじっくり読み、自身の生活に着目することができた。意見交流では、生きているからこそ、友達と話したり遊んだりすることができることや、ご飯を食べることができると話をしていった。中には「生きているってすてき」という声も聞こえた。振り返りの中では、「クラスみんなと一緒に生きている嬉しいな」と自分だけでなく、周囲との命のつながりを感じる児童もいた。多くの児童が、生きる喜びに気づき、命を大切にしようと考えた。	教材 『いきているって』 (文：なかむら けいこ 絵：いとう ひとみ) きみがいちばんひかる とき1年生 出版 光村図書
216	湘南三浦	小1	道徳	正しく理解すること～差別・偏見について～	未知のこと・ものに出会うと、不安や恐怖の想いを抱くことは誰にでも起こりうること。だからと言って偏見を持ち、差別をすることはいけないこと。今回は未知のことから差別・偏見で苦しんだ人がいた「ハンセン病」を題材にし考えた。一年生になり差別や偏見の恐ろしさ、受けた人の気持ちを知ることができ、自分は絶対にしたくないという気持ちを持つ児童もいたし、見た目だけで判断したくないという児童もいた。	講師：国立ハンセン病資料館の方 参考資料：国立ハンセン病資料館の資料・国立ハンセン病研究所の資料
217	湘南三浦	小3	道徳	かけがえのない命	教科書「大切なものは何ですか」（光村図書）掲載。羽化したてのセミが様々な生き物に「大切なものは何ですか」と問いかけていき、最後にアゲハチョウにモンシロチョウが不慮の事故で命を落とす話を聞いた。そこでセミが大切なものについて考えこむという話をもとに話し合い活動を行った。命の大切さを考えながら、その命を守るための自分自身の行動も考えた。	教科書・ワークシート・掲示物
218	湘南三浦	小2	道徳	生命の尊さ「がんばれアヌーラ」	重い病を抱えた像のアヌーラを支える仲間の像たちの姿を通して、生命の尊さについて考えた。グループごとに話し合い、命はどうして大切なのか発表した。「命は一個しかないから大切なんだよ。」「自分の命だけ悲しいのは自分だけじゃないから大切だと思う。」など、それぞれの思いを共有することができた。命の大切や不思議さについて児童一人ひとりが実感していた。	
219	湘南三浦	小5	道徳	命の詩	教科書「命の詩」を通して命の大切さについて考えた。命はかけがえのないものとして、限りある命を懸命に生きようとする心情を育てる内容である。子ども達の感想は「自分の人生を悔いのないように生きたい。」「生きているのは当たり前と思わず、楽しく生きていきたい。」「自分たちは親から素晴らしい奇跡を受けついで。」などがあり、いま、生きていることと、命の大切さを考える時間となった。	

220	湘南三浦	小6	道徳	生命の尊さ	教科書の教材をもとに、学級で「死ね」という言葉、そして精一杯生きることについて考えた。全員が「死ね」という言葉を耳にしたことがある、もしくは軽い気持ちで使ったことがあるようだった。相手や、その言葉を聞いた周りの人の気持ちを、物語に沿って考えることで言葉の重さに気づくことができた。そして精一杯生きることについて、一人ひとり考えを書いた。「命の重さを頭に入れ、楽しく過ごすこと」などの考えがあった。	光村 「おじいちゃんとの約束」
221	湘南三浦	小4	道徳	生命の尊さ	教材をもとに、一人ひとりの命に対する考え方や感じ方を伝えあった。兄弟のいる子は兄弟が生まれた時のうれしい気持ち、病気になってしまった時に両親がすごく心配して看病してくれたことなどを語り、「自分の命は自分のものだけではない」「両親を悲しませたくない」など、自分の命はたくさんの人に守られ、ささえられていると考えている児童が多かった。これから、「兄弟を大切にしていきたい」「お世話になった祖父や祖母を助けてあげたい」など、自分の身近にいる人を大切にしていきたいという考えがあった。	光村図書 「生きているしるし」
222	湘南三浦	小6	道徳	生命の尊さ	命がけで川を上り産卵する鮭、途中で息絶える魚もいる。 その鮭や卵を餌として生きている多くの生き物。食物連鎖の命のつながりを題材とした教材を読んだ。また、先祖代々つながってきた数億の命の存在を知り、自分が友達が、家族が生きていることの尊さについて考えた。	道徳教科書
223	湘南三浦	小2	道徳	生まれるということ	童謡「ぞうさん」を題材に、自分にも親と似ているところがある。自分の命は親からもらったものであり、つながっているということを感じていく。	道徳教科書
224	湘南三浦	小1	道徳	親切、思いやり	登場人物に自分を重ねて考え、話し合うことを通して、身近な友達と仲よく活動し、助け合うことの大切さに気付き、相手に対して親切に、思いやりをもって接しようとする実践意欲と態度を育てる。	教材名 くりのみ (出典：光村図書「きみがいちばん ひかるとき」)
225	湘南三浦	小6	道徳	ふれあい体験授業	妊婦体験セット、妊婦さんの身体的な辛さ、不便さを感じ取った。出産を控えた妊婦さんのふれあい体験を通して、妊婦さんの思いや、町の保健師さんの話から赤ちゃんの成長の様子について聞き、自分が長い時間大切に守られてきたことや家族、友だちのいのちの大切さについて考えた。	町の子ども育成課職員 (保健師)
226	湘南三浦	小1	道徳	自分が生きているということについて考え、命を大切にしようとする心情を育てる。	呼吸をすることの気持ちよさ、食事をとることの幸せ、学校でみんな遊べることの楽しさなどは、毎日「あたりまえ」にしていることだが、生きているからこそできることである。その「あたりまえ」から、自分たちが「生きている」ということのよさについて考えた。	道徳 光村図書 「いきているって」
227	湘南三浦	小6	道徳	限りある命を懸命に生きる	祖父の死をきっかけに、命の意味を深く考えるようになった信二の姿を通して、命の重みについて考えさせ、人間の死の重さや死の重さや命のかけがえのなさを理解したうえで、限りある命を懸命に生きようとする考えを深めた。	道徳 光村図書 「おじいちゃんとの約束」

228	湘南三浦	小1	道徳	生命の尊さ	一人一人が感じている気持ち、食べ物が「おいしい」、一緒に何かをして「楽しい」、周りの人が転んでいるのを見て「いたいかなあ」と想像する、外出して眠くなっておんぶしてもらい、暑いときに冷たい水で顔を洗って「きもちいい」など、誰もが「いきている」がゆえに感じることをそれぞれの場面ごとに確認し、みんな生きていること、また、生きていると感じることは同じ事を学級の友だちと同じであることを感じ取らせた。	
229	湘南三浦	小5	道徳	生命の尊さ	一人一人の命のすばらしさを文章にした教科書資料「同じでちがう」を読むことで、同じ命を持つ人間であるとともに、一人一人個性があり、「同じではない」ことを読み取らせる。その上で、学級の仲間と考えを交流することにより、一人一人考え方が異なることを実際に体験し、自分とは異なる「個」を大切にす気持ちや自分と同じ命を大切にしようとする心情を養った。	
230	湘南三浦	小6	道徳	命の尊さ	北海道・知床の動物たちの生きる姿、新しい命を残すために死んでいく姿、その命を食べるといふ人間の営みを通して、「命の旅」の意味について考えさせ、生命は、多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを知り、生命を尊重しようとする心情を育んだ。	道徳 6年
231	湘南三浦	小6	道徳	転べばいいのに (それしかないわけじゃないでしょう)	ヨシタケシンスケさんの絵本「転べばいいのに」「それしかないわけじゃないでしょう」の読み聞かせを通して、辛いことや嫌なこと、悲しいことがあった時に、マイナスに捉えるのではなく、前向きな気持ちや自分の好きなもの、落ち着くこと等、様々な視点からプラスに考えられるようにする心を育んだ。相手を傷つけたり、自分の命を落とす方法ではなく、楽しい気持ちや幸せの気持ちをいっぱいにでいるようなものやことを紹介したり、命の大切さや気持ちの持ち方等、発表する姿が見られた。	
232	湘南三浦	小2	道徳	いのちを大切に	いのちを大切に思う心について考え、かけがえのない命を大切にす心情を育んだ。	光村 「がんばれアヌーラ」
233	湘南三浦	小5	道徳	生命の尊さ	自分たちは命を大切に思っているか。命を大切にす精一杯いきるとはどんなことなのかを考えた。	光村 「命の詩一電池が切れるまで」
234	湘南三浦	小1	道徳	ちいさなふとん	弟の誕生に伴い、自分の使っていた布団の小ささから自らの成長に気付く主人公の姿を通して、小学生となった自分の成長を振り返らせた。指導においては、実物大の小さな布団や、新生児用の服や靴下など視覚的に理解しやすい工夫をした。また、保護者の協力を得て、生まれた時や小さなころの様子や、今できるようになったことなどを手紙に書いてもらい、児童に渡した。保護者からのメッセージを皆真剣に読む姿が印象的だった。	『どうとく きみがいちばんひかるとき』 (光村図書)

235	湘南三浦	小3	道徳	身近な自然に目を向けて	1学期に理科で「植物・動物の育ち方」を学習し、身近な自然に目を向けながら学校周辺の動植物の記録を写真に残してきた。また、昆虫などの動物を日頃から数多く飼育することで生物とふれあい、そのすばらしさや死んでしまった時の悲しさから、「命の尊さ」を学んできた。それらの学習をもとに、夏休みにさらにたくさんの命と触れ合い、「命の尊さ」を感じ取れるよう、道徳資料「ヤゴきゅうしゅつ大作戦」と「里山を守ろう」から話し合い、自然や命と関わろうとする意欲を高めた。	光村図書どうとく3「ヤゴきゅうしゅつ大作戦」 「里山を守ろう」
236	湘南三浦	小1	道徳	いきているっていいな	息をしたり食べたり遊んだりする等の当たり前のことは、生きているからこそできるという詩を通して、自分が生きていることについて考えさせ、当たり前のことを喜び、命を大切にしようとする心情を育てようと思った。まず児童が日常の中でしていることについて振り返らせ、生きていていいなと思うことについては、「友だちと遊ぶこと」、その他多種多様な意見が出た。友だちの意見を聞き、生きていることの良さについて考えを広げ、自分や友だちの「当たり前のこと」を大切にしていこうという考えを持つ子が多かった。	光村図書 道徳1年 「いきているって」
237	湘南三浦	小2	道徳	「人の成長」	人はどのようにして受精卵から成長して産まれるのかを、実際の胎児の大きさがわかる資料や、担任自身の体験を通して学習した。また、胎児の重さを感じるために、3000mlの重さを入れたリュックサックを、お腹側に担いで体感できるようにした。成長する過程を具体物を用いて考えることで、自分が大切にされてきたことや、命の尊さについて、より自分事として考えられるようにした。	養護教諭による 手作り教材
238	湘南三浦	小4	道徳	生命の尊さ	生まれた妹をかわいと思えなかった主人公が、父から自分が生まれたときの話を聞いたことで「あかちゃんが泣いているのは生きているしるし」と考えが変わった話を読み、「いのち」について考えていることを発表し合った。自分が生まれたときのことや今も続いている戦争のこと、災害で亡くなるいのちのこと等について出た考えを聞き合い、自分が思う「いのち」についてテーマを決め、作文にまとめた。	道徳教科書 (光村図書 4年) 「生きているしるし」
239	県央	小1	道徳	個性の伸長 「ぼくは小さくて白い」	仲間との違いに思い悩む小さくて真っ白なペンギンが、母親とのやりとりの中で自身のよさに気付き、自己を見だし、前向きな気持ちをもって生きていくことの大切さに気付かされる物語である。自分のよいところを見つけ、それを大切に生きていこうという気持ちを高めることができた。 終末には、この物語の続きを読み聞かせ、物語で励ましてくれている母親は既に亡くなっていることに児童は気づく。命がなくなることの悲しさがあるからこそ、その人の気持ちも含めて自分の命を大切に前向きに生きていくことが理解できた。	小学どうとく 生きる力1 日本文教出版
240	県央	小6	道徳	親切、思いやり	「行為の意味」という詩を読み、心の中で思っていることが、思いやりのある行動に変わるためには、何が必要か考えた。具体的な場面を設定し、動作化をしながら考える中で、「勇気をもって行動する」や「相手のことを考えると勇気が出る」などの意見が出た。 この詩を通して、相手の立場になって行動することの大切さを深められたように感じた。	小学道徳 生きる力6 日本文教出版

241	県央	小3	道徳	「わたしのせいじゃない」	いじめに対する傍観者としての無責任な気持ちがいじめを生んでいることを理解し、いじめを断ち切るためにはどうしたら良いかを考えた。	道徳教科書
242	県央	小5	道徳	きこえないってかわいそう？	NHK for schoolの「u&i」の教材を活用した授業を実施した。目が不自由な人やその他障害がある人も同じように、みんな人権があることを改めて確認した。誰もが一生懸命にその人のベストを尽くして生きていることを学ぶ内容であった。	NHK for schoolの「u&i」
243	県央	小1	道徳	生命の尊さ 「わたしがおねえさんよ」	登場人物の心情を考えることを通して、これから生まれてくるかけがえのない命には家族から大きな喜びや期待があることを理解した。中には幼い妹・弟がいる児童も多かったため、振り返りの中で「これからも自分の妹を大切にしたい。」「もっとお世話をしてあげたい。」と書いた児童もいた。他にも、「家族も自分が生まれてきたことを楽しみにしていたのかもしれない。」と、自分の命の大切さについても触れている児童もいた。授業のまとめでは、「みんなが生まれてくるときも、家族の喜びや期待感があつたはずだから、これからどのように生活していきたいか考えていくことが大切。」ということをお伝え、自分の命の尊さについて考えるよう促した。	道徳の教科書、ノートを活用することで、状況の把握に繋がった。 (参考資料) 日本文教出版「しょうがくどうとくいきるちから」
244	県央	小6	道徳	おじいちゃんとの約束	テレビやゲーム等の影響か、児童同士の日常会話やちょっとしたやり取りの中で「死」という言葉を頻りに耳にする。また、児童自身もあまり深く考えず、軽い気持ちで「死」という言葉を使っている様子が見て取れる。本題材の主人公も同様に、友だちとゲームをしている中でそのような言葉をためらいなく使っていたが、身近な人物である祖父が病に倒れたことをきっかけに自分自身の浅はかさを涙を流しながら悔い、精いっぱい生きていくことを誓う。主人公の心の変化に触れることで、命の重さや「死」という言葉は軽々しく使うべきものではないこと、自分の命を精一杯生きることの大切さについて考えさせることができた。	光村図書 道徳6年 きみがいちばんひかる とき
245	県央	小6	道徳	生命 「命の旅」	北海道、知床の動物たちの生きる姿、新しい命を残すために死んでいく姿、その命を食べるという人間の営みを通して、「命の旅」の意味について考えさせた。生命は多くの生命のつながり中にあるかけがえのないものであることを知り、生命を尊重しようとする心を育てるといふねらいの授業。	道徳の教科書(光村図書) 『きみがいちばんひかる とき』
246	県央	小3	道徳	生きている仲間	植物も日々生長していること、成長していくことは人間も植物も同じであること、一生懸命に大きくなった命をいつくしむ気持ちなど、多様な考えを児童とともに話し合った。児童にはあなたの周りの「生きている仲間」を発表し、あなたはどのようにそれを「生きている仲間」だと考えたのか共有し合い。命の大切さを学んだ。	道徳 光村図書
247	県央	小4	道徳	せいいっぱい生きる	小学校4年生の少女が闘病生活中に残した詩から、「せいいっぱい生きる」ことについて考えた。その結果、「一日一日を大切に生きること」「命を大切にすること」「生きてくても生きられなかった人の分まで、一生懸命に生きること」が精一杯生きることにつながるという意見が多く出た。児童は詩の内容から、命の尊さを改めて実感し、命についての考えを深めることができた。	光文書院 小学どうとく ゆたかな心 4年

248	県央	小6	道徳	六千人の命を救った決断 - 杉原千畝 -	「正義」とは何かを考え、正義につながるための行動をなぜ起こしたかについて話し合った。そして人の命が関わったことが正義を伴った行動につながったことを確認した。	小学 道徳
249	県央	小3	道徳	お母さんの「ふふふ」	資料を読み、相手のいいところを探して共有することで、自分のいいところを認めることについて深く考えた。そこから、「いいところさがし」を「ふわふわ」言葉、「ちくちく」言葉を意識しながら相手に伝え合う活動をした。お互いを尊重し合うことの大切さについて考えた。	
250	県央	小6	道徳	杉原千畝 ～大勢の人の命を守った外交官～	政府の命令に背いてまでビザを書き続け、何千人ものユダヤ人の命を救った杉原千畝の話を読んで、だれに対しても公平公正な態度で接することへの大切さについて考えた。	
251	県央	小5	道徳	人権週間 「命の種を植えた い 緒方洪庵」	さまざまな苦難を乗り越えて、一人でも多くの命を救おうとした洪庵の尊い姿から、生命がかけがえのないものであることを知り、尊重しようとする心情を育てる。	
252	県央	小6	道徳	生命のつながり	教材を読み、私たちの生命のつながりについて考えた。様々な人とのつながりや支え合いの中で生まれ、親から子へ、孫へと受け継がれていくかけがえのないものであることを気付かせた。また、授業を行った教師の祖父が亡くなったこともあり、「生命」「死」「生きる」「つながり」などをキーワードに語った。	教科書「小学道徳生きる力」 「その思いを受けついで」
253	県央	小3	道徳	命が生まれ育つこと	教材を読み、登場人物の気持ちを考えることを通して、自分の命がまわりの多くの人々の支えによって守られ、育まれている尊いものであることに気付かせた。また、これまでの経験を振り返り、今後の自分の生活を生命尊重の視点から見つめさせた。	教科書「小学どうとく生きる力」 「おとうさんからの手紙」
254	県央	小1	道徳	わたしがおねえさんよ	これから生まれてくる命を心待ちにしている女の子とお母さんの気持ちを考えた。人は皆、生まれてくる前からたくさんの人に大切に育てられてきていることに気づき、自他の命を大切にしようとする意欲を高めた。授業の中では、優先席やマタニティマークにも触れ、自他の命を大切にするための社会の取り組みを学んだ。	
255	県央	小3	道徳	新しい命	生命は自分だけのものではなく、周りの人々の支えによって守られ、育まれている尊いものであることに気づいてもらうための内容だった。生命を大切にしようとする気持ちの姿が見られた。 命は自分だけのものではないということを改めて考える機会になった。	道徳教科書

256	県央	小2	道徳	生命の尊さ	<p>道徳の教材「やくそく」の授業で、自分の命は自分だけのものではなく、多くの人の思いを受けていることに気付き、かけがえのない命を大切にしていこうとする心情を育てることをねらいとして行った。</p> <p>命とは何か、大切な命を守るために、どんなことに気を付ければよかったのかを話し合った。たくさんの人が病院にかけついたり、お母さんが泣いている様子から、周りの人々からの支えや感謝の気持ちの実感を高められた。そして、これから自分はどのように生きるのか自分と約束を一人ひとりがノートに書いた。</p>	道徳教科書 「やくそく」
257	県央	小5	道徳	限りある命を精一杯生きていこう「命」	<p>5歳の時に神経芽細胞腫と診断され、様々なつらい治療を受けながら入退院を繰り返す少女が、亡くなる4か月前に人の命を電池にたとえて書いた「命」という詩から、少女が伝えたかった思いを考えた。精一杯生きるとは、何を大切に生きていくことなのか、どんな時に限りある命を感じるかという話も出た。話合いも活発で、どの児童も1つしかない命を大切に、精一杯生きていきたいという心情が育ったように感じた。</p>	小学道徳生きる力
258	県央	小5	道徳	「生命の尊さ」	<p>重い病気のため、わずか11歳でこの世を去った少女が、亡くなる4ヶ月前に作った『命』という詩。「命はとても大切だ 人間が生きていくための電池みたいだ でも電池はいつか切れる 命もいつかはなくなる 電池はすぐにとりかえられるけど 命はそう簡単にはとりかえられない …」とある。生きたくても生きられない人がいる中、自分で命を絶ったり人の命を奪ったりしている人もいる。限りある命を精一杯生きる作者の姿から、生命はかけがえのないものであることを自覚することができた。そして、限りある命を精一杯生きることについて、意見交流を通して、自分事として考えることができた。</p>	道徳 『小学 道徳生きる力5』 「命」 (参考資料) 『電池が切れるまで』
259	県央	小4	道徳	すべての命を大切に「ヒキガエルとロバ」	<p>身近な生き物には、何があるか考えさせてから、物語を読んだ。物語の内容は、登場人物たちがヒキガエルをいじめることを楽しんでいるところに、荷車を引いたロバが通りがかり、人間に使われ疲れ果てているにも関わらず、ヒキガエルを避けて通り過ぎていった様子を見て、登場人物たちが行動を反省するというものである。登場人物たちの行動や気持ちについて考えさせることを通して、すべての生き物の命を大切にしようとする態度を養った。</p>	道徳の教科書、ノート 「日本文教出版 小学道徳 生きる力」
260	県央	小4	道徳	いのちは「時間」	<p>「限りあるいのちを大切に生きていく」という心情を深めるために道徳内容項目「D 生命の尊さ」を扱った授業を行った。</p> <p>導入場面では、「命」と聞いてうかぶことを自由に出し合った。「一つしかないもの」「一番大切なもの」「植物や動物にもあるもの」等が挙げられた。終末では、今生きている幸せ、ありがたさを感じ、かけがえのない命を大切に生活していくために自分の命をどう使っていきたいかを考えることができた。</p>	(教材) 「小学どうとく 生きる力 4」より「あなたの時間にいのちをふきこめば」

261	県央	小6	道徳	「命のアサガオ」 内容項目：D生命の尊さ	限られた生命を力の限り生き抜こうとした少年や、その思いを受け継ぎたいとアサガオを育てたお母さんの思いから、かけがいのない生命を大切にしようとする心情を育てることをねらいとした。 「命のアサガオ」を読み、登場人物の思いについて考え、話し合った。その後、児童は、「せいいっぱい生きる」とは、自分にとってどう生きることかを考え、ノートにまとめた。	日本文教出版 小学 道徳 生きる力
262	県央	小3	道徳	命が生まれ育つこと	命は、周りの多くの人々の支えによって守られ、育まれている尊いものであることを理解し、自他の生命を大切にしようとする心情を育てることをねらいとした授業を行った。命は自然に生まれ育っているのではなく、親や家族の手によって守られ、育てられていることに多くの児童が気づき、自分の命の大切さについて考えたり、話し合ったりすることができた。	道徳「お父さんからの手紙」
263	県央	小6	道徳	生命の尊さ	限られた生命を力の限り生き抜こうとした主人公や、その思いを受け継ぎたいとアサガオを育てた母の思いから、かけがえのない生命を大切にしようとする心情を育てることをねらいとした授業を行った。限りある命を、精一杯生きることについての自分の考えをまとめ、これからの自分の在り方に生かしていこうとすることができた。	道徳「命のアサガオ」
264	県央	小4	道徳	「あなたの時間にいのちをふきこめば」【D生命の尊さ】	医師である著者が取り組んできたことを通して、いのちは「時間」ということを考える授業を実施した。教科書だけでなく、著者が書かれた絵本を読み聞かせ、児童に考えさせた。命を大切にすることが、その時間を延ばすだけでなく、その命を何のために使うかという命の質でもあることに気づき、限りある命を大切に生きていこうとする心情を育てようとした。	光村図書 「わたしたちの道徳」
265	県央	小4	道徳	「生き物と機械」生命の尊さ	本物の犬とロボットの犬の違いを話し合うことを通して「命とはどんなものか」について考えた。「傷が治る、痛いと感じる、ご飯を食べる、赤ちゃんが生まれる、死んでしまう」などロボットにはなく、命があるからこそその本物の犬の特徴を見つけ話し合うと、命の有限性や唯一性に気付いていった。同時に「命とはなんだろう。体か。心か。」「命が続いているからお父さんと似ているのかな。」「おばあちゃんに似ていると言われるのは命がつながっているからなのか。」など、命の不思議さについて考える児童もいた。学習を終え、「たった一つしかない、つながってきた命をこれからも大切にしたい」とより一層命の大切さを実感した様子が伺えた。	光村図書 道徳4 「きみがいちばんひかるとき」
266	県央	小4	道徳	生命の尊さ	本授業では、生き物と機械の違いを通し、生命の尊さについて考え命を大切にすることの心情を育てることをねらいとした。導入では、自分自身が「生きていることはすごいこと」と思った経験を振り返った。その後、教科書のお話を通し、機械の犬と生きている本物の犬との違いや、ロボットと人間の違いを比較しながら学んだ。終末では、自分の命の大切さについて考え、「命は一人にひとつしかない。」「お金で買うことができない大切なものである。」という気持ちをもたせることができた。	4年 きみがいちばんひかるとき（光村図書）

267	県央	小4	道徳	生きているしるし	助産師の方に学校に来ていただいて話をしていただいた。子どもたちは、リアルな出産のドキュメンタリーを見たり、エコー写真を見たりして命の誕生について目で見て学ぶことができた。また、赤ちゃんの模型を抱っこすることで、小さい命に触れ、自分たちもこんなに小さかったんだと感ずることができた。	
268	県央	小4	道徳	いのちの授業	命の誕生について学習した。命は母体の中で大切にされながら少しずつ大きくなること、家族に喜ばれながら生まれることに触れ、一人一人の命が大切なものであり、尊重されるものだとして学習した。児童の中には、出産のシーンに感動している子や親に感謝の気持ちを持った子がいたようだった。	講師は、大和市立病院に勤務する助産師。自宅出産のシーンを実際に見たことで命の誕生について分かりやすく伝わったと思う。
269	県央	小6	道徳	「おじいちゃんとの約束」	祖父の死をきっかけに、命の意味を深く考えるようになった主人公の姿を通して、命の重みについて考えさせ、人間の死の重さや命のかけがえのなさを理解したうえで、限りある命を懸命に生きようとする心情をそだてることをねらいに取り組んだ。	
270	県央	小3	道徳	命を大切にすることとはどういうことか考えよう。	虫たちがそれぞれの一番大切なものについて話し合う姿を通して、命を大切にすることは、どういうことなのかについて考えさせ話し合った。児童が命を守るためにできることとして、交通ルールを守る、運動・栄養・睡眠をしっかりと健康を保つなど身近なことがあがった。中には将来のことにも目をむけ、地球環境を守るとの考えを出す児童もあり、「なるほど、確かに」と考えを広げる児童も見られた。	小学校道徳 光村図書
271	県央	小2	道徳	いのちを大切に「がんばれアヌーラ」	病気になってしまった象のアヌーラを助けるチャコとタカコ、飼育員や獣医たち、声援を送る全国の子どもの願いが叶い、アヌーラが回復していく姿を通して、命の尊さや命は他者によって支えられていることについて考えた。授業後、「身近な人が病気になった時に自分がどんなことができるか」という活動につなげることで他者の命を助けるために何ができるかも考えさせた。	
272	県央	小2	道徳	つながるいのち「生まれるということ」	「ぞうさん」の詩を読み解いた文章の言葉などから、命が続いてきたこと、自分の命もまたその内の一つであることを感じ取らせ、命の連続性に気づくことにより、命の大切さについて考えた。また終末には「あかちゃんのうまれたひ」の読み聞かせを行い、自分の命は一人だけでなく多くの人に支えられていることについて見つめさせた。	
273	県央	小5	道徳	「同じでちがう」	命の大切さやすばらしさについて、対話を通して多面的に捉えることによって自他の命を大切にすることの育成をねらいとした。 まず自分自身の中で変わらず大切にしたいこと、新しいことを求めて変わっていくことについて考えることで自分の命が多くのもに支えられていることに気づいた。次に「みんなちがうからこそすばらしい世界ができる」ことについて話し合い、違いを認めることで新しい発見があったり、自分の成長があることに気づいた。命について友達の考えに触れることで命の大切さについて視野を広げて考えることができた。	「同じでちがう」(出典：『道徳5』光村図書)

274	県央	小1	道徳	おおきく そだつて (生命の尊さ)	教材を読む前に、自分が小さかった頃を思い出したり、弟や妹がいる児童は自分の弟や妹に対する気持ちを考えたりした。教材を読んだ後は、生まれたばかりの弟のかわいらしさや小ささに、自分もこうだったのかと不思議に思う児童がいたり、自分の成長を感じる主人公に共感している児童がいたりした。自分が大きくなったことをどんなときに実感したかを考えさせると、手足の大きさや、様々なことができるようになったことなど沢山の意見が出た。成長することのうれしさ、生きることのすばらしさや生命の大切さを感じる事ができた。	教科書「ちいさなふとん」
275	県央	小1	道徳	D (17) 生命の尊さ 生きているっていいな	「いきているって」自分が生きているということについて考えさせ、生きているからこそできるあたりまえのことを喜び、命を大切にしようとする心情を育てようとして実施した。	
276	県央	小2	道徳	いのちを大切に	病気のゾウのアヌーラが倒れないように、2頭のゾウが寄り添って支えたという実話を通して、命を大切に思う心について考えさせた。授業中、児童は活発に発言し、発言内容からも命の大切さについて、感覚的には理解しているようだった。自分や友だちの命を守るために、交通安全に気をつけたり、遊び方を考えたりしようという感想が出た。また、生きている間にたくさん友だちをつくりたいなど、限りある命への思いを改めて感じる事ができた児童もいた。	【いのちを大切に】 D (17) 生命の尊さ 11 がんばれアヌーラ
277	県央	小1	道徳	おおきくそだつて	生まれたばかりの弟の様子から、自分の成長に気づくよしこの姿を通して、大きくなったと感じることについて考えさせた。「大きくなるってどういうこと？」という発問に対して、自分でできることが増える、成長するという発言が多かった。その中で、自分だけで大きくなったわけではなく、家族のおかげだという発言から、家族や周囲の人たちへの感謝の気持ちを学級で共有する事ができた。	【おおきくそだつて】 D (17) 生命の尊さ 29 ちいさなふとん
278	県央	小5	道徳	同じでちがう	・「一人ひとりが、生きている同じ人間だけど、違うところがありますか」という発問から、同じでちがうところをたくさん考えた。また、みんな違うからこそ、すばらしいことはどんなことか考える事ができた。 ・「権利」とは、物事を自由に行うことのできる資格であり、幸せに生きる権利があること、また、この大切な権利をもっていることについて教材を通して考えた。	・「道徳」5年 きみが いちばん ひかるとき 光村図書出版(株)
279	県央	小4	道徳	生命の尊さ	道徳の授業で「生き物と機械」という話を扱った。犬や人間は傷を自力で治そうとする力をもつが、ロボットにはない。人間は、他者の痛みへの思いやりがあり、ここが機械とは大きく違う。また、生き物は死ぬが、ロボットは壊れても同じものを作ることができる。この話で生き物と機械の違いについて考えることで、命の重さを改めて実感する事ができた。そこから、周りにいる家族や友達、自分自身を大切にしながら生きていこうとする気持ちが芽生え始めていた。	道徳教科書「生き物と機械」

280	県央	小5	道徳	「トリアージ・システム」から命について考える。	災害医療の現場で導入されている「トリアージ」というシステム。1人でも多くの命を助けるためがあるが、医師の精神的負担がとても大きい。児童は、救急医療と災害医療について学んだあとに、災害医療には命にも優先順位がつく場面があることを知る。たくさんの命を救うためにやむを得ないと考える児童もいれば、親や友達だったら受け入れられないと考える児童もいた。実際にトリアージを行った人の経験談を読んだり、現場の写真を見たりしながら、命の尊さや医療現場で働く人々の苦労や葛藤について話し合いをした。	
281	県央	小1	道徳	「わきだしたみず」	「命の大切さ」というテーマで学習を行った。「かに」の行動について話し合う中で、「相手の命が危ない時には、じっとしてられない心がある。」ということに気づかせることができた。その際に、挿絵を提示して視覚化したり、発問を工夫して考える内容を焦点化したりするなど意識したことで相手の命を守ることの大切さに気づくことができた。	関連教科 生活科「いきものとなかよし」
282	県央	小4	道徳	命の大切さについて考えよう	「〇〇な命」の〇〇に入る言葉を導入で考えた。児童からは一つの命や大切な命、自分の命などの発言があり、命は大切なものだというイメージがほとんどだった。『五百人からもらった命』を読み命の尊さについて考えた。見ず知らずの人のためにたくさんの人が行動できたのはなぜかを考え、どんな命でも多くの人助けたいと願わずにられないほど、尊いものだという事に改めて気が付いていた。最後に導入と同様に「〇〇な命」の〇〇に入る言葉を考えると、「たった一つの大事な命」と全体でまとめ、命の大切さについての理解が深まった。	(参考資料) 光文書院小学どうとく 4年『五百人からもらった命』
283	県央	小1	道徳	たいせつないのち	道徳の授業「おたんじょうびれっしゃ」を通して、たいせつないのちについて話し合った。教室に掲示している子ども達の誕生日列車を話題に挙げ、皆が誕生日を毎年祝う理由を考えた。元気に過ごしていないと誕生日を迎えられない子がいるという意見から、自分が周りの人に支えられて今日まで元気に成長してきたと考えを深めていた。いのちきらきからカードを記入し、自分が命を輝かせて頑張りたいことを振り返った。	光文書院 1年「おたんじょうびれっしゃ」
284	県央	小5	道徳	大切な命を守る	道徳の授業「命をかけて命を守る—山岳警備隊—」を通して、命のかけがえのなさや、それを守るために働く人の思いを考えた。訓練されたプロである山岳警備隊の方は、命に對してどのような思いをもっているのか、教材から考え話し合った。また自分の周りにも命を支えてくれている人がいることから、自分たちの命の大切さについても考えた。	光文書院 5年「命をかけて命を守る—山岳警備隊—」
285	県央	小3	道徳	いただきます	教科書の話を読み、「いただきます」の意味や言葉に込められた思いを考えてワークシートに記入した。 自分たちが生きていること、生きられていることに感謝したり、「命をいただくこと」に感謝する児童が多く見られた。	

286	県央	小5	道徳	自然	<p>5年生の道徳「自然を守るエゾリス」という単元を通して、人間が自然、動植物の行動や働きで、いろいろと助けてもらっていることを知り、自然環境を守ることが、人間にとってもどれだけ大切かを話し合った。人間の力が及ばないような自然の神秘に触れ、自然を大切にすることが、自分たちの命を守ることになるということを感じることができた。自然環境を守るために、ひいては自分たちの命を守るために、これから自分たちにできることは何かを話し合った。「自分の知らないところで、虫や生き物が頑張ってくれている。」「もっと動植物にくわしくなりたい」「節電をして、温暖化をとめたい」などの意見が出た。総合的な学習の時間でも取り組み、行動につなげていきたい。</p>	
287	県央	小2	道徳	生命の尊さ 「おとうとのたんじょう」	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の誕生のことで知っていること（体重、身長、名前の由来、エピソードなど）を振り返り、NHKの番組で、出産の様子を動画で観ることで、赤ちゃんもお母さんも大変な思いをして自分は誕生したことに気付いた。教科書を読み、自分の命は家族の願いを受けて生まれてきたことや、自分には生きる力があることが分かり、自分の命を大切にしようとする心を育んだ。 ・3学期の生活科では、自分の成長について振り返る「あしたへジャンプ」の学習があり、道徳で学んだ「生命の尊さ」を思い出し、自分やお世話になった人への感謝や、前向きに生きていこうとする気持ちを育てることにつながられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・NHK for school 「人の出産」 ・新しい生活下「あしたへジャンプ」(東京書籍)
288	県央	小5	道徳	大切な命を守る 「命をかけて命を守るー山岳警備隊ー」	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の命を守ってくれている存在について、身近な存在（家族など）から遠い存在（警察、自衛隊など）まで、どんな人たちがいるか話し合った。 ・教科書を読み、自分の命は身近な人から遠い存在までたくさんの人に支えられていることに気付いた。自分たちの生活が当たり前ではないことを知り、命を支えてくれる周りの人々の存在に感謝する心を育んだ。 	
289	県央	小2	道徳	生命の尊さ いのちのたんじょう 「おとうとのたんじょう」	<p>「おとうとのたんじょう」を読み、赤ちゃんの何気ない仕草や動きが生きている証拠であり、それを見て家の人喜んでることに気づいた。自分や兄弟が赤ちゃんのころのこころを想起しながら、自分も同じように大切に思われていることに気づくことができ、家族の存在に喜びを感じたり、育ててくれたことに感謝することができた。</p>	<p>小学どうとく ゆたかなこころ 光文書院</p>
290	県央	小3	道徳	いのちのつながり	<p>「命は誰からつながっているのか」という問いから命について考えた。最初は両親、祖父母などの意見があがったが、「言い表せないほどたくさんいる！」という児童の気づきから、命の重さについて考えを深め、話し合うことができた。命が受け継がれていることを皆で確認したことで、自分だけの命ではないこと、感謝する気持ちが子どもたちの中に生まれた。振り返りでは「自分の命だけではなくいろいろな人の命を大切にしたい。」「ご先祖様に命を大切にしているよと伝えたい」といった発表があった。</p>	<p>光文書院 小学どうとく ゆたかな心 3年</p>
291	県央	小3	道徳	生命の尊さ	<p>「いのちのまつり」という題材を通して、自分だけではなく、親や親戚など様々な人に命が受け継がれているということを知り、つながっていく命の尊さについて考えた。また自分の考えを話し合った。</p>	<p>小学どうとく ゆたかな心 (光文書院)</p>

292	県央	小4	道徳	生命の尊さ	「レスキュー隊」の単元を通し、命を救うために、そこまでけんめいになれるのかを考え、世の中には、命を守る仕事が多くあることを知ることができた。	光文書院
293	県央	小4	道徳	せいっぱい生きる	わたしたちのどうとく4年「せいっぱい生きる」を読み、生命の尊さと「せいっぱい生きる」ことの意味について考えた。かけがえのない生命をもって、今生きていることのありがたさを知り、自他の幸せに向かって、自らの生命を輝かせてせいっぱい生きようとする気持ちを育む授業をした。	わたしたちのどうとく4年「せいっぱい生きる」
294	県央	小1	道徳	みんな みんな 生きている	わたしたちのどうとく1年「みんな みんな 生きている」を読み、「いのちの輝き」について話し合った。うれしかったり悲しかったりしたことや、これからしてみたいことについて考え、自分のいのちを輝かせ、前向きに生きていく気持ちを育む授業をした。	わたしたちのどうとく1年「みんな みんな 生きている」
295	県央	小2	道徳	一まいのしゃしん	自分や家族の病気やけがが治った時にどのような気持ちか考え、学習を進めた。他の人たちに支えられながら生きていることが分かり、生命を大切にしようとする態度を養うことができた。	小学校 どうとくゆたかな ころろ2年
296	県央	小2	道徳	生きる力「一まいのしゃしん」D生命の尊さ	人間は元気に生きようとする力をもっていることや、多くの人たちに支えられながら生きていることが分かり、生命を大切にしようすることをねらいとした。初めに「命」について考えを出させた後、「一まいのしゃしん」を読み、考えを広めたり深めたり、自己を振り返る活動を行った。児童の多くは、「生きる力」について「成長すること」や「頑張ること」等と考えていたが、授業が進むにつれて、「みんな生きる力をもっていて、だから大きくなっている。」や「家族も守ってくれている。」等多面的・多角的に考えたり、「自分にも生きる力があるから、元気に成長していきたい。」等と自分自身のかかわりの中で考えを深めたりする児童の姿が見られた。	
297	県央	小複合	道徳	『ある日の下駄箱でのできごと』～いじめの四層構造について考える～	昨年度に引き続き、かながわ「いのちの授業」指導資料の『ある日の下駄箱でのできごと』の教材を参考にスライド資料を作成し、いじめの4層構造について考える授業を、全学年で実施した。事例について話すと「正直自分は傍観者になってしまう」や「仲裁者になることで今度は自分が標的にされるかも」と答える児童がみられた。しかし授業を進めていくにしたがって、間接的な行動（友だちに頼る、先生に伝える、早めに気づく、そばで支える）などができるようにしたいと考える児童が多くなった。また、児童の振り返りからは、「傍観者」という立場を初めて理解したことや、いじめられる側の気持ちになることの大切さを感じていることが読み取れた。	かながわ『いのちの授業』指導資料～いじめについて考える～ (特別支援学級を含む全学年の道徳の授業で実施)
298	県央	小3	道徳	いのちのまつり	主人公の言葉、「いのちをありがとう」を手掛かりに、繋がる命について考えた。自分の命は、自分だけのものではなく、先祖代々繋がってきた事実を知り子どもたちは感銘を受けていた。同時に、自分たちの命は、子や孫へ引き継がれることにも気づき、繋がる命から繋げる命まで考えを深めた。	教科書 絵本

299	県央	小2	道徳	生命の尊さ	本時では、授業の始めに命がなぜ大切なのかを考えさせた。「命は大切なもの」という答えだけではなく、赤ちゃんのしぐさや動きが、親への特別なサインであることを気づかせるための発問をした。自分の命が家族と繋がっていることや、健康に誕生してほしいなどの家族の願いを受けて生まれたことを知り、自分も家族の愛情を育むような力を持って生きていると感じてほしいと考えて話し合いをさせた。終末に始めと同じ発問をする「強く生きたい。」などと、命を大切に生きていこうとする発言が多く出てきた。	小学どうとく ゆたかな こころ2年(光文書院) 資料名 「おとうとのたんじょう」
300	県央	小複合	道徳	生命の尊さ	本時は、特別支援学級(2・4・6年)で行った授業で、始めに「いただきます」というあいさつの意味を考えさせた。自分の生命と他の生命との関わりを問い、話し合わせることで、自分たちが他者によって生かされていることに気づかせた。また、「生きるために食べることが、他者の命を奪うことなのか」と問い返すと、命の重さについて考えを深めていた。命の繋がりに感謝することは、これからの児童の生活をより良いものにするこにもつながると考えた。	小学どうとく ゆたかな こころ3年(光文書院) 資料名「いただきます」
301	県央	小6	道徳	いのちをいただく	生命を尊重することは、言わずもがな大切なことであり、自らも他の生命とつながり、支えられて生かされていることもまた重要なことである。人は誰もが、自分以外の生物の命の上に成り立って生きていて、命をいただくことで、生きているともいえる。しかしながら、児童たちの日常の中で、そのことを意識する機会は多くはない。食品として店頭で並んでいる肉や魚からは、命を感じることは極めて難しいように思う。パッキングされた精肉などがそこに至るまでにどのような命の過程があったかを知ること、自分が他の生命の支えによって成立していることを再確認させ、児童たちにとっての「生きる」ことについて考える機会とした。	「いのちをいただく」 西日本新聞社
302	県央	小2	道徳	生命の尊さ	「おとうとのたんじょう」の教材を通して、自分の命は家族の願いを受けて生まれてきたことや、自分には生きる力があることについて友だちと意見を交流しながら考えた。	ゆたかなこころ2年 光文書院
303	県央	小6	道徳	自然愛護 生命の尊さ	「自然のゆりかご」の教材を通して、植物の生命の営みから自然の命のつながりが分かり、地球に存在しているたくさんの生命の営みを大切にしながら、共に生きていこうとすることについて自分の考えをもち、共有した。	ゆたかなこころ6年 光文書院
304	県央	小3	道徳	「命どうたから」	「命どうたから」の教材を読み、かつて日本の沖縄では、戦争で多くの命が失われたことを学んだ。自分たちと同じくらいの年のこどもを含め、お年寄りから赤ちゃんまで、生きようとしても生きられなかった人たちがいたことについても学んだ。その事実を知った上で一人ひとりが命の大切さについて考えた。授業全体を通して、児童が真剣に考えている様子が見られた。日頃の生活の中で、命を軽んずるような発言をすることについてどう考えるかという問いかけに対しても、絶対に使ってはいけない言葉だと言うことを改めて認識しており、授業の後にも「もう絶対にそういうことは言わない」という児童の声もあった。	担任による指導 『小学道徳 ゆたかな 心』

305	県央	小3	道徳	いただきます	食事の時に口にする「いただきます」にはどんな意味があり、どんな思いがこめられているかを考え、食材の命を「いただいて」いることに思いを至らせた。	小学 道徳 給食の献立表
306	県央	小複合	道徳	命のふれあい授業	「生命の尊さを知り、命あるものを大切にすること」をねらいとして、命の授業を行った。はじめに、ゲストドッグとのふれあい体験をした後、「ある犬のおはなし～殺処分ゼロを願って～」 「なぜ、保健所へ行ったのか」「なぜ、しっぽ村へ来たのか」「しっぽ村で救われてる命はどれくらい？」 「犬と人間との寿命の違い」「人間に触られているときの犬の気持ち」といった話を聞いた。授業後の振り返りや講師へのお礼の手紙の中に、「犬の気持ちを考えて、一緒に生きたい」「自分の命も動物の命も大切にしたい」といった言葉があった。本授業を通して、子ども達は、身近にいる犬などの動物にも自分達と同じ命や感情があることを知り、そのような命とこれからどのように関わっていけばよいのか、真剣に考えることができた。	(講師) 一般社団法人しっぽ村 (実施月) 12月・1月・2月 (学年) 小学校1～4年生
307	県央	小3	道徳	手話を体験しよう	手話体験を通し、聴覚障がい者の生活の仕方や人権理解を深める活動を行った。手話の学習動画を視聴し、簡単な挨拶や気持ちを表す言葉の手話を学んだ。また、講師を招き、手話を使って歌を歌い、手話に親しんだ。どの児童も興味をもって取り組むことができていた。自分の名前を指文字で表す方法を調べたり、学校生活の中で手話を使ったりする姿が見られた。手話は聴覚障がいの方にとって気持ちを表現したり、命を守るためのコミュニケーションツールになることを実感できた。	講師は、社会福祉協議会の紹介による手話のボランティア団体
308	県央	小4	道徳	食育 「つながる命～いただきます～」	絵本の読み聞かせを通して、一緒に育ってきた牛のみいちゃんを手放し、お肉になったみいちゃんを泣きながら食べる女の子の気持ちを考えた。とても真剣に話を聞きながら、「自分だったら食べられるのだろうか」と考え悩む児童や、「いただきます」の中に意味が込められていて、生命を頂いて自分の命が成り立っていることを改めて感じ、生命の大切さと食べることの大切さを考えた児童もいた。	担任 参考資料 いのちをいただく (談社)
309	県央	小3	道徳	主題名： いのちのつながり 教材名： いのちのまつり 内容項目： D生命の尊さ C家族愛、家庭生活の充実	主題のねらいは、「受け継がれ、受け渡していくという生命のつながりが分かり、生命を大切に生きていこうとする」である。児童は自分の命に対して「自分にただひとつ与えられた大切なもの」という認識はあっても、「つながり」という感覚では捉えていなかった。本教材で扱う先祖とのつながりや子孫とのつながり、生命の尊さや不思議さについて考えを広げ、「いのちのバトン」をキーワードにして友達と意見交流を行った。自分の命の重さや大切さについて理解を深めることにつながる実践となった。	特別の教科 道徳： 光文書院「小学 とうとく ゆたかな心」 3年
310	県央	小複合	道徳	『命はみんなおなじ』	児童は施設の存在は知っていたけれど、実際にどういう取組をしているのか、どんな動物たちが保護されているのか知らなかった。児童にわかりやすいように紙芝居を使って、殺処分される犬の現状を伝えてくれたときに涙を流す児童がいた。後半は犬とのふれあい方を教えていただいた。講師が一番伝えたいことは、「どの犬や猫もそれぞれ性格があり、触られるのが苦手な子もいる。触れるのが当たり前ではない」ということだった。どこかで犬や猫に会った時も必ず飼い主の方に触って良いか許可を得てから触るようにすることを学んだ。	講師は、宮ヶ瀬の地域にある動物愛護センター『しっぽ村』の方々。 全学年で学習

311	中	小3	道徳	生命の尊さ	<p>3年生になり友達を傷つけるような暴言が目立つようになってきた。そこで「生命の尊さを知り、お互いの命を大切にしようとするに気付く」という目標で授業を行った。戦時中の沖縄や広島の記事を読むことで、戦争やけんかなど力で解決しようとする「命」が大切にされないことを知った。また、絵本「いのちのまつり」の読み聞かせで、自分たちの命も友達の命もご先祖さまの命がつながってきたからこそのものだということを知った。学習後の感想には「自分の命だけでなく友達の命も大切にしたい」という自分の中で変化した思いを書いている児童もいた。</p>	<p>教材：朝日新聞 「知る沖縄」 「知るヒロシマ」 サンマーク出版：「いのちのまつり」</p>
312	中	小複合	道徳	「いのちの大切さについて考えよう」	<p>「まりちゃんとあさがお」の話を読み、児童に花の命は種から芽が出てつぼみになり花になりまた種になることを伝えた。朝顔の成長の図鑑を見せたことで日頃育てている野菜の成長とつながり、視覚から内容をとらえた児童も見られた。花の命がつながっているように自分の命も誰かとつながっていることに気づかせることができた。そしてそのつながった命を大切にす行動をとるには何をしたらいいかを、ワークシートを使って考えさせた。</p>	<p>「まりちゃんとあさがお」 「あさがお」</p>
313	中	小2	道徳	「生まれるということ」「つながるいのち」	<p>童謡の「ぞうさん」を題材にした教材を読み「かあさんもながいのよ」という歌詞から鼻の長いぞうの母親から同じく鼻の長い子どものぞうが生まれ、「かあさんがすきなよ」という感情も一緒に芽生えていることを考えさせた。 つながっている「いのちのまつり」「ヌチヌグスージ」を読み聞かせたことで、自分の命も母親や父親からつながり、母親や父親もそのまた母親や父親からと、命が先祖代々つながってきて自分が今、存在することを感じさせることができた。</p>	<p>「生まれるということ」 「いのちのまつり」 「ヌチヌグスージ」</p>
314	中	小2	道徳	生命の尊さ	<p>病気のゾウを、2頭のゾウが寄り添って支えたという実話を通して、命を大切に思う心について考えさせ、かけがえのない命を大切にしようとする気持ちを育てる。</p>	
315	中	小2	道徳	生命の尊さ	<p>病気のゾウのアヌーラが倒れないように、2頭のゾウが寄り添って、命を大切に思う心について考える。かけがえのない命を大切にしようとする心情を育む。 子ども達からは、「家庭で自分にできる手伝いをしよう」「そばにいてやさしく声をかける」などの考えをもつ児童が出た。</p>	<p>光村図書 どうとく 2年 「きみがいちばんひかるとき」</p>
316	中	小5	道徳	命の大切さ	<p>みやこしゆきなさんが書いた命についての詩やエピソードを通して命の大切さについて考える授業を行った。この詩を読んで、児童は電池は取り換えることができるが命はできない。命があることに感謝して生きること。命が一番大切で一生に一度のものなどという意見を述べた。 また、精いっぱい生きるとは、やり残したことがないよう生きる、ありがたみをもって笑って楽しく過ごすことだと感じていた。</p>	<p>道徳 光村図書 命の詩 電池が切れるまで</p>

317	中	小2	道徳	命の大切さ	<p>まど・みちおさんの「ぞうさん」の詩を通して命のつながりについて考えた。この詩を読んで、体の特徴が似ていることは、親から受け継いできた大切な証である。命がつながってきたことの大切さや命をつないでいくことの大切さについて、多くの意見があった。</p> <p>今の自分たちにできることとして自分の命を大切にすることが大事であると感じていた。</p>	<p>道徳 光村図書 生まれるということ</p>
318	中	小6	道徳	つながる命	<p>「すべての命は38億年前からつながっている」という文章から、命はだれのものなのか考えさせ、つながりの中にあるかけがえのない命を慎み深く受け止めようとする心情を育てる。</p>	<p>小学校道徳 光村図書 きみがいちばんひかるとき「三十八億年の命」</p>
319	中	小4	道徳	「生きているしるし」	<p>「生きているしるし」の学習時、主人公に妹ができ、楽しみにしていたのだが妹は泣いてばかりいて想像と違い残念な気持ちになる。そこに父親から、主人公が生まれたときの話や命の大切さ、命は多くの人々に支えられていることを教わる。本授業では、「命を大切にしなければならない。」ということをも自分のこととして切実に感じられるように、実話事例にふれ、理解を深められるように指導した。</p>	<p>各担任がクラスごとに指導した。</p>
320	中	小1	道徳	いきているって	<p>『自分が生きていることについて考えよう』</p> <p>①生きているからできることについて考える。 ②生きているっていいなと思うことを見つける。 ①と②をワークシートにまとめました。子どもたちからは「生きているから好きなことができる。」や「生きていると色んなことができる。」などの振り返りがありました。一人ひとりが「生きているって」について考えることができた。</p>	
321	中	小5	道徳	命の大切さ	<p>自分にとって「命」がどんなものかを考えさせたあと、みやこしゆきなさんが書いた「命」という詩を読んだ。みやこしさんは「自分の命」を「乾電池」と関連付けて詩で表現していた。児童には、最後に書かれている「精一杯生きよう」という言葉からみやこしさんのどんな思いが込められていたのかを想像させた。</p> <p>話し合いを深めていく中で、今まで当たり前だと思っていた自分の命の大切さに気付くだけでなく、周りの人への感謝、そして、みやこしさんへの感謝の気持ちをもつ児童がいた。命の尊さだけでなく、自分を支えている人たちへの感謝の気持ちも深まった。</p>	<p>道徳5 「きみがいちばんひかるとき」</p>
322	中	小3	道徳	「いのち」について考えよう	<p>道徳科の授業において、内容項目「生命の尊さ」に関する授業を2回と「家族愛、家庭生活の充実」に関する授業を1回を連続して行うことで、「いのち」に関する概念を広げ、深めることができた。「生命の尊さ」に関する授業において「いのち」の唯一性・連続性に気づき、「家族愛、家庭生活の充実」の授業において身近な家族という具体物を通して、その気づきを深めることができた。</p>	<p>教材名①「大切なものはなんですか」②「ヌチヌグスージー命の祭り」③「百六さい、おめでとう、ひいばあちゃん」(どうとく3きみがいちばんひかるとき光村図書)</p>

323	中	小1	道徳	生命の尊さ「生きて いるっていいな」	普段、あたりまえにしていること（息をする・食事をする・睡眠をとる・勉強する・遊ぶなど）が、生きているからこそできると気付かせ、自分が生きていることの喜びや命の尊さを考えるきっかけとした。子ども達は、詩を読んだ後に実生活を振り返り、生きているからこそ、楽しい・悲しい・うれしい・きれい・暖かい・冷たい・おいしいと感じることができると実感していた。また、「ペットや家族を抱っこすると、心臓が動いているのが分かる。ふわふわで温かい。」「命がなくなったら、いろいろな楽しいことができな い。」「テレビで戦争をしている国の子どもが泣いていてかわいそうだった。」など、今、あたりまえと感じていることが、命があればこそその幸せだと気付く機会となった。これらのことが、今後の長い人生において、いつでも命を大切にしようという気持ちの基礎となるよう、継続的に指導が必要だと感じた。本学習終了後も、折に触れ「生きているっていいな」の詩の朗読を聞いたり、クラスで音読をしたりしている。	道徳教科書（光村図書）
324	中	小3	道徳	生命尊重	『生きている仲間』 2021年6月17日の朝日新聞夕刊に掲載された「1頭の保護と40万頭の駆除」を教材として、保護と殺処分をめぐる課題から命の重さを考える授業を展開した。 1頭の野生のシカ、ケープ君について、住民、農家、行政のそれぞれの立場による意見を紹介し、なかなか解決できない保護と駆除の課題について意見を出し合った。また、駆除されてしまう命、それが私たちの生活と密接につながっていることであることを踏まえ、「いただきます」の意味について考えた。	2021年6月17日の朝日新聞夕刊に掲載された「1頭の保護と40万頭の駆除」
325	中	小6	道徳	つながる命	生き物は生き物からしか生まれぬ。両親から半分ずつの性質を受け継ぎ、たった一つの存在である。遡ると生き物はすべて同じ細胞から生まれ、今ここにいる。地球上の様々な困難を乗り越え命をつないできた。自分の命を大切に、他の命も大切にしなければならぬことを考えさせた。	中村桂子 「三十八億年の命」
326	中	小3	道徳	多様性	総合の授業で視覚障がい者、聴覚障がい者、身体障がい者について知り、障がいのあるなしにかかわらず困っていれば助けるし、まずその人となりを知ることが大切という事を学んできた。その延長上で、人権週間に人権啓発ビデオの『もも色のクレヨン』を視聴し、障がいのある人ない人でも仲間であることは変わらないという事を改めて考えた。子ども達からは、他の人と違うからとか、劣っていると決めつけずに接してみる、仲良くなるためには好きなものを知る、相手の気持ちを考えて行動する等の意見が出た。	もも色のクレヨン
327	中	小6	道徳	命の旅	食物連鎖の学習を踏まえ、食の大切さを考える授業を行った。一見、美しい動物の写真に見えても、その裏にはたくさんの動物が紡いできたつながりがあることや、人間が食べるものはそのつながりの先にあるのだということを学習した。児童は、自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりするなど、グループでの意見交流を活発に行った。活動において児童はよく考え、発言し、まわりの意見を聞いていた。授業を通して命のつながりについて理解や認識をより深めることができた。	必要に応じてICT機器を活用したり、ワークシートを活用したりすることで理解を深めることができた。

328	中	小4	道徳	あらゆる暴力から自分自身を守るために	<p>・CAP(子どもへの暴力防止)プログラム < Child Assault prevention> 子どもがあらゆる暴力(いじめ・誘拐・性暴力など)から自分自身を守る力持っていることに気づき、その力を発揮できるようにするためのサポートプログラム。</p> <p>児童が大人に相談するロールプレイを行い、教員も児童から相談を受けた時の対応の仕方をロールプレイで体験した。講義が終わったあとには、別室でCAPスタッフが待機し、相談したいことがある児童は話を聞いてもらった。</p>	講師：認定NPO法人エンパワメントかながわ
329	中	小5	道徳	スマートフォン・ゲーム機の安全な使い方	<p>スマートフォンやゲーム機等で利用しているインターネットの利用について、注意しなくてはならないことや実際に起きているトラブルを知り、身近な問題として考えた。LineやTikTokでのトラブル事例や、相手が誰が分からないネット上の怖さを知り、自分と相手を守って安全に利用するにはどんなことに気を付けなくてはいけないのかを確認した。実際に自分たちの住んでいる地区で長く活動してくださっている講師の方の話は具体的に説得力があり、児童は自分の事として考えている様子だった。</p>	講師 保護司の方2名 (元少年補導員)
330	中	小3	道徳	生命の尊さ	<p>虫たちがそれぞれのいちばん大切なものについて話し合う姿を通して、命を大切にすることは、どういうことかについて考えさせ、唯一無二の生命を大切にし、与えられた生命を一生懸命に生きようとする心情を育てた。</p>	教科書
331	中	小4	道徳	大切な命	<p>内容項目：生命の尊さ 自分が生まれた時のことを父親から聞いた主人公の姿を通して、一人ひとりの命の大切さについて考えた。 (児童の感想) ・子どもを産むのは大変だとは知っていたけど、命がけで産んでいたとは知らなかった。 ・家族が私のことを育ててくれたから今の私ができている。 ・命や名前をくれた大切な家族を大事にしていきたい。</p>	
332	中	小1	道徳	「がんこちゃんのうまれたひ」	<p>1年生の児童にとって、日常生活で植物や生き物に触れることで、成長することへの喜びや命の大切さを感じることはあっても、「生命の誕生」に触れる機会はあまりない。そこで、クラスの友達の実際に生まれた日のエピソードを紹介したり、普段からよく見ている映像教材の主人公が生まれた日について視聴し、内容について話し合ったりすることで、「生命の誕生」について考える機会とした。最後に「いのちとはどんなものか」自分についての考えを記入する活動を行い、児童からは「生まれてきてよかった」「命を大切にしたい」「お母さん、産んでくれてありがとう」など、様々な考えが出てきて、自分事として捉えられた子が多くいた。生まれる前から生命そのものがかけがえのないものであり、それを大切にしようと感じるきっかけとなった。</p>	NHK for school「新・ざわざわ森のがんこちゃん」の中から「がんこちゃんのうまれたひ」

333	中	小4	道徳	「命の不思議さ」	<p>生き物と機械の違いについて考えることを通して、命とはどのようなものかについて考えさせ、唯一無二の生命を大切にしようとする心情を育てる。</p> <p>「生き物のすごいところ、不思議なところ、尊いところって何だろう？」と子どもたちに問いかけると、痛みを感じる場所、感情があること、命は一つで成長する等と、一人ひとりが機械とは違い生命の本質とその尊さに気付くことができた。命はかけがえのないものであり、祖先からずっとつながってきている尊いものであることを改めて見つめ直し、自己の生き方について考えるきっかけになった。</p>	教材名（出典） 「生き物と機械」 （光村図書）
334	中	小3	道徳	生命尊重	<p>児童に「この世で一番大切なものは何か」を発問し、「なぜそれが一番大切なのか」を考えさせた。問に対して「家族」「友達」「ゲーム(機器)」などの回答が出たが、教材を通して「一番大切なものは命」であるという答えを導き出した。そこで「どうすれば命を大切にできるか」を個々のワークシートにまとめて意見を出し合った。子どもたちからは「早寝・早起き・朝ごはん健康に暮らす」「友達が嫌がることをしたり言ったりしない」「事故にあわないように交通安全に気を付ける」などの考えが多く出てきた。日々の生活を振り返りながら、自分や家族、友達の命がかけがえのないものであることに気が付き、「命の尊さ」について認識を深めていた。</p>	授業者 人権担当者 教材 光村図書 「大切なものは何ですか」
335	中	小2	道徳	生命の尊さ	<p>まど・みちおさんの詩「ぞうさん」を読み解いた文章を通して、命のつながりについて考えた。自分と家族で似ているところや、家族のことをどう思っているかについて考えることを通して、自分という存在はたくさんの命の連鎖によって生まれたということを感じた。似ているのは外見だけでなく、何気ない口癖やしぐさ、性格などもあることに気が付き、共に過ごした時間などでもつながりを感じることができていることにも気付いたようだった。命の大切さについて考える機会ともなった。</p>	「生まれるということ」
336	中	小2	道徳	つながるいのち	<p>まど・みちおさんの詩「ぞうさん」を読み解いた文章を通して、命がつながっているとはどういうことなのかについて考えさせた。自分の家族と似ている部分について発表していく中で、嬉しい気持ちや幸せな気持ちに気が付き、家族が「大好き」ということを実感させた。大好きという感情が、次へ次へと命を繋いでいるのだということを実感させた。</p>	道徳教科書(光村図書) 「生まれるということ」
337	中	小複合	道徳	きらきらさがし大きくせん (A(4)個性の伸長)	<p>いのちの尊さを感じることができるようになるためには、まずは自分自身を大切に感じる自尊感情をもつことが必要であると考えた。その土台づくりの一つとして、互いの良いところをカードに書いて交換し、他者から受容され賞賛される経験をする授業を行った。児童からは、「うれしかった」「私もいいこといっぱい見付けていっぱい書いてあげるね」といった感想が出たり、別の機会にも進んで友だちの良いところを伝えたり、カードに書かれた自分の長所を見返したりする姿が見られた。</p>	「わたしっていいな ホメホメ大作戦(よいところさがし)」 (出典「子どもの社会的スキル横浜プログラム 指導プログラム集 三訂版」横浜市教育委員会事務局)

338	中	小3	道徳	ヌチヌグスージ いのちの祭り	「ヌチヌグスージ（命の祭り）」という絵本を教材に使用した。ご先祖様を数えてみる活動や、自分の命が大勢のご先祖様から命を受け継いだものであることを知った主人公「コウちゃん」の気持ちに共感することで、生命の「連続性」について、自我関与しながら考えることができた。最後に「いのちをつくってくれた人の手紙（保護者からの手紙）」を渡し、多くの児童が自他の命を大事にしたいと感じることができた。	資料名「ヌチヌグスージ（命の祭り）」 著者 川島 丈典
339	中	小5	道徳	電池がきれるまで 主として生命や自然、崇高なもののかかわりに関すること	白血病のため、11歳で亡くなった宮越由貴奈さんが、生前、院内学級で書いた「命」という詩。詩を覚悟しながらも、精一杯生きようとした宮越さんの思いを知ることを通して、命の尊さや大切さについて、一人ひとりが考えを深められるように学習を展開した。学習者である5年生と同年で亡くなった宮越さんの「命」の詩は、多くの子どもたちの心に響き、「一度しかない人生を大切にする。」「楽しく明るく生きることが私なりの精一杯だ。」と学習を振り返る子もいた。	小学校5年 道徳教科書 「新・わたしたちの道徳」
340	中	小1	道徳	生命の尊さ	本単元は、実物大の乳児の写真から「体が小さい」「かわいい」等の大きな心の動き（感動や驚き）を通して、自分の成長に喜びを感じ、大切にしていこうとする心情を育むことをねらいとした。 乳児期を思い出す活動を通して、体の成長や容姿の変化に気づき、自己の成長を喜ぶ様子が多く見られた。また、「命のすごさ」について考える活動では、自分ができるようになったことが増えたことを実感し、生きていることの素晴らしさを学級で共感しあうことができた。	新・みんなのどうとく ① 「みんなあかちゃんだったよ」
341	中	小3	道徳	生命の尊さ	6歳の女の子が病気と闘い、お嫁さんに憧れながら天国へ旅立ってしまう。両親は深い悲しみと無力さを感じるが、「娘の死を無駄にしないように」と、命の授業を始める。本単元は、女の子やその家族の気持ちを考え、限りある命を精一杯生きていこうとする心情を育てることをねらいとする。 病気に打ち勝とうと前向きに過ごす女の子の言動や、自分を大切に思ってくれる人たちの存在に焦点を当てて考えることで、命の尊さを感じる事ができた。自分の命を大切にすることに加え、他の人の命の大切さについても考えられた児童が多かった。	新・みんなのどうとく ③ 「六さいのはなよめ」
342	中	小2	道徳	ぴよちゃんとひまわり	教材「ぴよちゃんとひまわり」を通して、①どんな時に生きていると思うか、②これからどのように生きていきたいか、をテーマにふりかえりを書いた。①については、学校で友達と楽しく過ごしているとき、ご飯を食べているとき、楽しいと思うときなど、いつもの生活の中で生きる事の尊さに気づくことができた。②については、これからも家族や友達を大切にしていこうと生きていきたいという、自分と周囲を大切にしようとする意欲を高めていくことができた。	
343	中	小5	道徳	生命の尊さ 『命の詩 - 電池がきれるまで』	教材「命の詩 - 電池がきれるまで」を通して、命の尊さについて考えた。由貴奈さんのように生きてくても生きられなかった人がいること、たった一つしかない命は、取り返すことのできない尊いものであること、精一杯生きることの大切さについて考えた。また、自分の身近なところで、家族や友人の命の尊さを感じた実体験を通して、命について真摯に考えを深めていくことができた。	

344	中	小1	道徳	生命の尊さ 「おおきくなっ てね おおきく なったよ」	実物大の赤ちゃんの人形を抱っこしたり、成長の写真を見たりしながら、自分の成長の足跡を振り返る活動を行った。実物大の人形の大きさと、今の自分の大きさの違いに驚いたり、身体の成長と併せて、できるようになったことを振り返ったりする中で、育ててくれている家族への感謝の声も出てきた。元気に育ち、学校へ来ることは当たり前のことではなく、家族の協力や支えがあるからこそだと気づき、自分のいのちを大切にすることは、家族を大切にすることにもなるという発言もあった。また、これから先の成長も楽しみにようになってきた様子もうかがえた。学校では友達と支え合い、家庭では、家族と支え合うことが大切だという思いを共有できた。	参考資料 学研 「みんな あかちゃん だったよ」
345	中	小5	道徳	生命の尊さ 「かけがえのない命」	命について感じていることを想起するために、命に関する詩や出来事などを活用した。話し合いの中で命は大切なものである一方、粗末にしてしまうようなことがあるという考えも挙がった。教材を通して、自分の命はたくさんの人に支えられているということを深く考え、生命を尊重する心情や態度を育む指導を行った。授業を通して、「たくさんの人に支えられて生きている」や「自分だけでなく、ほかの命も大切にしなければならない」などの、価値観に迫る振り返りを多くみることができた。自分の命が様々な支えを受けて成り立っていることを理解することができた。	参考資料 学研 「母とながめた一番 星」
346	中	小2	道徳	花いっぱいにな あれ	飛んできた赤い風船を花だと思ったキツネが、枯れないように地面に植えて水をあげ世話をする。風船がしぼみ花が枯れたと思ったキツネはとても悲しむ。だが、おかい風船には、花の種がついていてある日ひまわりの花が咲く。花の種だとわかったことで、悲しみが喜びに変わりキツネは幸せな気持ちになる。寂しかった山がそれから毎年ひまわり畑になりみんなも楽しみにするようになった。この話を聞いて、小さな種を大切にすることで、幸せにつながるということを学習できた。	道徳教材紙芝居
347	中	小2	道徳	ごめんね、みなみ	福岡にある動物園の「みなみ」というメスのキリンが、人間が捨てたプラスチックごみを誤飲してしまい、身籠っていた赤ちゃんとともに亡くなってしまう実話から、身近にいる動植物の命を守る行動を考える学習をした。児童は、「ちょっとぐらい平気。」と思っていた自分たちの行動を改めるきっかけとなり、みなみのような動物を増やさないために、自分たちができる行動を考えた。以前より生き物の命を身近に考える児童が増えた。	教科書 ・3キロのプラスチックを入れたごみ袋 ・児童が2年生で触れ 合った動植物の写真
348	中	小6	道徳	道徳 「いじめを見つ けたらあなたな らどうする？」	いじめにより命を落としたという、実際に新聞で掲載された内容を取り上げた。「過度なからかいはいじめにつながることに気づくと同時に、いじめられている子を見つけたときの自分の行動について考えることができる。」ことを本時の目標とし、同時に命の大切さについても考えた。いじめは、人の命を奪う重大なことであることを学級で確認し、いじめを見つけた場合は、「同じ考えをもった仲間を連れてとめにいく」という結論に至った。	資料名 生と死 伝える語り部に 神奈川新聞2020 06-07 朝刊, p. 1

349	中	小複合	道徳	道徳 「限られた命」	宮越由貴奈さんの「命」の詩を用いて、生と死をつなぐ命の大切さについて考えた。ゲームとは違って残機や電池を新しくしても命は更新されないこと、そして無駄にしてしまう場合は本人だけが原因でなく、いじめや戦争、事件などで自殺の選択がなされないことなど、児童から意見、考えが出た。そして、宮越さんの死は、悲しみだけでなく、精一杯命をつかって生きる、「生きる力」そして楽しく生きていきたい「生きがい」などを遺したという結論に至った。まとめでは、各児童にどう生きるかを考えさせ、それぞれの人生の目標か、生きがいを「私は〇〇のために生きたい」という形で表記した。	資料名 文 宮本雅史 「『電池が切れるまで』の仲間たち」より 絵 石倉ヒロユキ
350	中	小2	道徳	生命の尊さ	ひまわりに対する登場人物の気持ちの変化を考えることを通して、生命に対して愛情をもって接することの大切さについて考えた。また、「生きている」と感じる時はどんな時かふりかえり、命があることの喜びについて考えた。	
351	中	小5	道徳	生命の尊さ	重い病気を患った小学校4年生の少女が生前に書いた詩『命』と彼女の人生を教材として扱った。自らの命を「電池」になぞらえることで、命がやがて切れることを想起させやすくなっていた。詩の最後の一文である「せいいっぱい生きる」とはどういうことかを中心発問として提示し、話し合い活動を取り入れながら、命の尊さについて考える授業を行った。児童が少女への理解を深めることで、自分が「せいいっぱい生きる」ことについて真剣に考え、思いを持つことができた。クラスルームを使った意見共有は、全員の意見を確認しやすく、リアルタイムで書き込みが更新されるので、発言の少ない児童の考えも共有できた。	教材名 「電池が切れるまで」 (学研『みんなの道徳』より)
352	中	小1	道徳	生命の尊さ	いつも元気なうさぎの女の子ノンノンが、ある朝急に熱を出し、大好きな人参も食べられず苦しい思いをした。しかし、薬を飲んで翌朝目が覚めたら、周りがいつもより明るく見えて人参を食べられる幸せを感じるという物語を教材として扱った。動物の登場人物に同化して考えるという1年生の発達段階をふまえ、自分の経験を振り返りながら、役割演技を通してノンノンの気持ちを想像させた。自分が元気だなと感じる場面について問うことで、食事をおいしく食べられること、友だちと元気に遊ぶことなど普段当たり前と思っていることがどれだけありがたいことかに気付けるようにした。	教材名 「ノンノンだいじょうぶ」 (学研『みんなの道徳』より)
353	中	小4	道徳	ウミガメの命	これまでの生き物を育てた経験を想起させながら、本教材「ウミガメの命」の学習を行った。学校では生活科の学習で花や野菜を育てたり、家庭ではペットを飼っていたり、児童全員が生き物を育てたという経験があり、生き物の命の大切さも日々感じている。一方で、厳しい自然の中で成長していく生き物の命についてはあまり考えたことがなかった。本教材を通して、自然に親しみながら自然環境を守っていくこと、自然を大切にすることが自分たちの生活や命を守ることにつながることを学んだ。	新・みんなの道徳 4年(教科書)

354	中	小1	道徳	「みんな あか ちゃんだった よ」	生命あるすべてのものを、かけがえのないものとして尊重し、大切にすることに関する学習である。児童が入学して3ヶ月の間にどのようなことがあったのか、心の中で思い出した。教科書にある、実物大の赤ちゃんの写真を見て、大きな心の動き（驚きや感動）を通して命について考えた。写真を見て、乳児期のおぼろげな記憶をたどったり、今の自分の体の大きさや容姿の変化を見つめ直すきっかけにもなった。自分が小さかった頃のことを思い出し、驚いたことを言葉にして伝えあったり、自分ができるようになったことの数の多さに気づいたりした。また、「命ってすごいな」と思ったことを伝え合うことで、自分の成長に喜びを感じ、大切にしていこうとする心情が育った。	
355	中	小3	道徳	「ひきがえると ろば」	主人公たちがひきがえるに小石を投げつけていたところを通りかかったろばが、疲れているにもかかわらずひきがえるを避けて通り過ぎていく様子を見た主人公たちの気持ちについて考える授業を行った。授業の導入で、子どもたちが考える命について考えを聞いた。「命は大切」「一つしかない」などそれぞれ今までの経験に基づく考えを発表した。子どもたちは、主人公たちが生き物の命を軽く見ていることに怒りを感じている様子だった。そこで、主人公たちとろばの行動の違いについて考え、命の重さについて話し合った。話し合いが進むと、「生き物の命だからといって、粗末にするのはよくない、これから大切にしよう」という思いがクラスに広がった。	
356	中	小2	道徳	生命の尊さ 「だっこしながら」	赤ちゃんを見たことある人。と聞くと、たくさんの手が挙がった。赤ちゃんを見てどんなことを思ったか問うと、「小さかった。」「かわいかった。」「あたたかい気持ちになった。」と児童たちは話していた。また生活科で集めた、児童自身の生まれた時の写真や、保護者から聞いた自分が生れた時のエピソードを振り返り、自分たちにも赤ちゃんの頃があり、大切に育ててもらい今の自分があることを実感していた。たくさんの人に大切にしてもらっている自分の命を感じることで、「大切に育ててもらった、たった一つの命だから大事にしなくてはならない。」と考えている児童もいた。	生活科「明日へジャンプ」の学習の中で集めた資料を用いて、児童自身の生まれた時の様子を、写真等で振り返った。
357	中	小1	道徳	いのちのすばらしさ	初めに「手のひらを太陽に」の歌詞から命に対するイメージを膨らませた。次に自身の経験を想起させ、生きていけば時には悲しいこともあり、それは命があるからこそ感じられることに気付かせた。「喜んだり悲しんだりしながら、いろいろなことができる命ってすごい」との発言もあった。最後に自分の命は多くの人に支えられながら輝いていることへ考えを広げ、その人物を紹介し合って話し合いを閉じた。本時の学びを顔の表情マークで振り返ると、「いいなと感じた」を表す穏やかな笑みを浮かべるマークを描いた児童が多かった。	教材 「みんなみんないきている」 歌 「手のひらを太陽に」
358	中	小4	道徳	感謝 家族愛 大切な命	飼い主の方と一緒に9年間ずっと児童の登下校を見守ってきた犬が亡くなった。警察から、この長年の功績が表彰されることが決まった矢先だった。飼い主の方が遺影を持ち、一緒に表彰式に臨んだ。飼い主の方の思いを聞き、児童は「今までありがとう。」「天国でも見守っていてくれると思う。」などの感想を持った。限りある命であるが、家族の一員として愛されて生きてきた犬がとても幸せだったこと、私たちは感謝の気持ちを忘れずにこれからも元気に生きていくことが大切だということがわかった。	

359	中	小1	道徳	「いのちのすばらしさ」	「手のひらを太陽に」の歌を歌う活動から、生きているものには一人に一つずついのちがあり、それはかけがえがないものなのだと感じられるようにした。1年生は、小さな虫でも子どもでも大人でも大きさに関係なく持っているいのちは一つで、その価値は一緒なのだと知り、驚いていた。そのかけがえのないいのちを大切に守るとはどういうことなのか、自分の身近な環境から振り返り考えさせたところ、登校中に交通指導をしている地域の方や、家族の存在をあげて、自分のいのちは守られているのだと気付いていた。安心した表情や発言から、児童がいのちを輝かせながら生きる自分自身を意識し始めていることが分かった。	音楽
360	中	小3	道徳	生命	道徳の授業で「いのちのまつり」の学習した。一つの命は、先祖代々の人たちがつながって、今の自分があることがわかった。児童は、たくさんの命のつながりに驚き、「一人も欠けることなく、自分まで命をバトンしてくれた。感謝の気持ちでいっぱい、ありがとう。」という感想を持つことができた。さらに、これからの自分ができることとして、この命を絶やさないように大切に行動しようという意見が多く聞かれた。	担任が指導 どうとく「ゆたかなころ」 公文書院
361	中	小4	道徳	いのちの大切さ	95歳の著者が、10歳という年齢の子に伝えたいことの本を紹介し、命には限りがあるが、その長さよりもどう命を使うかの方が大事ということ、他者を思いやり平和を築いて欲しい、沢山のことを知って想像力を失わないようにというメッセージを紹介した。本の内容や道徳の教科書を聞き、子どもたちからは、「いのちはつながっていくもの」「今までよりいのちを大切に考えたい」といったような感想が上がり、どの児童もじっくり自分のこととして考えていた。	教材：「十歳のきみへ」日野原重明著 小学 道徳：「ゆたかな心」4年 光文書院教科書
362	中	小6	道徳	「自分らしさ」をみつめよう	自分と友達、それぞれの良さを見つめ直す活動を通し、「自分」「友達」のどちらの存在も大切にすることを育んだ。メッセージカードに友達の良いところを書き、お互いに交換し気持ちを伝え合った。普段言葉にして伝えられない気持ちや長所について、友達や教師から言葉をかけてもらい嬉しそう表情をしながら学習を進めた。自分と友達、どちらもかけがえのない大切な存在であることに気付くことができた。	参考 光村図書 道徳 「自分らしさをみつめよう」
363	中	小4	道徳	「生きる喜び」	急性腎盂炎になった主人公が1か月学校を休んだ体験を基にした教材。授業の導入で「生きるって〇〇」の〇〇に入る言葉について意見を聞いた時には、楽しいや素晴らしいのほかに少し辛いといったマイナスな意見も出てきた。そのため、生きることの喜びに気づけるように話し合った。話し合いを通して、日常生活に小さな幸せがたくさんあることに気づいている児童が増えたように感じた。授業の終末で導入と同じ発問をした。すると「生きるって幸せ」や「生きるって小さな幸せに気づける」といった意見が多数出された。さらに理由もしっかり言える児童が多く、生きることの喜びについて深く考えられていると感じた。	東京書籍 新訂新しいどうとく4 「9 わたしの見つけた小さな幸せ」

364	中	小1	道徳	ともだちを大切にし、公正にきまりを守る	学校の集団生活の中では、順番やルールを守らなければいけない場面はたくさんある。もし、仲が良いからという理由で割り込みを許したり、仲が悪いからゲームに入れないということはしてはいけない行為である。「きまりを守る」と同時に、「公正・公平」に行動することは相手や周りを大事にすることであることを子どもたちと学級開きの中で確認した。	東京書籍 新訂あたらしいどうとく 1「みんないっしょ」
365	中	小3	道徳	大切ないのち「ヌチヌグスージ（いのちのまつり）」	沖縄のお墓の前で人々がお祭りのようなことをしている、それはご先祖様に感謝するためだという教材の導入がある。今自分が生きているのは、母と父がいるから、母と父がいるのは、祖父母がいるからと、自分を起点としてどれくらい自分にご先祖様がいるのかを考えた。具体的な数字で表すと子ども達は驚いた様子だった。その中のただの一人も欠けてしまうと、自分は存在できないことから、自分の命は自分のものだけではないかけがえのないものであると実感していた。	「新訂 新しいどうとく3」 東京書籍
366	中	小6	道徳	生命尊重	町の助産師さんによる講話。いのちのルーツ（子宮の中での成長の様子、体内の様子）について、パワーポイントや実寸大の人形を用いて説明があった。また、誕生日は「いのちの記念日」という話や、「生きているだけで100点満点」などのお話もあった。講話後、一人ひとり感じたことをふり返った。	講師は二宮町の助産師さん
367	中	小5	道徳	「電池が切れるまで」	道徳の学習で、11才でなくなった少女が死の4カ月前に書き残した命の詩やエピソードを学習した。その中で、自分たちと同じ年齢でなくなったことを知り、生命の尊さを自分事として捉える児童が多かった。また、日頃の生活を振り返り、一日一日を充実させようという思いをもつ児童もいた。	新・みんなの道徳
368	県西	小1 歯援級	道徳	命や自然と私	自分の成長として、できるようになったこと、どのくらい大きくなったかななどを学習した。赤ちゃん人形（実際の赤ちゃんの大きさ・重さ）をだっこしたり、赤ちゃんの衣服を見たり、赤ちゃんの手形と比べたりした。	新・みんなの道徳（学研） 「みんな あかちゃんだったよ」
369	県西	小3	道徳	「命の大切さ」	交通事故を扱った教材文を読み、命の大切さ、かけがえのないものであることを考えた。命の尊さについて考えるとともに、普段支えてくれる家族や周りの人たちへの感謝の気持ちを考えた。また、自分の命を守るためにどのように行動すべきか、考えをノートにまとめた。	
370	県西	小1	道徳	生命の尊さ	実物大の「生まれて3ヶ月の赤ちゃん」の写真を見て感じたことを話し合う活動を通して、自分も周りのみんなも同じように赤ちゃんの時期があったこと、そこから少しずつ大きくなることが増えて成長してきたことに気づくことができた。参観日に行って、保護者から赤ちゃんの頃の様子を伺ったことで、より具体的にイメージをもち、命の凄さ・みんなが大切に育てられた存在であることを感じさせることができた。	・学研「みんなのどうとく」（道徳の教科書）より「みんな あかちゃんだったよ」

371	県西	小複合	道徳	公正公平	全校で体育館に集まり、校長から「心の扉」という話を聞いた。いじめの未然防止「心の扉」は、外側を取っ手がないため、外側からは開けられず、内側からしかそのドアを開けることはできない。内側からドアを開けてもらうためには、どんな声をかけたらよいかを考えた。教員の演劇「北風と太陽」を見たあと、太陽のようなあたたかい言葉をかけるとよいのではないかと考える児童がいた。北風のような冷たい風はより一層心の扉を閉ざしてしまうことも感じられた。一人ひとりを大切にする言葉をかけていく心を育てられた。	校長：自作「心の扉」
372	県西	小5	道徳	電池が切れるまで	「死は悲しみだけを残すものなのか」という問いについて考えることを通して、自分に与えられた命を精いっぱい生きていこうとする心情について考えることができた。	
373	県西	小3	道徳	「いのちのおはなし」 生命の尊さ	「ネズミ、イヌ、ゾウ、人間の寿命や心拍数」のクイズを出した。「ネズミは2年しか生きられない。」「でも心拍数がすごい。一生懸命生きているんだ。」「ゾウは長生きだけど、ゆっくり生きているんだね。」など子どもなりの言葉でどの生き物も一生懸命生きていることに気付いていった。そこで、「命は時間」と答えたと医者さんの本「いのちのおはなし」を読み聞かせした。「たしかに勉強している時間も、本を読んでいる時間も、オルガンを弾いている時間も全部私が生きている時間だ。」「この医者さんは命（時間）を人のために使ってたくさん人の命を助けてきた。私も時間を人のために使いたい。」など命について真剣に考える姿があった。	「いのちのおはなし」 日野原重明
374	県西	小2	道徳	かけがえのないいのち「たからものなあに」	自分の誕生から大切に育ててもらってきた場面を具体的に思い描きながら、自分の生命を「たからもの」だと感じて過ごすことができるよう、自分の考えを深めることができた。児童は、これまでの経験を思い出す過程で家族の愛情を感じ、生命の尊さを自覚している様子が見られた。	
375	県西	小1	道徳	生命の尊さ	1年生の発達段階では、自己の心身の成長を客観的にとらえることが難しい。そこで、赤ちゃんの頃、保育園や幼稚園の頃、入学後の4月、5月、そして6月の自分と比較させることを通して、自己の成長の喜びを感じると共に、それを大切にしていこうという心情を育てることをねらいとした。赤ちゃんの写真を見ながら手や足の大きさの変化を実感し、驚きを友だちと分かち合った。身体の大きさの成長だけでなく、形として現れないような成長などについても確認することができた。成長し続けることで、さらなる成長への喜びや期待を抱くことができた児童の表情からは、命を大切にする心の土台をつくることができた。	学研 新・みんなの道徳1 「おおきくなってね おおきくなったよ」

376	県西	小5	道徳	生命の尊さ	<p>実話をもとに「死」について考えることをとおして、「命」を多面的・多角的にとらえ、考えを深めるための学習をした。自分に与えられた命を大切にしようと考えを深めた児童。ヒトとしての命の儚さを感じた児童。命は、共に過ごしてきた人々の心の中で生き続けると気付いた児童。多くの児童の気付きをおして、ヒトとしての命も、心の中に生き続ける命も受け継がれていくものであり、そういう意味でも大切にしていける必要があると結論付けることとなった。終末では、「1年生に命の大切さを伝えるとしたら？」という問いに対して答える形で振り返りをした。「命」について自分なりの言葉に置き換えることにつながり、理解を深めることができた。</p>	<p>学研 新・みんなの道徳5 「電池が切れるまで」</p>
377	県西	小5	道徳	生命の尊さ 「限られた命」	<p>神経芽細胞腫と闘っていた11才の女の子が、「命が疲れたと言うまで せいっぱい生きよう」という詩「命」を書いたことを教師が伝え、児童に「命の大切さ」を改めて考えさせた。また、厚生労働省・警察庁の自ら命を絶った原因・動機統計データを紹介した。「こんなに命が近いようで遠い存在だと改めて知った」「命をより一層大事にしたい」「今までの学習で命を考えたことはあったけど、ここまで真剣に考えていなかったから大切にしたい」と振り返っていた。</p>	<p>新・みんなの道徳5 (学研) 「電池が切れるまで」</p>
378	県西	小6	道徳	生命の尊さ 「懸命に生きる」	<p>右大腿骨骨肉腫という病気になった猿渡瞳さんの病気との闘いの記録と中学2年生の弁論大会で発表した「命を見つめて」という作文にける瞳さんの強い思いが描かれている実話の資料である。瞳さんの生き方について考えることを通して、命を大切に「今」を精一杯生きようとする心情を育てよう実践した。「限りある命を懸命に生きる」ことを意識して生活している児童は少ない。しかし、瞳さんの生き方を知り、当たり前を過ごす一日・一秒の大切さについて気づいた子どもたちが多く、「今、自分が生きていることに感謝している。」「自分や家族・友だちの命の大切さに気づいた。」などの思いをもつことができた。</p>	<p>新・みんなの道徳6 (学研) 「命を見つめて」</p>
379	県西	小5	道徳	Pepperと考える 「思いやりの心と親切」	<p>Pepperの立場に立って、困りごとや手助けできることを考えるとともに、自分の身の回りの社会事象で生まれる心のバリアや葛藤について考えた。友だちの意見や思いを知り自己を見つめ直すことで、相手の立場を考えて思いやりのある行動をとろうとする心情や態度を育てることをねらいとして学習した。</p>	<p>5年担任指導 参考図書「ともに生きる社会かながわ憲章」</p>
380	県西	小1	道徳	生命の尊さ	<p>自分が体調を崩した時のことを想起した後、元気になった時の気持ちを思いだしていった。元気なことが、当たり前だと思っていたが、実は、とても幸せなことだと感じる事ができた。普段の学校生活も、大切なことだと改めて振り返ることができた。</p>	<p>新・みんなのどうとく1 (学研) 「ノンノンだいじょうぶ」</p>
381	県西	小1	道徳	生命の尊さ	<p>ある日うさぎのノンノンは体調を崩してしまい、すきなこともできなくなった。薬を飲んで体調がよくなると、今まで当たり前だったことが素敵に思えてきたという内容である。自分のこれまでの経験を想起させ、元気でいるためには、睡眠、食事、運動、手洗いうがい、体温調節、ストレス発散、必要があれば病院に行き薬をもらうことが大切だと子どもたちなりに考えた。当たり前のように感じる日常のことにも感謝したいと考える子どもがいた。</p>	<p>「ノンノンだいじょうぶ」 みんなのどうとく1ねん 学研教育みらい</p>

382	県西	小3	道徳	生命の尊さ	小児がんを患った6歳のケイコちゃんの「およめさん」という夢を両親が最期に叶えるという内容である。3年生は、絵本を読み聞かせした。子どもたちは話を聞き、命の尊さや儚さ、また家族愛にも触れ、涙を流していた。たった6歳で亡くなったケイコちゃんや大切に育ててきた娘を亡くした両親の気持ちに着目し、自分の命を大切にすることが周りの人を大切にすることに繋がると考えた。	「六さいのおよめさん」 みんなのどうとく3年 学研教育みらい
383	県西	小3	道徳	ささえられているいのち (生命の尊さ)	自分の命がたくさんの支えの中にあることを知り、命ある全てのものを大切にしようとする心情を育てたいと考えた。目の見えない子犬と主人公は出会うが、友だちの家で飼えるところはない。主人公は団地の自治会長の坂本さんに相談したが、団地の人々から良い返事はもらえない。子どもたちが一生懸命世話するのを見た坂本さんが、もう一度団地の人々に呼びかけたところ、「子どもたちが今のように世話できるなら、団地で飼ってもいい。」という声が集まった。学級での話し合いで「みんなが一生懸命御世話したから、大人の人でも子犬を飼っていいよという気持ちになれたと思う。」という意見が出され、命は一人で守れるものではないことを学んだ。	新・みんなのどうとく 3「目の見えない犬」 (学研教育みらい)
384	県西	小6	道徳	「共に生きる」	NHKニュースのキャッチボールができない君と歩んだ“9時間16分55秒”を教材化。土屋義生さんが24時間介助が必要な息子のために下した決断と、報道後に誹謗中傷にあったこと、そしてそのことに対する土屋さんの言葉をもとに、「共に生きる」ということについて考えた。	NHKニュース
385	県西	小1	道徳	生命の尊さ 「みんなあかちゃんだったよ」	生まれて三か月の赤ちゃんの写真から、今の自分の成長を振り返り、「いのちってすごいなあ」ということに気が付き、自分の成長に喜びを感じ、大切にしていこうという心情を育む。	新・みんなの道徳 (学研) 「みんな あかちゃん だったよ」
386	県西	小複合	道徳	いのちのおと	産休前の教員に協力を仰ぎ、胎児の心音を聴診器を使って聞いた。妊婦さんの大きなおなかを優しく触ったり、おなかの中の小さな命の音を聞いたりしながら命について考えた。小さく弱い命は大事にしなくてはならないと気付いたり、自分も同じように小さな命だったことを振り返ったりすることで、自分や他者の命を大切にしようという意識付けを行った。	
387	県西	小4	道徳	生命の尊さ	おばちゃんに赤ちゃんができたことを素直に喜ぶことができなかつた主人公が、自分に対する家族の愛情を知ったことで、新しい命に対する尊さを感じるようになるまでが描かれている教材である。命の大切さについて話し合うとともに、「自分がどのようにして生まれ、どのように育ってきたのか」「育ててくれた家族はどんな思いをもっていったのか」について、児童自身の経験を基に想起し、意見を出し合った。児童は命の重みを感じながら、人は支え合って生きていることや、自分の命も他人の命も皆同じように大切に、大事にしていかなければならないことを感じていた。	新・みんなの道徳4 (学研教育みらい) 「おばちゃん、がんばれ」

388	県西	小5	道徳	生命の尊さ	友だちから仲間はずれにされ、死んでしまいたいと自暴自棄になって川に来た主人公であったが、母親から自分が生まれたときの話を聞いたことで気持ちが変化した。そんな主人公の姿を通して、「生命の尊さ」に迫る教材である。児童は自分たちが家族から大切にされていると実感した体験を思い出し、自分の命はかけがえのないものだとして理解していた。また、命を大切にすることについての話し合いを通して、「人は一人では生きられないこと」「多くの支えがある中で自分が生きている」ということを考えることができた。	新・みんなの道徳5 (学研教育みらい) 「母とながめた一番星」
389	県西	小5	道徳	「いじめをなくすために」	差別をすることや偏見をもつことについて、それがなぜ間違っているのか、相手に対してどのような影響を及ぼすのかを、子ども達に考えさせた。ロールプレイングや意見交換、話し合いを通して、誰に対しても公正、公平に接することの大切さを考えた。その中で、命がたったひとつしかないかけがえのないものであることに触れ、命の尊さについて学んだ。	
390	県西	小2	道徳	生命の尊さ	生きることの素晴らしさに気づくことを通して、かけがえのない生命を大切にしようとする心情を育てることをねらいとして授業を行った。主人公が生後三ヶ月のいところを抱っこしながら考えたことや、お母さんから自分の生まれたときの話を聞いたことが描かれている話を通して、命の大切さや尊さについて考えた。さらに、教師の出産経験や子育て経験を話す時間を設けた。主人公の気持ちに共感させ、自分自身に置き換えながら想像したり考えたりすることができ、命についてじっくりと考える時間となった。	新・みんなのどうとく 「だっこしながら」
391	県西	小6	道徳	人権教育	国連NGO横浜国際人権センターの方の講話を聞いた。人権や命の大切さについて考え、DVD「国境なき医師団の愛と正義に生きる」を見て、国際理解について学んだ。 児童の振り返りでは、「相手を意識して、自分にできることを実行していきたい。」「自分一人で生きているのではない。」「今、自分たちが様々な人に支えられて生きていることに感謝したい。」など自己を見つめ直し、これからの生き方を考える有意義な時間となった。	講師：国連NGO横浜国際人権センター
392	県西	小6	道徳	「SOSの出し方を学ぼう」	心をボールに見立て、ボールがつぶれないようにストレスから自分を守る方法について考えた。ストレスを感じた時にどのようににつきあっていくのか、実際に深呼吸したり体の力を抜く体操をしたりなどの対処法（気晴らしの魔法）を学んだ。それでも対処できないときは、誰かにその気持ちを伝えることが大切であること、また、自分自身の中の「助けられ力（SOSを出せる力）」を育ててほしいことなどについて、話を伺った。	・小田原市健康づくり課主催の自殺対策事業の一つ ・講師は臨床心理士

393	県西	小3	道徳	生命の尊さ	<p>初めに「自分の命は、□の命である。」という言葉を示し、□に入る言葉を考えさせた。ある子が「家族」という発言をしたので、その理由を教科書の資料「6才のお嫁さん」を読んで考えることにした。</p> <p>最初に「お母さんが自分たちのことを大切に思っているから。」という発言が聞かれ、「家族愛」に関する視点も見られた。話し合いを進める中で「命を次の世代へつなぐ。」という発言が聞かれ、将来にも目を向ける姿が見られた。</p> <p>最後に書いた子どもたちのふり返りからは、「命」に対する見方・考え方が大きく広がっている様子を感じられた。</p>	新・みんなのどうとく (学研) 「六さいのおよめさん」
394	県西	小5	道徳	命について考えよう	<p>講師の方が当時6歳の息子さんを骨髄性白血病で亡くされたこと、ご自身ががんを克服された経験などを、写真や動画を交えながら当時のつらさや感じたことなどを話された。最後のメッセージとして「つらいことがあっても必ずその先で何か意味があること」、「つらくても、今できることをしましょう」「1日1日、一瞬一瞬を大切に生きましょう」という言葉をいただいた。命について考えることは少し難しいのではと思っていたが、子どもたちは真剣に一生懸命に耳を傾けていた。</p>	
395	県西	小5	道徳	生命の尊さ 家族愛	<p>心臓に病気を抱えた男の子が、父親やまわりの人達に支えられ、夢であった一日車掌になる話を通して、命のある限り精一杯に生きる素晴らしさと、それを見守ってくれる人々の温かさに気付く内容。夢をかなえた後、男の子が申し訳なきようにつぶやいた言葉に、父親が「そのままがいい。」と言った気持ちについて考え、産み育ててくれている家族への感謝と、授けられた命を大切にすることを育てることができた。</p>	「はしれ江ノ電ひかりのなかへ」 PHP研究所
396	県西	小2	道徳	かけがえのない命 「たからものなかに」	<p>作文の宿題について母に相談したところ、釜石での大地震のこと、その中で無事に産まれてきた主人公ときょうだい宝物だということについて話を聞くことができた。ここから、かけがえのない生命について尊重する気持ちを育む。みんなのたからものとはどういうことか、グループで話し合っ共有したり、自分の命を宝物だと感じて過ごすことができているか振り返りを行うことを通して、自分の誕生から大切に育んでもらってきた大切な宝物であるということを確認することができた。</p>	新・みんなのどうとく (学研) 「たからものなかに」
397	県西	小2	道徳	生きていること 「だっこしながら」	<p>生まれて3ヶ月の赤ちゃん自分と比べて、成長してきたことや、生きてきたこと、生きていることに感謝の気持ちを抱こうとする心情を育む。抱っこしようとする姿を想像したり、自身の子どもの頃の話や、きょうだいのお世話しているときの感想を共有していった。そこから、大切に育てられてきたことを感じるができ、自分が生きていることはすごいことなのだという気持ちをもつことができた。</p>	新・みんなのどうとく (学研) 「だっこしながら」

398	県西	小2	道徳	生きていること 「生命の尊さ」	<p>本教材は、いとこの赤ちゃんを初めて抱いたぼくが、お母さんから自分が赤ちゃんの頃の話聞き大切にされていることを感じ、いのちを大切にできているか自問する。児童に、「生まれたときの話聞きいたぼくの気持ちを考えよう。」と発問すると、「ぼくも大切にされてるんだな。」「みんなが喜んでくれたんだ、うれしいな。」「ぼくは、世界で一人の大切な存在なんだ。」と、各々「ぼく」の気持ちに寄り添い考えた。反対に「死」について、教師の体験を話した。子どもの頃、飼っていたうさぎが死んだとき、うさぎは固く冷たかった。「本当にもう二度と動かないんだ。」と、大きくショックを受けたことを話すと、児童は真剣な様子で聞いていた。</p> <p>感想には、「自分の命を大切にしたいと思った。」「生きているうちに、できることを全力でしたい。」「これからも、友だちや家族を大切にしていきたい。」など、「生きていること」について考えを深めた1時間になった。</p>	学研 新・みんなのどうとく2 「だっこしながら」
399	県西	小6	道徳	命を見つめて 「生命の尊さ」	<p>本教材を2時間扱いで行った。まず、教材文を読んだ感想を一人ひとりノートに書いた。感想を全体で共有した際には、主人公が将来の夢のため体の一部を犠牲する姿に「ここまで必死になって夢を追いかけることがぼくにはできない。」「足を失ってでもかなえたいという勇気がすごい。」などの発言があった。中には「周りで支える家族もとてもつらかったと思う。」という見方をした児童もいた。ただ「周りの人の支えがあったからこそ主人公は自分がやりたいように勇気をもって挑むことができた。」と話合っていくうちに気づくことができた。こういった限られた命を一生懸命生きる主人公の姿にふれられたことで、学習の最後には「生きていることが幸せだから、毎日幸せを感じて生きていこう。」「勉強や習い事などすぐに諦めるのではなく、何度失敗しても悔いの無いように立ち向かっていきたい。」などこれからの自分の生き方をよりよくするために大切にしたいことを一生懸命考え、語っていた。</p>	学研 新・みんなの道徳6 「命を見つめて」
400	県西	小2	道徳	生命の尊さ	<p>教材から、命が受け継がれていることや、自分の命のかけがえのなさに気づくことができた。命がずっと昔から受け継がれていることを具体的に板書して伝え、子ども達は、ご先祖様が本当にたくさんいることに驚きながら理解し、その命のバトンを自分が受け取ったことを理解することができた。</p>	新・みんなの道徳 「ぴよちゃんとひまわり」
401	県西	小5	道徳	二十分間の出来事	<p>東日本大震災が発生したとき、迫り来る大津波から電車の乗客全員の避難に力を尽くした二人の巡査がいた。本教材では東日本大震災での出来事を通して、かけがえのない命を守るについて考え、自他共に命を大切にしていこうとすることをねらいとした。本時では、巡査たちが大切にすることを話し合った。誰一人見捨てることなく守ろうとする巡査たちの姿から、かけがえのない命を守るについての考えを深めることができた。</p>	学研「みんなの道徳」 (5年生) 「二十分間の出来事」

402	県西	小4	道徳	大切な命「バルバオの木」	<p>厳しい環境の中で生きていたバルバオの木が、そこに集まってくる鳥やシカ、ゾウのためにと、自分の実や葉、幹を食べさせた姿から、どうしてそのような行動をとったのか考えた。自分を犠牲にしても他の命を助けたいという思いだけでなく、生命が受け継がれていくことについての感じ方を深めることができた。食べるということは命をいただいているということに気付き、生きていくためには食べなくてはいけないから、大事に食べたいという考えをもった児童が多くいた。</p>	東京書籍 新しいどうとく4
403	県西	小6	道徳	生命の尊重 「命の重さはみな同じ」	<p>動物の保護施設に一匹の子犬が捨てられていた。子犬は大けがをしていて獣医は安楽死をすすめるが、代表者の方は「命をつないでください」と必死に訴える。大手術の末、命を取りとめた子犬。人間の命も動物の命も同じで、どのような生命に対しても誠実に向き合い、生きることの尊さについて話し合った。また、話し合いが進むと全ての命が大切なことを理解した上で、なぜ安楽死という選択ができるのかについても話し合った。一つしかない命を全力で生きるすばらしさを考えることができていた。</p>	東京書籍 新しい道徳
404	県西	小3	道徳	命を大切に 「いただいたい のち」	<p>道徳の資料をもとに、血液のガンになった主人公と母の思い、クラスの友だちの思いに触れながら、命の大切さについて考えた。主人公の母が周囲の人が助けてくれたことに感謝していることを主人公に伝え、命の尊さ、助け合って生きていることの大切さについて考えた。児童からは、元気になってよかった、自分も助け合って生きていきたいという意見が出された。</p>	東京書籍 新しい道徳
405	県西	小1	道徳	生命の尊さ	<p>交通事故の場面を通して、命の危険は身近にあることや命の大切さなどについて話し合うことができた。また、自分の命は自分一人だけのものではなく、家族や周りの人に支えられているものだと感じ、より大切にしようと考えられることもできた。</p>	東京書籍 新訂 あたらしいどうとく① 「いのちがあってよ かった」
406	県西	小2	道徳	生命の尊さ	<p>育児休業中の昨年度の担任とオンラインで直接話をするすることで、生まれてきた小さく、かけがえのない命に対する家族の喜びや愛情を理解し、生命を大切にしようとする心情を育てた。自分が生まれたときの家族の様子を考えさせ、自分も家族や周りの人たちに待ち望まれて生まれてきたことに気付けるようにした。</p>	
407	県西	小1	道徳	生命の尊さ	<p>導入では、「どんな時に生きていることを感じられるか。」について話し合った。「心臓の音を聞いた時。」「身体の温かさを感じられる時。」などの意見があがった。教材文を読みながら、事故や入院の大変さや家族が心配してくれたことに重点を置いて話し合いを行うことで、家族の深い愛情に気付くとともに、命を大切にしなければいけないという気持ちをもつことができた。</p>	東京書籍1年 あたらしいどうとく 「いのちがあってよ かった」

408	県西	小複合	道徳	生命の尊さ	<p>本校では道徳の授業において、全学年が同月に同じ価値項目で実践し、その様子を保護者に発信する取組を行ってきた。その中で、1月にはいのちの授業の一環として「生命の尊さ」を取り上げ、実践した。一例として、2年生では教材を読み、話し合うことを通して、普段大好きな人と過ごすこと、大好きなものを食べることを、好きなことをすることができるのは、自分が「生きているから」であると気づくことができた。また多くの人が命をつないできたことで、自分が生まれ生きていることを再確認し、命の尊さを学んだ。授業の最後には、毎日「生きる」ために、自分の命や友だちの命、そして周りのたくさんのものの命を大切にしようとする子どもの意欲が見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年において実施（例として小2） ・東京書籍『あたらしいどうとく』『ぼく』
409	県西	小6	道徳	お母さんへの手紙	<p>この時間の内容項目は「生命の尊さ」であり、重い心臓病で亡くなった主人公が、母親に書き残した手紙を題材にしたものである。児童は、主人公と母親の強い絆は楽しいことも辛いことも共に過ごした日々の中で生まれたのではないかと、母親は丈夫に産んであげられなかったことで罪悪感をもっていたのではないかなど、「生きる」ことについて多面的に考えていた。「寄り添うことが強く生きるための力になる」、「いのちは一本の細い糸のよう。他の糸と絡むことで頑丈になる。」など、振り返りの内容から、児童が「いのち」について深く捉えていることを感じた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 東京書籍『新しい道徳』 「お母さんへの手紙」
410	県西	小3	道徳	「未来へのメッセージ」～「誰か」のことじゃない	<p>広島と長崎に落とされた原子爆弾の恐ろしさがわかる動画や神奈川の被爆者の体験の話の映像を視聴した。国語「ちいちゃんのかげおくり」で、戦争時代を生きる子どもの気持ちを考えたりつらさを想像したりしていたが、さらに悲惨さを感じていた。話し合いでは「今ふつうの生活ができていることが幸せ」「これからの生活の一秒一秒を大切にしよう」などの意見もあった。今現在のウクライナ情勢について「今現在のことであり、みんなと同じ子どもも苦しんでいる」と話し「自分だったらつらくて生きられない」などと、自分ごととして考えることができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 参考資料「未来へのメッセージ」（被爆体験を語り継ぐプロジェクト実行委員会製作DVD）
411	県西	小4	道徳	バルバオの木	<p>登場人物の心情を考えることを通して、生きることと食べることをつなぐについて話し合った。私たち生命あるものは互いに支え合って生きている。また、自分の生命は受け継いだ生命であり、次世代とつながっていくことに気づくこともできた。そして、生命あるものをいただいて生かされていること考え、改めて「いただきます」の言葉の意味について考えを深め、これからの生活に生かしていくことを学習した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新しい道徳「東京書籍」
412	県西	小6	道徳	生命の尊重 「命の重さはみんな同じ」	<p>教材では、動物保護施設代表の甲斐さんが大けがをしている子犬を動物病院に連れていき、手術をするようお願いするが、獣医が手術よりも安楽死させた方がよいのではないかと提案する。その場面を取り上げ、自分が獣医だったらどうするかを考え、話し合った。安楽死をさせるべきと考える児童やどちらか悩む児童もいたが、人間だったら安楽死をさせないのだから犬も同じように助けるべきだという考えから、どんな生き物でも授かった命を大切にすべきだとまとめた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新しい道徳「東京書籍」

413	県西	小1	道徳	生命の尊さ 「どきどきどっ きんぐ」	「抱いたうさぎと自分の心臓の鼓動が重なった感動を、早く母親に伝えたい『わたし』が玄関先で転んで母親に抱きしめられたときに、自分と母親の鼓動を感じて命の大切さに気づく。」という教材を読み、これまで「命は大切に」という言葉だけ知っていた子が自分の脈を体のいろいろな部分を触って感じたり、友だちの手首の脈を触ったりすることで「同じだ」「あったかい」と実感を伴って「命」に触れることができた。学習のあと「家に帰って、家の人とぎゅうってしてどきどきしているかたしかめてみたい。」と感想が言えたり、ワークシートに書いたりできる子が多かった。	<ul style="list-style-type: none"> ・学級担任による授業 ・東京書籍「新しい道徳」1年 ・挿絵、ワークシート使用
414	県西	小2	道徳	いのち	事前に、自分が生まれたときの様子について、保護者にインタビューした。それをもとに、自分が生まれたときの様子をみんなで伝え合うことを通じて、誕生を心待ちにされたかけがえのない大切な命であることを知ることができた。本文では、40日も保育器に入り病院に通い続けた母の気持ちを考えることで、親の子どもに対する思いを想像することができた。親の思いから、自分や自分以外の人の命を大切にしていける理由をしっかりと考えることができた。	<p>東京書籍 新しいどうとく 「たんじょう日」</p> <p>指導は各担任</p>
415	県西	小3	道徳	大切な命	本学級では、身近な人が亡くなるという経験のある児童は少なかったが、年末年始に祖父母と過ごした児童も多く、自分事として考える姿が見られた。本教材では、祖父母が津波によって命を落としてしまう。児童は、「祖父母と過ごした日々はもう戻らない」「今を大切にしないといけない」ということに気づき、前向きに一生懸命生きることの大切さを感じる事ができた。	<p>東京書籍 新しいどうとく 「おじいちゃん、おばあちゃん、みていてね」</p>
416	県西	小5	道徳	限られた命 「電池が切れるまで」	道徳の教材「電池が切れるまで」は、神経芽細胞腫という難病を患い、11歳で亡くなった少女の話である。少女が入院中に院内学級で書き留めていた文書を通して、自分の命がかけがえのないものであることや、命を粗末にせず生きることの大切さを感じることのできる教材である。児童は少女の生き方について触れ、自分や周囲の人々、動植物の命について考えを深めた。「不自由のない自分の生活が幸せなことだ」、「自分が当たり前に行っていることを、やりたくてもできない人がいる」、「飼っている生きものの命も大切にしたい」など、さまざまな視点で、命の大切さについて振り返った。本教材の文書は書籍からの引用もあり、その書籍も紹介することで、さらに理解を深めた。	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教科書学研「電池が切れるまで」 ・角川書店「電池が切れるまで」 ・学級担任
417	県西	小6	道徳	受け継がれる命 「“あなたの命”とは」	命の大切さについては、これまでに多く学習をしているものの、「自分の命について考えたことはあまりない」と回答した児童が多かった。そこで、授業者の家庭に今年誕生した子どもの様子を取り上げ、自分の命とはどのようなものか問いかけた。児童は、生まれた時の感情を考える際は、「うれしい」や「元気で安心」という気持ちもある一方で、子育てに対する不安や忙しさもあることを知った。児童は、「私の親も同じように育ててくれていたと思うと感謝したい。」、「周りの人が大切に思ってくれている自分の命を、自分も大切にしたい。」などと振り返っていた。	

418	県西	小4	道徳	「わたしのいのち」	道徳の時間に「わたしのいのち」という教材を使って、自分の命について考えた。自分が命を宿すまでに、どれだけの人に関わってきたのかを具体的に考えた。自分の命だけでなく、家族や友だちの命についても考えることができた。	新・みんなの道徳（学研） 「わたしのいのち」
-----	----	----	----	-----------	---	---------------------------